

熊本大学 理学部
における組織評価
自己評価書

平成 26 年 9 月 30 日
4. 理学部

目次

I 熊本大学理学部の現況及び特徴	2
II 教育の領域に関する自己評価書	5
1. 教育の目的と特徴	6
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	8
3. 観点ごとの分析及び判定	8
4. 質の向上度の分析及び判定	82
III 社会貢献の領域に関する自己評価書	83
1. 社会貢献の目的と特徴	84
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	84
3. 観点ごとの分析及び判定	85
4. 質の向上度の分析及び判定	103
IV 国際化の領域に関する自己評価書	104
1. 国際化の目的と特徴	105
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	106
3. 観点ごとの分析及び判定	106
4. 質の向上度の分析及び判定	111
V 男女共同参画に関する自己評価書	112
1. 男女共同参画の目的と特徴	113
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	113
3. 観点ごとの分析及び判定	113
4. 質の向上度の分析及び判定	114
VI 管理運営に関する自己評価書	115
1. 管理運営の目的と特徴	116
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	117
3. 観点ごとの分析及び判定	117
4. 質の向上度の分析及び判定	148

I 熊本大学理学部の現況及び特徴

1 現況

- (1) 学部等名：熊本大学理学部
 (2) 学生数及び教員数（平成 26 年 5 月 1 日現在）
 : 学生数 829 人、専任教員数（現員数）：80 人（72 人）、助手数（0 人）

※ 教員数の中に下記の教員を含む

- 沿岸域環境科学教育研究センターの理学系の専任の教員 4 人
 パルスパワー科学研究所所属の理学部併任教員 2 人
 大学院先導機構所属の理学部併任教員 2 人

2 特徴

熊本大学理学部は、昭和 24 年 5 月に第五高等学校理科及び熊本工業専門学校の一部を母体として創設された。創設当初は、数学科、物理学科、化学科、地学科、生物学科の 5 学科でスタートした。その後、表 I - 1 の沿革で示すように、改組によって、増設や拡充をおこない、平成 9 年 4 月から 6 学科（数理科学、物理科学、物質化学、地球科学、生物科学、環境理学）となった。

国立大学が国立大学法人に設置形態を変更する平成 16 年 4 月と同じ時期に、理学部もそれまでの 6 学科を理学科 1 学科に統合改組した。また、平成 18 年 4 月の大学院重点化に伴い、教員の所属は自然科学研究科に配置換となった。

表 I - 1 沿革

1949年(昭和24) 5月	理学部(数学科、物理学科、化学科、地学科、生物学科)が第五高等学校理科及び熊本工業専門学校の一部を母体として創設
1954年(昭和29) 3月	理学部化学教室(木造平屋建)が竣工
同 年 4月	附属臨海実験所が設置
1955年(昭和30) 4月	附属臨海実験所採集船「まえしま」が新造
同 年 7月	理学専攻科が設置
1960年(昭和35) 3月	理学部実験研究棟(1号館鉄筋3階建)が竣工
1966年(昭和41) 4月	大学院理学研究科修士課程が設置
同 上	生物学科が拡充改組
同 年 10月	天皇、皇后両陛下が附属臨海実験所に行幸啓
1968年(昭和43) 2月	附属臨海実験所採集船「どるふいん」が新造
1968年(昭和43) 12月	理学部実験研究棟(2号館鉄筋3,4階建)が竣工
1969年(昭和44) 5月	地学科が講座増設
同 上	生物学科が拡充改組
1972年(昭和47) 2月	附属臨海実験所実験研究棟(鉄筋3階建)が竣工
1976年(昭和51) 4月	地学科が講座増設
1977年(昭和52) 3月	理学部実験研究棟(3号館鉄筋4階建)が竣工
1980年(昭和55) 4月	数学科が講座増設
1984年(昭和59) 3月	学内共同利用極低温装置室が開設
1988年(昭和63) 4月	大学院自然科学研究科博士課程が設置
1989年(平成元) 3月	附属臨海実験所採集船「ドルフィンII世」が新造
1990年(平成2) 4月	生物学科が生物科学科に改組
1991年(平成3) 4月	生物科学科が講座増設
1993年(平成5) 4月	地学科が地球科学科に改組、講座増設
同 年 9月	理学部実験研究棟(4号館鉄筋4階建)が竣工
1996年(平成8) 6月	附属臨海実験所研究実習棟(鉄筋2階建)が竣工
1997年(平成9) 4月	環境理学科が新設

同	上	数学科が数理科学科に、物理学科が物理科学科に、化学科が物質化学科に改称
1999年(平成11)	4月	極低温装置室などが衝撃・極限環境研究センターに改組
2000年(平成12)	5月	自然科学研究科・理学部総合研究実験棟(9階建)が竣工
2001年(平成13)	4月	附属臨海実験所が沿岸域環境科学教育研究センターに改組
2004年(平成16)	4月	6学科が理学科に統合改組
2006年(平成18)	4月	大学院重点化に伴い教員が自然科学研究科に配置換

理学部の Web ページ (<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/about/history.html>) より転載

3 組織の目的

理学部の役割は、基礎科学の教育研究を通して、学問を深化させるとともに、未来を切り拓いていく人材を育成して、地域及び国際社会に貢献することである。

本学部においても、発足以来、理学教育研究の府として、我が国の学術、科学技術の発展並びに文化の創造に寄与してきた。加えて、産業界、教育界はじめ各界の各分野に対しても有能な人材を輩出してきた。しかし、近年の科学技術の急速な発展により、従来型の狭い学問体系では対応できない新たな課題や深刻な問題が現れ始めている。それらの諸課題に叡智をもって迅速に対応できる有為な人材を将来にわたって育成してゆくことは、我が国が科学技術立国たりうるための最優先課題であり、本学部の重要な使命である。

一方、硬直化した旧来の教育カリキュラムは、グローバル化していく社会に必要な人材育成に十分に対応できているとは言い難く、社会ニーズに応える新たな教育システムの構築は喫緊の課題であると同時に天然資源に恵まれない我国の国益にも資するものである。

このような状況のもと、平成 16 年度に従来の 6 学科から理学科（1 学科）に改組し、多様化する社会に柔軟に対応でき、総合的科学的力を有し、自ら考えることのできる人材を将来にわたって養成するための教育システムを全国に先駆けて導入した。

理学部にあっては教育と研究は表裏一体の関係にあり、以下に示す本学部の基本理念のもと、人類の叡智あるいは文化として蓄積されるべき自然科学の基礎的成果を追及するとともに、最先端の研究成果を教育に反映させて、

- ・自然科学に関して広くバランスのとれた知識・技術・思考法を身につけた、有能な人材
- ・社会に出てからも新しいさまざまな課題に積極的に立ち向かうことのできる人材
- ・理学のスペシャリストをめざし、進学を志す、学修意欲の高い人材

の育成を目指すことが、本学理学部の教育・研究の目標である。

理学部の基本理念

本学部は基礎科学を考究する学部です。この基礎科学は自然の仕組みを解明したいという人間本来の知的欲求から出発する学問であり、やがては将来の科学技術に発展するものもあり、それらの成果は人類の英知あるいは文化として蓄積されるものです。

そのために本学部では学生がいろいろなことに積極的に関与し課題を見つけ、それらを解決する方法を探求できること、また、それらの結果を人類の幸せのために利用できることを教育の目的とします。

さらに、本学部での教育は学部・学科を越えて、できるだけ幅広く履修し、大学院で研究ができる基礎を作るように指導します。

上述してきた、熊本大学理学部の基本理念等に関しては、理学部の Web ページ (<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/about/aim.html>) や学生便覧、学生募集要項に掲載されており、広く公表されている。

Ⅱ 教育の領域に関する自己評価書

1. 教育の目的と特徴

一学科制のメリットを生かし、理学全般を幅広く学修できる独自の教育カリキュラムを通して、理学分野における確かな基礎学力に裏付けされた専門知識を身に付けさせることにより理学士の質を保証し、学生の主体的な活動を通して人間力・協調性を養い国際的な視野と感性を有する人材の育成を目的とする。

上記の目的を達成するために、以下の目標を設定した。

1. 理学に対する幅広い知識を有し、豊かな創造性を併せ持つ人材の養成。
2. 理学のジェネラリストとしての特色を活かして、他の研究領域、応用分野（例えば、医学や法学）等のいかなる社会環境にも対応できる人材の養成。
3. 理学のスペシャリストとして、国際的に通用する能力を有し、科学立国及び地域文化の創造に貢献する人材の養成。

そのために以下の取り組みを行った。

入学時

教育目標に合わせたアドミッションポリシーを挙げ、一括入試により学生は全て理学科に入学する。

前期学士課程（1，2年次）

理学全般の基礎を修得させ、学生の希望する専門領域の選択に時間と情報を充分与える。

1年次後期から、3名の学生に対して教員1名をチューターとして配置し、コース選択も含めた細かい履修指導を行っている。3年次進級時に、学生の希望により、数学、物理学、化学、地球環境科学、生物学の各コースから1つを選択させる。

後期学士課程（3，4年次）

期待される理学士像に沿った各コースの科目相関を明示した履修モデル^{*}を提示することで、より専門的な知識の系統的な学修の機会を担保している。さらに4年次への進級要件をクリアした学生にのみ卒業研究の着手を認めるなど、理学士としての専門性と創造性を考慮した教育プログラムを提供している。

^{*}各コースではカリキュラムポリシーに沿った到達目標（就職、進学などの方向性も含めて）を履修モデルとともに提示している。学生は履修モデルを参考に履修計画を立てる。また、分野横断的に授業科目を配置するなど、工夫を凝らした教育カリキュラムの設定がなされている。

[想定する関係者とその期待]

9割以上が九州地区からの入学者であり、さらに入学者の約半数が大学院に進学することから、九州地区の理科数学教育における機会均等を保証するとともに、ジェネラリストとして自然科学分野を俯瞰できる能力とスペシャリストとして専門性を特化できる能力とともに涵養することを本学部の使命としている。

入学後の不登校や休・退学の原因の一つとして専門とのミスマッチが挙げられているが、これは高等教育における学問としての専門分野とその分野に関係する初等・中等教育における科目教育との違いに拠るところが大きいと考えられる。自然科学の様々な分野の基礎を学んだ後に専門を自由に選択できることは本学部の大きな利点といえる。実際、約7割の学生が入学後に専門を決定していることや、約4割が入学時の希望とは異なる専門を選んでいる点からもそれは覗える。

また、自然科学の分野は相互に有機的かつ密接に関係しており、現代社会が直面する多くの課題を解決するためには幅広い知識だけでなくそれらを相互に結び付ける専門性の深さが不可欠である。自然科学の基礎の上に確かな専門性を積み上げることは、本学部卒業

生に対する社会からの要請と受け止めている。

このような現状を踏まえ、主たるステークホルダーとして、九州管内のサービス関連企業関係者や公立・私立高校の教育関係者が想定される。卒業後の進路も一学科制移行のあと徐々に多様化してきた。その背景に、大学を取り巻く種々の社会環境の変化、とりわけ、グローバル化による国際社会の変化に柔軟に対応できる人間力あるグローバル人材の育成が急務になってきた事があげられる。一学科制による教育システムがもたらす幅広い理系人材の育成は、このような地域社会の期待に応えうるものである。加えて、前身である旧制第五高等学校以来の学問を重んじる伝統と剛毅木訥の気風を受け継いでいるというイメージが九州地区だけでなく、全国的にも定着しており、国内外の社会で通用する気骨ある人材育成への期待感も高まっている。さらに、改組して10年が経ち、固有の教育プログラムも広く社会に受け入れられ、構成員の地道な活動による安定した入学者の確保と卒業生の進路から保護者や教育関係者、地域社会に対して安心感と期待感を与えている。

このような背景のもと、本学部の人材育成に対する期待を以下のように捉えている。

- 1) 理学のジェネラリストとして理学全般に対する基礎学力及び教養力
- 2) 理学の各分野のスペシャリストに必要な専門知識とその運用能力
- 3) 学生主体のコース選択制に伴う自己実現能力
- 4) 九州人の持つ明るさや協調性及び旧制五高以来の気風を備えた人間力
- 5) いかなる環境下においてもグローバルにもものを考えながら集中的にローカルアクトできる行動力

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

平成 22 年一学科制に移行後最初の修士課程修了者が出た際に 6 年一貫教育の見直しを行い、理学修士像と理学士像を差別化した。それに基づき各分野の教育プログラムを構築している点は大きな特徴であり、強みでもある。更に 2 年次までの共通教育における前期学士力とその後の各コースでの教育における後期学士力を区別し、それぞれに教育の目的・目標を設定することで到達度の検証と見直しが迅速かつ柔軟にできる体制を取っている。一括入試による学生選抜と定員を設けない自己実現型コース選択及び教育プログラムに基づく一学科制の優れた点として以下が挙げられる。

- ① 数学・理科の各分野の基礎及び専門的教養の修得（前期学士力の涵養）
- ② 専門分野決定のミスマッチを防止する教育システム
- ③ 進級基準や卒業要件を課すなど卒業生の質保証に重点を置いたカリキュラム改革
- ④ きめ細かい指導（学部長面談、クラス担任、チューター制度等）
- ⑤ 学問分野の壁を越えた人的交流と学生と教員の専門にとらわれない意識のボーダーレス化

【改善を要する点】

10 年間で本学部理学科一学科制としての教育目的・目標、入学者選抜方針、及び、学位授与方針は、その周知を含め想定される関係者の期待に込められている状況にあると判断される。一方、理学士の質保証に関する評価方針については、他と比べ教員内の共通認識の構築や学生への周知を含め遅れている。また、一学科が発足した当時とは比較にならない速さで国際社会のボーダーレス化が進み、グローバルな視野を持って活躍できる人材養成が大学に求められている。このような状況下、社会要請に応え得る人材育成には一学科制教育システムは非常に有利であり、更に検討すべき点は以下の 3 点に集約される。

- 卒業生の教育の質保証
- 新学習指導要領に則した教育内容の見直し検討
- 学修意欲をより向上させる教育制度等の検討

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

（観点到に係る状況）

一括入試と定員を設けない専門コース選択が可能な一学科制を敷いて 10 年が経過した。この間、教育理念・目標を達成し、理科と数学の基本的な領域を余すことなく網羅する教員配置を常に意識した人事を行っており、現在、学部教育を担当する構成員の数、研究分野は資料 A-I-1-1-1 の通りである。前回の組織評価において「その構成は適切である」と判断されたが、その後、定員削減が行われた（資料 A-I-1-1-2）ものの、現有定員は大学設置基準を満たしており（資料 A-I-1-1-3）、教育の実施体制上問題はない。さらに、学内センターや研究所等に所属の教員も兼任するなど多様な人材の確保に努めている。（資料 A-I-1-1-4）また、実験、実習や演習を伴う授業については、平成 25 年度では大学院生 149 人、5,138 時間をティーチングアシスタント（TA）とし採用し、授業内容の定着を図っている。（資料 A-I-1-1-5）

全学における教養教育の実施にあたっては、理学部は大きな役割を果たしている。教養教育の改革により、平成 23 年度から開講科目のスリム化が行われ、担当講義数が減少す

ることとなったが、平成19年度と比較して担当講義数の全学に占める割合はむしろ上昇している。(資料A-I-1-1-6)

昨今、数学・理科の専門及び教養教育の重要性が増していることより、将来的には教員資源の再配分などの措置により、大学全体で安定した理学教育を保證する必要がある。

平成19年度より行っていた推薦入試は、アドミッションポリシー(資料A-I-1-1-7)に合致した受験生が減少したため平成26年度入試から廃止した。さらに、近年のグローバル化の加速による英語教育の重要性の増加を考慮し、平成27年度入試より数学・理科の2教科3科目に加え英語を課すことを決定し、全科目の配点を見直した。(資料A-I-1-1-8)

学部長室の指示のもと、運営会議、教務委員会及びFD委員会が中心となって、種々の取り組みを継続している。「授業参観」は独自の取り組みであり、平成15年度より継続実施している。これまで、多くの教員が授業参観に参加し、参加者の意見を担当教員に伝えるだけでなく、終了後の意見交換会を通して優れた点を授業改善に生かすなど教員の教育能力の向上に努めている。(資料A-I-1-1-9)更に、科目担当教員には年度末に全学で実施している授業改善のためのアンケート等をもとにした授業実施報告書の提出を義務付け、授業改善できるよう取り組んでいる。(資料A-I-1-1-10)今後、これらの取り組みに対する効果の検証が必要である。

理学科発足時に、卒業研究に当たる科目として「特別演習」(選択)を設定した。卒業生の質保証の観点から平成22年度入学生より「卒業研究」として必修化すると同時に履修要件を設定した。(資料A-I-1-1-11)この変更により、実質的に卒業研究が卒業試験の代替となり、卒業生の質保証を可能とした。しかし、制度上卒業研究に着手できない4年生が最終学年の学生と同列に扱われてしまうことが教育指導上の問題として残ったため、平成26年度入学生より4年次への進級要件を設定することにした。(資料A-I-1-1-12)また、シラバスの実質化を図るためシラバスチェックを行い、修正を求める取り組みを行っている。(資料A-I-1-1-13)しかし、厳格な成績評価との関連付けについては未だ実施には至っていない。英文による卒業研究の概要の提出を義務付けることにより、英語運用能力の向上を図っている。

初年次の理科教育においては、高校における理科4科目の履修状況を考慮した既履修、未履修によるクラス編成を行っている。平成22年度入学生より、数学2科目において、後期に到達度別クラス編成による学力不足学生への対応を始め、効果が上がっている。(資料A-I-1-1-14)更に、学生の向上心やモチベーションを高めるため、難易度別のクラス編成を行い、学生に選ばせている。

(中期計画番号K1～K32)

資料A-I-1-1-1 理学部の収容定員及び教員数(平成26年5月1日現在)

講座	収容定員	教授	准教授	講師	助教	計
数理科学	760	7(0)	6(0)	1(0)		14(0)
物理科学		6(0)	3(0)			9(0)
化学		8(0)	5(0)		3(0)	16(0)
地球環境科学		7(0)	6(1)		2(2)	15(3)
生命科学		7(1)	7(1)	1(0)	3(0)	18(2)
計	760	35(1)	27(2)	2(0)	8(2)	72(5)

括弧内は女性(内数)

[出典：理学系教員等名簿]

資料 A-I-1-1-2

理学部の収容定員及び教員数の平成19年5月1日からの増減数

講座	収容定員	教授	准教授	講師	助教	計
数理科学	0	▲2	2	▲1	▲1	▲2
物理科学		▲1	▲1	—	▲1	▲3
化学		2	0	—	▲1	1
地球環境科学		1	0	▲1	1	1
生命科学		▲3	0	0	▲1	▲4
計	0	▲3	1	▲2	▲3	▲7

[出典：平成19年の組織評価自己評価書をもとに作成]

資料 A-I-1-1-3

大学設置基準上の専任教員数と現員教員数（平成26年5月1日現在）

学部・学科	収容定員	専任教員数 (大学設置基準)	専任教員数（現員）	
			教員	うち教授
理学部・理学科	760	17	72	35

[出典：熊本大学データ集]

資料 A-I-1-1-4 他部局所属の教員数（平成26年5月1日現在）

部局	教授	准教授	講師	助教	計
沿岸域環境科学教育研究センター	2	2			4
パルスパワー科学研究所	1	1			2
大学院先導機構		2			2
計	3	5			8

[出典：理学系教員等名簿]

資料 A-I-1-1-5 TAの採用人数と時間数の推移（平成21～25年度）

年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
採用人数（人）	170	167	147	156	149
総時間数（時間）	4,602	4,662	5,380	5,549	5,138

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-1-6 平成 25 年度における専任教員の教養教育の担当講義数

分野	基礎セミナー	教養科目（理系）	理系基礎科目		計
			講義科目	実験科目	
数学	21	2	27		
物理学		2	7	6	
化学		7	6	6	
地学		4	6	6	
生物学		7	4	6	
計	21	22	50	24	117
全学開講数	97	26	65	24	212
割合	21.6 (21.6)	84.6 (78.9)	76.9 (76.3)	100 (100)	55.2

括弧内は平成 19 年度のデータ

[出典：教務委員会調査]

資料 A-I-1-1-7 理学部アドミッションポリシー

理学部アドミッションポリシー

理学部

数学と理科の各分野に対し幅広い興味と理解を有し、自然科学の諸課題に対し意欲的にチャレンジでき、多角的な視点から忍耐強く真理探究のできる次のような人を求めています。

- 1.物事の本質を見極めたいという強い意志を持った人
- 2.論理的思考ができる人
- 3.豊かな感性と洞察力を有する人
- 4.野外調査や長時間に及ぶ実験等に対し、忍耐強く取り組める人
- 5.広い視野をもち、応用力、実践力のある人
- 6.わが国の理学研究の発展に貢献したいという意志をもった人
- 7.複数の学問にまたがる学問領域にも失敗を恐れず果敢に挑戦できる人
- 8.国際的に活躍する意欲のある人

理学部では、数学と理科に関して、以下の内容を入学時点で習得しておくことを希望します。

数学

数学 I、数学 II、数学 III、数学 A、数学 B（「数列」及び「ベクトル」）及び数学 C（「行列とその応用」

及び「式と曲線」）について、個々の項目の内容をよく理解し、知識と技能を十分身につけておくこと。

項目間のつながりを意識し、数学的思考方法を習得しておくこと。また、数学のみならず理科においても、数学的に考察し処理する能力を身につけておくこと。

理科

物理 I 及び II、化学 I 及び II、地学 I 及び II、生物 I 及び II、地学基礎及び地学から 2 教科以上を習得しておくこと。

事物や自然現象についての観察、実験などを行い、自然や科学に対する関心や探究心を高め、探究する能力と態度を身につけておくこと。基本的な概念や原理・法則を理解して、科学的な自然観を養っておくこと。

[出典：熊本大学ホームページ]

資料 A - I - 1 - 1 - 8 入試制度の変遷

年度	変更点	変更前	変更後	備考
H19	後期日程個別学力検査	2教科5科目計10題より2題選択	2教科5科目より2科目選択	1学科制のアドミッションポリシーに沿った入試により近づけるため
	推薦入試		新規導入	コミュニケーション能力にすぐれ、学年のリーダーとなれる優秀な学生を選抜するため
	3年次編入学試験		廃止	理学科の教育カリキュラムに対応することが困難であることなど
H20	推薦入試定員	10名	15名	
H26	推薦入試		廃止	※ 参照
H27	前期日程個別学力検査教科	数学, 理科	数学, 理科, 外国語	国際性の観点をより明確にするため、平成25年度に決定した。同時に、大学入試センター試験も含めて配点を見直した。
	前期日程大学入試センター試験の配点	国語 100, 社会 50, 数学 100, 理科 100, 外国語 200	国語 100, 社会 50, 数学 100, 理科 100, 外国語 100	
	前期日程個別学力検査配点	数学 300, 理科 300	数学 200, 理科 200, 外国語 100	

※ 推薦入試で入学した学生に対して追跡調査（成績等および卒業時の指導教員への聞き取り）を実施した。その結果、指導教員からは、コミュニケーション能力やリーダー制などに関しては高い評価を得られ、推薦入試導入時に想定した特色ある学生を選抜できていることがわかった。しかし、一方で、英語能力に欠ける点が指摘されたり、全般的に成績が悪く途中退学した学生も数人いた。成績に関しては高校からの評定値などが判断基準であり、高校からの推薦だけからでは大学入学後の学力を担保することが難しいことがわかった。大学入試センター試験を課す等の入試方法の変更も検討したが、一般入試と異なる特徴ある学生を選抜するのが難しくなることが予想された。現在の推薦入試方式では、総合的能力を的確に判断することが困難であり、平成26年度入試より推薦入試を実施しないこととした。

[出典：入学者選抜要項]

資料 A - I - 1 - 1 - 9 授業参観案内

<p>理学系教員各位</p> <p style="text-align: center;">理学部 FD 委員長 高野 博嘉</p> <p>日ごろより、FD 活動にご協力頂き感謝いたします。</p> <p>今年度も前回と同様に、自らの講義の参考になるような、学生から高い評価を得ている授業について参観を企画いたしました。</p> <p>今年度後期は、地球環境科学と生命科学の2名の先生がお引き受け下さいました。</p> <p>詳細は次のとおりですのでお知らせ致します。</p> <p>生命科学</p> <p>授業参観の科目：展開科目（3年次）「分子遺伝学」、谷 時雄先生、火 1 限 授業参観の実施日：平成 24 年 11 月 6 日（火） 8 時 40 分～10 時 10 分 場所：理学部 3 号館 D201 講義室</p> <p>地球環境科学</p> <p>授業参観の科目：共通科目（2年次）「基礎地球物質科学」、長谷中 利昭先生、木 4 限 授業参観の実施日：平成 24 年 11 月 8 日（木） 14 時 30 分～16 時 00 分 場所：理学部 2 号館 C329 講義室</p> <p>これまでと同様に、授業参観を希望される先生方には、事前に資料等を配信致します。10月29日(月)までに、参観希望の授業名とともに、タイトルを授業参観希望としたメールを高野(takano@kumamoto-u.ac.jp)までお送り下さい。</p> <p>また、授業参観後に、授業担当者と参観者との意見交換会を行いたいと考えています。授業参観に出席された先生方におかれましては、意見交換会にも出席頂けると幸いです。よろしく願い致します。</p> <p>高野 博嘉</p>
--

[出典：FD 委員長からの案内メール]

資料 A - I - 1 - 1 - 10 授業実施報告（書式）

<p>「平成 24 (2012) 年度後学期授業実施報告書」</p>
<p>授業科目名：○○○○</p> <p>時間割コード：</p> <p>担当教員：○○ □□</p> <p>実施年度，学期，曜日，時限：2012 年度，後学期，○曜，△限</p>
<p>1. 実施状況</p> <p>(実際に行った授業内容を、シラバスに記載の「授業目標」「授業内容」に対応させて記載する.)</p> <p>例：シラバスに記載の通りの授業内容を実施した。</p> <p>例：授業内容の項目のうち、「7.6. 3 変数関数の積分」は時間が足りずに講義できなかった。</p> <p>例：台風で講義が中止となったため補講を行った。</p> <p>例：多変数関数の微分積分について理解させ応用能力をつけることを目標としていたが、理解させるために例題の説明に多くの時間を割いたため、演習に充てる時間が少なくなり、計算練習が十分ではなかった。</p>
<p>2. 授業改善のためのアンケートの結果に対するコメント</p> <p>(Web 上で学生に公開しているものと同様のもので結構です.)</p>
<p>3. 今後の授業改善について</p> <p>(2 のコメントの部分に記載されていれば、2 と 3 をまとめても結構です.)</p> <p>例：学生からの評価も高く、特に改善を要する点はない。</p> <p>例：学生の理解度を上げるため、授業内容の削減を行う。具体的には・・・</p> <p>例：学生の理解度を上げるため、事前学習・事後学習のための指南書を作成し、多くの課題を課すようにする。</p> <p>例：あまりにも分かりにくいという反応が多いため、黒板の字を大きくし、はっきりとしゃべるようにし、雑談を減らし、質問を無視しないよう心懸ける。</p>

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A - I - 1 - 1 - 11 卒業研究着手判定資料

平成26年3月 4年次卒業研究着手判定

熊本大学 理学部

学 科 名		卒業研究着手判定 対象者 (人) (休学者内数)	卒業研究着手を 認定された者 (人)	卒業研究着手を 認定されなかった者 (人) (休学者内数)
コ ー ス 別 内 訳	数学	32	27	5
	物理	38	28	10
	化学	55	51	4
	地球	32	31	1
	生物	43	40	3
理学科 (合計)		200	177	23

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A - I - 1 - 1 - 12 質保証のための改善の経緯

年度	事項
平成21年度	在学期間を8年から6年に変更 ^{*1}
	卒業要件および3年次への進級要件の変更(理学共通科目数の必要単位数を増やした) ^{*2}
平成22年度	特別研究AおよびB(各3単位選択)を卒業研究(6単位必修)に変更し、履修要件を設定
	1年次の理系基礎科目(数学)の授業科目を到達度別クラス分けにより実施
	卒業要件の変更
平成23年度	卒業研究を6単位から10単位に変更し、履修要件を改訂
	理学展開科目と理学発展科目を理学専門科目として統合
	理学基盤科目を理学教養科目に名称変更
	プログラムをコースに名称変更
平成24年度	卒業要件の変更(専門科目の充実)
	教養教育改革により理学教養科目が理系基礎科目として全学共通教育に区分される ^{*3}
	理系英語の導入
	卒業要件の変更(教養教育の変更)
	教育職員免許状教科に関する科目の変更
平成25年度	卒業研究履修要件の変更
	4年次進級要件の検討 ^{*4}

*1：在学期間を8年から6年にするとともに、留年した学生に対して手厚い指導をすることとした。

*2：卒業研究の設置に伴い、4年次の科目の一部を3年次開講に、また、3年次開講科目の一部を2年次開講にして、卒業研究に集中できる時間を確保した。この変更により各学年の教育の質も向上している。

*3：1年次の共通カリキュラム(専門基礎)の位置づけは本来、全学共通教育であった。本来の位置づけに変更し、理系基礎科目と名称を変更した。

*4：卒業研究の履修要件を4年次への進級要件とし、4年次を卒業研究のための、すなわち理学部の卒業のための学年とし、質保証を確保した。

[出典：学生便覧]

平成 25 年 11 月

理学部シラバスチェック実施報告

理学部 FD 委員会

1. はじめに

どのようなシラバスが教育的であるか、という問題はなかなか難しい問題である。授業科目が講義であるのか、それとも実験・演習かによっても必要な情報は異なるであろうし、講義が学生との対話の中で形作られていくことを考えると、授業における全ての項目を網羅することさえ不可能かもしれない。これまでシラバスの改訂は各人の試行錯誤によって行われてきており、教育コース単位での取組は認められるものの、組織的な議論はあまりなされて来なかった。より良いシラバスへの議論のための基礎的なデータの取得を目的として、平成 24 年度に大学教育機能開発総合研究センター所属の熊本大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員によって、平成 24 年度のシラバスに対し、シラバスチェックが行われた。全授業科目から 10%を抽出して行われたチェックの結果については平成 25 年 3 月にまとめられた「シラバスチェック」実施報告書を参照願いたい。これを踏まえ、平成 25 年度は、各部局においてシラバスチェックを行うことがファカルティ・ディベロップメント委員会で決定された。理学部 FD 委員会は、これを受け、「理学部シラバスチェック実施要領(添付資料)」を策定し、シラバスチェックを行った。

2. 実施方法

シラバスチェックは、理学部 FD 委員会で行った。対象科目は、平成 25 年度熊本大学理学部授業計画書に掲載されている理学専門科目 3 年次対象科目、計 100 科目について行った。これは授業計画書に掲載されている理学部全授業科目のほぼ半分である。平成 25 年度については、各コースの授業について担当する講座の FD 委員によるチェックとした。チェック項目については、平成 25 年度に新たに策定した実施要領に従った。

3. シラバスチェックの結果

理学部シラバスチェック結果を表にして示す。

評価項目		理学部(対象 授業数 100)		数学 (14)		物理 (15)		化学 (13)		地球 (28)		生物 (30)	
		1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
(1)	授業形態	97	3	14	0	15	0	13	0	28	0	27	3
(2)	授業の目標												
	a) 学修の到達目標	95	5	14	0	15	0	13	0	27	1	26	4
	b) 学生を主体として	56	44	7	7	11	4	13	0	22	6	3	27
	c) 文字数	83	17	5	9	15	0	12	1	26	2	25	5
(3)	授業内容												
	a) 項目や重要な概念	88	12	9	5	15	0	13	0	28	0	23	7
	b) 15回分の授業内容・相互関連	60	40	9	5	6	9	12	1	12	16	21	9
	c) 文字数	42	58	0	14	9	6	13	0	12	16	8	22
(4)	キーワード	93	7	13	1	14	1	13	0	28	0	25	5
(5)	テキスト	91	9	7	7	15	0	13	0	26	2	30	0
(6)	参考文献	99	1	14	0	14	1	13	0	28	0	30	0
(7)	評価方法・基準	76	24	9	5	13	2	12	1	28	0	14	16
(8)	履修上の指導(注意)	94	6	13	1	14	1	12	1	27	1	28	2
(9)	事前学習	85	15	9	5	14	1	11	2	23	5	28	2
(10)	事後学習	89	11	14	0	13	2	11	2	25	3	26	4

90%が基準に合致している 6 項目を含め、80%以上が基準に合致していた 10 項目については全体的な問題はないものと考えられる。80%を切っているものとしては、「学生を主体として授業の目標が書かれているか」、「15 回分の授業内容が書かれているか」、「授業内容の文字数が 300 字程度を目安とし、200 字以上であるか」の 3 項目において基準に合致していない科目数が多く、ほぼ半数となっている。どれも授業目標・授業内容に関する重要な項目であり、理学部内で注意喚起を行っていく必要があるかもしれない。また、ほぼ 1/4 が基準に合致していない項目として、「評価方法とその割合、および評価基準が明示されているか」を挙げることができる。授業の評価方法は学生の注目も高い項目であり、今後も改善が必要となるであろう。

項目・チェック方法が同一ではないものの、平成 24 年度に全学で行われたシラバスチェック結果と今年度のチェック結果を比較してみる必要があるだろう。まず目に付くのは、「学生を主体として授業目標が書かれているか」の項目である。平成 24 年度の全学でのチェックでは 96%が基準に合致していると評価されている一方、本年度は合致している科目数が非常に少なくなっている。これは、どのような形式が「学生主体」であるか、についてチェックの基準が統一されていないために起きていると思われる。今後の検討が必要であろう。

全学のシラバスチェックでは文字数が標準より大幅に超過している場合でも、基準に合致しないとしていた。理学部では文字数の超過については問題としない方針を取っているが、両年のシラバスチェックで、「授業内容の文字数」が基準に合致していない科目が多く見られた。これは、文字数が少ない、ということを示しており、今後改善が必要かもしれない。

全学におけるシラバスチェックでは基準に合致している科目があまり多くなかった「キーワード」、「使用するテキストの明示」、「参考文献」の 3 項目については、理学部におけるチェックではほぼ問題が見られなかった。これは、シラバスには参考文献等の周知の仕方が書かれていれば基準に合致していると判断したためと思われる。

「15 回分の授業内容が書かれているか」、「評価方法とその割合、および評価基準が明示されているか」については両年でほぼ同等の結果であり、基準に合致している科目の割合が少ない。この点は、今後の検討課題であろう。

シラバスチェックを行うことにより、個々のコースの授業について以下のような課題が浮かび上がった。

数学コース

項目(1), (4), (6), (8), (10)については、1の評価が多かったがその他の項目では0の評価が目立っている印象である。特に(2)と(3)については顕著で、(2)(a)はすべて1の評価であったものの、例えば(3)の文字数については1の評価のものがなかった。また(3)(b)について1の評価は9科目となったが「相互関連」についての言及はどの科目もなかったことに注意しておく。これは多かれ少なかれシラバス作成に対する温度差が反映しているものと思われる。また数学コースの場合、3年の演習はすべて講義に付随しており、演習については授業内容等の説明はしばしば省略されていることも原因として考えられる。

物理学コース

「授業形態」、授業の目標の内「学修の到達目標」と「文字数」、授業内容の「項目や重要な概念」、「テキスト」については全授業科目で基準に合致していた。授業の目標の「学生を主体とした」記述がなされていない授業が4科目あった。授業内容に関しては、半数以上（9科目）で「15回分の授業内容・相互関連」が記述されておらず、「文字数」も少ない科目が多かった（6科目）。「キーワード」と「参考文献」は1科目で示されていない。「評価方法・基準」では、出席点を評価に入れている授業が2科目あった。「履修上の指導」、「事前学習」、「事後学習」が空欄になっている科目が幾つかあった。

化学コース

ほとんどのシラバスで、ほとんどのチェック項目を満足していた。ただし、チェック項目の要件を満足していなかったシラバスで気づいた点としては、「授業内容」の「15回分の授業の内容」の項目で、同一授業テーマで複数回の講義を行う旨の表記が明確でないシラバスが幾つかあったことと、「文字数」の要件で、200文字に満たないものがあつた。学生実験の場合、実験タイトルのみでも十分にその内容が類推でき文字数は少なくとも実験内容が十分に伝わるとは考えるが、学生の立場から考えると、もう少し説明が必要なのかもしれない。その他の項目では、「履修上の指導(注意)」、「事前指導」、「事後指導」で記載がないものがあつた。

地球環境科学コース

「授業形態」、授業の目標の「学修の到達目標」と「文字数」、授業内容の「項目や重要な概念」、「キーワード」、「参考文献」、「評価方法・基準」、「履修上の指導」は、ほとんどが基準に合致していた。授業の目標の「学生を主体として」記述がなされていない授業が6科目あった。授業内容に関しては、半数以上で「15回分の授業内容・相互関連」が記述されておらず、「文字数」も少ない科目が多かった（16科目）。「テキスト」については空白が2科目あつたが、実験などは使わないのが普通であり、実質的な問題はないものと考えられる。「事前学習」と「事後学習」は空欄になっている科目が幾つかあつた。

生物学コース

今回は、3年次の30科目（講義や実験、演習すべて）のシラバスチェックを行った。集計表ではその両者を合わせているがここでは講義とそれ以外の実習系の科目に分けて検討したい。担当者がはっきりしている講義については大体の条件はクリアされていたが、3つの項目については評価が低くなった。（1）授業の目標において、学生を主体とした書き方はほとんどなされていなかった。（2）授業内容で文字数が少なく、どのような授業が行われるのかイメージしにくいものがあった。（3）評価方法と基準の項目については、出席を評価の中に加えている講義が散見された。また割合を示していない講義も少しではあったが見られた。一方、実験や演習系の科目については、上記三点に加えて、授業内容が具体的に書かれていないものが約半数を占めていた（当然文字数も少ない）が、3年次実習については4月に詳細な実験計画の冊子を配っており、実質的な問題はないものと思われる。またキーワードが抜けていたり、事後学習などが抜けていたりする科目もあった。実習系は複数の教員が関わっているので、今後記入方法の改善が必要かもしれない。

4. おわりに

シラバスチェックを2年連続で行うことにより、理学部のシラバスにおける問題点が明らかになってくるとともに、シラバスチェックの限界も見えてきている。例えば、全員受講が義務づけられているような3年生の実習科目では、詳細な実習の説明書がシラバスとは個別に作成されていることが普通である。シラバスより格段に詳しいテキストが作成されているにも関わらず、チェックをかけると基準に合致しないものとして分類されてしまうのは、チェックの方法に問題があると考えられる。また、細かなことではあるが、文字数の制限等が必要であればシラバス入力時にチェックを行い、短い字数では入力が完了しないようにしておけば良いものと思われる。シラバスのシステムの検討が進んでおり、今後の改善に期待したい。シラバスの改善とともに、そのチェック方法についても、今後改良を加えていく必要があるだろう。

[出典：理学部 FD 委員会シラバスチェック実施報告書]

資料 A - I - 1 - 1 - 14 到達度別クラス編成後の成績分布

・微分積分Ⅱ

平成 2 2 年度	秀	優	良	可	不可
A	4 5	1 8	7 9 %	7	0 0 %
	5 8 %	2 3 %		9 %	
B	3	1 8	1 4 2 0 %	3 1	5 7 %
	4 %	2 5 %		4 4 %	
C	1	6	5 1 0 %	2 6	1 4 2 7 %
	2 %	1 2 %		5 0 %	

平成 2 3 年度	秀	優	良	可	不可
A	3 6	1 2	6 9 %	1 2	0 0 %
	5 5 %	1 8 %		1 8 %	
B	8	1 8	1 2 2 3 %	1 3	2 4 %
	1 5 %	3 4 %		2 5 %	
C	3	8	1 0 1 3 %	2 4	3 2 4 2 %
	4 %	1 0 %		3 1 %	

平成 2 4 年度	秀	優	良	可	不可
A	8	2 5 3 4 %	1 6	2 3	2 0 %
	1 1 %		2 2 %	3 1 %	
B	1	1 4 2 1 %	1 8 2 7 %	3 3	1 1 %
	1 %			4 9 %	
C	2	8 1 3 %	1 7 2 8 %	2 6	7 1 2 %
	3 %			4 3 %	

平成 2 5 年度	秀	優	良	可	不可
A	2 5	1 5 2 2 %	1 4 2 1 %	1 4 2 1 %	0
	3 7 %				0 %
B	2	1 3 1 9 %	1 8 2 6 %	3 2 4 6 %	5
	3 %				7 %
C	1	4 7 %	8 1 3 %	3 6 6 0 %	1 1
	2 %				1 8 %

・線形代数Ⅱ

平成22年度	秀	優	良	可	不可
A	16	9	6	35	5
	23%	13%	8%	49%	7%
B	16	16	11	26	3
	22%	22%	15%	36%	4%
C	5	6	8	31	6
	9%	11%	14%	55%	11%

平成23年度	秀	優	良	可	不可
A	24	18	12	11	2
	36%	27%	18%	16%	3%
B	12	10	18	26	4
	17%	14%	26%	37%	6%
C	9	7	16	18	9
	15%	12%	27%	31%	15%

平成24年度	秀	優	良	可	不可
A	16	23	16	19	7
	20%	28%	20%	23%	9%
B	5	15	15	29	7
	7%	21%	21%	41%	10%
C	1	4	5	25	14
	2%	8%	10%	51%	29%

平成25年度	秀	優	良	可	不可
A	15	21	13	16	4
	22%	30%	19%	23%	6%
B	6	12	7	35	6
	9%	18%	11%	53%	9%
C	14	9	20	15	5
	22%	14%	32%	24%	8%

・微分積分Ⅱ

平均	秀	優	良	可	不可
A	40.25	24.25	15.25	19.75	0
B	3.50	15.75	15.50	27.25	3.25
C	1.75	6.50	10.00	28.00	16.00

(単位 %)

・線形代数Ⅱ

平均	秀	優	良	可	不可
A	17.75	17.75	11.75	20.25	4.50
B	9.75	13.25	12.75	29.00	5.00
C	8.25	7.75	13.75	28.25	9.75

(単位 %)

※ 前学期の成績をもとに A, B, C の 3 段階に分けた。

※ 前学期の成績不良者のクラス C の中にも優秀な成績の学生が現れた。

[出典：教務担当調べ]

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学生の学修意欲をより向上させる教育制度等の不断の検討が必要である。個々の教員の教育負担増、授業方法の改善及び教育カリキュラムの見直し等により、理科や数学分野の専門教育の質を保証する実施体制は維持されているが、将来に渡って高い水準を維持するためには、理学部の取り組みのみでは解決されず、恒常化した全学専門基礎教育への負担を軽減し、必要な理数系教員数を確保するなどの、抜本的な全学教養教育改革が必要である。

観点 教育内容・教育方法

(観点に係る状況)

理学部の一学科・教育プログラム制を全国に先駆けて導入した当初は、教育プログラムという概念がまだ社会に広く周知されていなかった。そのような中で、従来の学科別の専門教育で確立された基盤的部分は大きく変えることなく、一学科制のメリットとして理学全分野を学修させる独自のカリキュラムを採用した。それぞれの科目の目的は以下の通り明確に決められていた。(資料 A-I-1-2-1)

その後、理系学部における共通基礎教育として、理学基盤科目は教養教育の理系基礎科目に変更され、現在に至っている。平成 27 年度以降の入学生に対して、新学習指導要領に則した教育内容の見直し検討を始めている。また、特別演習(選択)を卒業研究(必修)とする(資料 A-I-1-2-2)と同時に履修要件(資料 A-I-1-2-3)の設定、科目区分の見直し、4 年次進級要件(資料 A-I-1-2-4)の設定など理学士としての質を保証するための改変を行ってきたが、理学部の基本理念や一学科制の教育目標・目的に変更はない。一括入試と定員を設けない専門の選択が、他大学にない特徴の一つとなっており、平成 16 年の理学科発足以来堅持されている。卒業研究に関しては最終学年を行うことを明確にし、卒業論文作成が学士課程の集大成であることを強調した。また、専任

教員ではカバーできない内容の講義を提供するために、毎年、数名の非常勤講師を招いて集中講義を開講し、(資料A-I-1-2-5) 卒業研究の多様性に配慮している。

理学科発足から現在まで、1年生全員による合宿研修を2年生が主体となって企画・運営している。(資料A-I-1-2-6) コミュニケーション能力が重視される近年の動向に依じての学部行事であり、他人との協調や主体的な行動を身につけることを目的としている。七夕祭も1、2年生が中心となって企画・運営し(資料A-I-1-2-7)、社会で要請されている企画力や実行力を身につける機会となっている。その他、キャリア教育として理学概論(民間企業からの講師による多様な職業観を身に付けさせる講義)の開講、就職説明会・セミナーの開催、就職体験記の配布等を行っている。(資料A-I-1-2-8~10)

1年次全員に配布される「履修の手引き」には、各コースの教育目標と4年間の履修の流れや履修モデル及び科目相関等(資料A-I-1-2-11~14)が明示されており進路選択が的確にできるように配慮されている。コース決定後の変更がほとんどなく(資料A-I-1-2-15)、「履修の手引き」の意図が学生に周知されていることがわかる。平成25年度は増加傾向にあるので慎重にコース選択するよう指導を徹底する必要がある。

学生が主体的に学修を行えるよう入学時にはクラス担任を置いて学生生活全般に関する支援を行っている。(資料A-I-1-2-16) クラス担任とは別に1年次の12月から学生3名に対して教員1名を配置するチューター制が特色となっている。原則として2年次終了まで同じ教員がチューターを担当し、履修や学修に関するものだけでなく、生活面の相談についてもクラス担任と連携しながら対応している。(資料A-I-1-2-16~18) 2年次までの成績不振者に対しては、学部長、学科長及び教務委員長が直接面談(学部長面談)を行っている。(資料A-I-1-2-19) さらに、1、2年次開講科目においては欠席調査を行い(資料A-I-1-2-20)、学修面に問題がある学生を早期に発見し、担任等が対応している。3、4年次生については、各コースで卒業までの責任体制を保持している。また、自修室(資料A-I-1-2-21)を設けることで学生の主体的な学修環境を確保している。

学生が国際研究集会等に参加するために国際奨学金制度を設け、年間4~5名に渡航に必要な旅費を援助している。(資料A-I-1-2-22~23) 一方、留学生に関しては、担当教員及び学生をチューターとして配置し、学修及び学生生活の支援を行っている。(資料A-I-1-2-24)

入学時のガイダンスにおいては、学生便覧、教養教育の案内やシラバスの他に、教務委員会が独自に作成した資料(資料A-I-1-2-25)を基に、きめ細かい履修指導を行っている。さらに、教務委員長を中心に履修相談会(資料A-I-1-2-26)を開催し、個別相談を行っている。2年次のガイダンスにおいても、教務委員会で資料(資料A-I-1-2-27)を作成し、進級要件の確認や専門科目履修に関する注意事項の説明など、スムーズに専門につながるよう配慮している。その他、学修面の支援に関しては、オフィスアワーの設定、学部長室直通の電子メールアドレスの設定など、多くの相談窓口を設けることで、学生が困ったときの支援体制を強化している。(資料A-I-1-2-28)

(中期計画番号K1~K32)

資料 A - I - 1 - 2 - 1 一学科開始時の科目の目的

理学基盤科目（1年次）	自然科学を学んでいくための理学全般の基礎を学習する科目であり、全学生が履修する。
理学共通科目（2年次）	専門の初歩を学習する科目であり、選択制となっている。
理学展開科目（3年次）	教育プログラム毎に専門分野へ内容を展開させる科目である。
理学発展科目（4年次）	学部での教育を完成させるとともに、大学院博士前期課程に発展させていく科目である。

[出典：平成19年組織評価 自己評価書]

資料 A - I - 1 - 2 - 2 卒業要件単位表（平成 22 ～ 26 年度）

・平成 22 年度入学者用

科目区分		卒業に必要な単位数	
教 養 教 育 科 目	基礎セミナー	2	
	情報科目	2	
	外国語科目（必修外国語科目）	10	
	外国語科目（自由選択外国語科目）	20	
	主題科目 I	（主題科目 I 及び II については、それぞれ学系 3 から学系 8 のテーマから 4 単位以上を必ず履修しなければならない。）	
	主題科目 II		
	学際科目		
開放科目			
計		34	
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	理学教基盤目	24
		(数学 8)	
		(理科 14) (基盤実験 2)	
		理学共通科目	18 (計算機科学 I の 1 単位を必ず履修しなければならない)
	専門科目	理学展開科目	24
		理学発展科目	10 (卒業研究の 6 単位及び特別講義を除く科目から 4 単位を必ず修得しなければならない)
計		76	
本学の専門教育の全授業科目		14	
合計		124	

[出典：平成 22 年度理学部学生便覧]

・平成23年度入学者用

区分			卒業に必要な単位数
教養教育	基礎セミナー		1
	情報科目		2
	外国語科目（必修外国語科目）		10
	外国語科目（自由選択外国語科目）		9
	教養科目		
	社会連携科目		
	開放科目		
計		22	
専門教育	専門基礎科目	理学教養科目 (数学 8) (理科 14) (基盤実験 2)	24
		理学共通科目	20 (計算機科学 I の 1 単位を必ず修得しなければならない)
		専門科目 理学専門科目	42 (卒業研究の10単位を必ず修得しなければならない)
	理学部の専門教育の全授業科目		12
	計		98
	大学の全授業科目		4
合計		124	

[出典：平成23年度理学部学生便覧]

・平成24、25、26年度入学者用

科目	区分	卒業に必要な単位数	
教養教育	導入科目（基礎セミナーに限る。）	1	
	情報科目	3	
	共通基礎科目	(数学 8)	24
		(理科 14)	
		(基盤実験 2)	
	必修外国語科目	8	
	教養科目	11	
	社会連携科目		
自由選択外国語科目			
開放科目			
計		47	
専門教育	理学共通科目	20	
	理学専門科目	42 (卒業研究の10単位を必ず修得しなければならない。)	
	理学部の専門教育の全授業科目	4	
	計	66	
大学の全授業科目		11	
合計		124	

[出典：平成26年度理学部学生便覧]

資料 A - I - 1 - 2 - 3 卒業研究履修要件（平成 22 ～ 25 年度）

・平成 22 年度

卒業研究の履修要件表

		数 理 科 学 プ ロ グ ラ ム	物 理 プ ロ グ ラ ム	化 学 プ ロ グ ラ ム	地 球 環 境 プ ロ グ ラ ム	生 物 環 境 プ ロ グ ラ ム		
教 養 教 育 科 目	基礎セミナー	30 (第3年次への進級要件を満たし、かつ、卒業に必要な教養教育科目34単位のうち、30単位以上修得していること。)						
	情報科目							
	外国語科目 (必修外国語科目)							
	外国語科目 (自由選択外国語科目)							
	主題科目Ⅰ							
	主題科目Ⅱ							
	学際科目							
	開放科目							
専 門 教 育 科 目	専 門 基 礎 科 目	理 学 基 礎 科 目 (数学) (理科) (基盤実 験)	22(*1) (第3年次への進級要件を満たしておくこと。)	22 (第2年次への進級要件を満たしておくこと。)	24 (卒業要件を満たしておくこと。)		22 (第3年次への進級要件を満たしておくこと。)	
			理学共通科目	12(*2)	15(*4) (第3年次への進級要件を満たしておくこと。)	18 卒業要件を満たしておくこと。		9 (第3年次への進級要件を満たしておくこと。)
			専門科目	理学展開科目	18(*3)	24 (卒業要件を満たしておくこと。)	14	8(*5)

備考

1. 数理科学プログラム

(*1)「微分積分Ⅰ」「微分積分Ⅱ」「線形代数Ⅰ」「線形代数Ⅱ」を修得していること。

(*2)「解析幾何」「微分方程式」「複素関数」「実数と論理」「線形数学」のうちから8単位以上を修得していること

(*3)「代数概論Ⅰ」「代数概論Ⅱ」「代数概論Ⅰ演習」「代数概論Ⅱ演習」「幾何概論Ⅰ」「幾何概論Ⅱ」「幾何概論Ⅰ演習」「幾何概論Ⅱ演習」「解析概論Ⅰ」「解析概論Ⅱ」「解析概論Ⅲ」「解析概論Ⅰ演習」「解析概論Ⅱ演習」「複素解析」から修得していること。

2. 物理プログラム

(*4) 理学共通科目の「基礎力学」「基礎量子力学」「力学」「基礎電磁気学」「基礎物理学」「物理学共通実験」、理学展開科目の「熱力学」「電磁気学」「物理実験A」「統計力学」「量子力学Ⅰ」「物理数学」「物理実験B」から修得していること。

3. 生物環境プログラム

(*5)「生物環境基礎実験」「生物環境実験」を修得し、「細胞生物学実験A」「細胞生物学実験B」又は「生物多様性学実験A」「生物多様性学実験B」を修得しておくこと。

[出典：平成 22 年度理学部学生便覧]

・平成23年度

卒業研究の履修要件表

区分		数 学 コ ー ス	物 理 学 コ ー ス	化 学 コ ー ス	地球環境 科学コース	生 物 学 コ ー ス	
教 養 教 育	基礎セミナー	20 (第3年次への進級要件を満たした上で、卒業に必要な教養教育科目22単位のうち、20単位以上修得しておくこと。)					
	情報科目						
	外国語科目 (必修外国語科目)						
	外国語科目 (自由選択外国語科目)						
	教養科目						
	社会連携科目						
	開放科目						
	専 門 教 育						理学 教養科目 (数学 8)
専 門 教 育	専門 基礎科目	(理科14)	(第3年次への進級要件を満たしておくこと。)	(第3年次への進級要件を満たしておくこと。)			(第3年次への進級要件を満たしておくこと。)
		(基盤実験 2)					
	理学共通科目	12(*2)	15(*4)	(*5)	20 (卒業要件を満たしておくこと。)	10 (第3年次への進級要件を満たしておくこと。)	
	専門科目	理学専門科目	18(*3)		14	8(*6)	

備考

1. 数学コース

(*1)「線形代数Ⅰ」「線形代数Ⅱ」「微分積分Ⅰ」「微分積分Ⅱ」を修得しておくこと。

(*2)「解析幾何」「微分方程式」「複素関数」「実数と論理」「線形数学」のうちから8単位以上を修得しておくこと。

(*3)「代数概論Ⅰ」「代数概論Ⅰ演習」「代数概論Ⅱ」「代数概論Ⅱ演習」「幾何概論Ⅰ」「幾何概論Ⅰ演習」「幾何概論Ⅱ」「幾何概論Ⅱ演習」「解析概論Ⅰ」「解析概論Ⅰ演習」「解析概論Ⅱ」「解析概論Ⅱ演習」「解析概論Ⅲ」「複素解析」のうちから修得しておくこと。

2. 物理学コース

(*4)理学共通科目の「基礎力学」「基礎量子力学」「基礎電磁気学」「基礎物理数学」「力学」「物理学共通実験」、理学専門科目の「電磁気学」「量子力学Ⅰ」「熱力学」「統計力学」「物理数学」「物理実験A」「物理実験B」のうちから修得しておくこと。

3. 化学コース

(*5)理学共通科目について卒業要件を満たす20単位以上(次の各分野の指定する理学共通科目の単位数を含むことができる。)を修得し、かつ、次の各分野の指定する理学共通科目及び理学専門科目のうちから7単位以上を当該各分野からそれぞれ修得しておくこと。

分析化学分野：理学共通科目 「基礎分析化学」「分析化学Ⅰ」

理学専門科目 「分析化学Ⅱ」「分析化学Ⅲ」「化学実験A」

無機化学分野：理学共通科目 「基礎無機化学」「無機化学Ⅰ」

理学専門科目 「無機化学Ⅱ」「無機化学Ⅲ」「化学実験B」

有機化学分野：理学共通科目 「基礎有機化学」

理学専門科目 「有機化学Ⅰ」「有機化学Ⅱ」「有機化学Ⅲ」「化学実験C」

物理化学分野：理学共通科目 「基礎物理化学」「物理化学Ⅰ」

理学専門科目「物理化学Ⅱ」「物理化学Ⅲ」「化学実験D」

4. 生物学コース

(*6)「生物環境基礎実験」「生物環境実験」を修得し、「細胞生物学実験A」「細胞生物学実験B」又は「生物多様性学実験A」「生物多様性学実験B」を修得しておくこと。

[出典：平成23年度理学部学生便覧]

平成24年度

卒業研究の履修要件表

区分			数 学 コ ー ス	物 理 学 コ ー ス	化 学 コ ー ス	地球環境 科学コース	生 物 学 コ ー ス	
教 養 教 育	共通 科目 基 礎	導入科目 (基礎セミナーに限る。)	21 (第3年次への進級要件を満たした上で、卒業に必要な教養教育科目23単位のうち、21単位以上修得しておくこと。)					
		情報科目						
	必修外国語科目							
	教養科目							
	社会連携科目							
	自由選択外国語科目							
	開放科目							
目	共通 基礎 科目	(数学 8)	22(*1)	22	24	(卒業要件を満たしておくこと。)		
		(理科 14)	(第3年次への進級要件を満たしておくこと。)	(第3年次への進級要件を満たしておくこと。)				
		(基礎実験 2)						
専 門 教 育	理学共通科目		12 (*2)	15 (*4) (第3年次への進級要件を満たしておくこと。)	(*5)	20	10 (第3年次への進級要件を満たしておくこと。)	
	理学専門科目		18(*3)			14	8(*6)	

1. 数学コース

(*1)「線形代数Ⅰ」「線形代数Ⅱ」「微分積分Ⅰ」「微分積分Ⅱ」を修得しておくこと。

(*2)「解析幾何」「微分方程式」「複素関数」「実数と論理」「線形数学」のうちから8単位以上を修得しておくこと。

(*3)「代数概論Ⅰ」「代数概論Ⅰ演習」「代数概論Ⅱ」「代数概論Ⅱ演習」「幾何概論Ⅰ」「幾何概論Ⅰ演習」「幾何概論Ⅱ」「幾何概論Ⅱ演習」「解析概論Ⅰ」「解析概論Ⅰ演習」「解析概論Ⅱ」「解析概論Ⅱ演習」「解析概論Ⅲ」「複素解析」のうちから修得しておくこと。

2. 物理学コース

(*4)理学共通科目の「基礎力学」「基礎量子力学」「基礎電磁気学」「基礎物理数学」「力学」「物理学共通実験」、理学専門科目の「電磁気学」「量子力学Ⅰ」「熱力学」「統計力学」「物理数学」「物理実験A」「物理実験B」のうちから修得しておくこと。

3. 化学コース

(*5)理学共通科目について卒業要件を満たす20単位以上(次の各分野の指定する理学共通科目の単位数を含むことができる。)を修得し、かつ、次の各分野の指定する理学共通科目及び理学専門科目のうちから7単位以上を当該各分野からそれぞれ修得しておくこと。

分析化学分野:理学共通科目「基礎分析化学」「分析化学Ⅰ」

理学専門科目「分析化学Ⅱ」「分析化学Ⅲ」「化学実験A」

無機化学分野:理学共通科目「基礎無機化学」「無機化学Ⅰ」

理学専門科目「無機化学Ⅱ」「無機化学Ⅲ」「化学実験B」

有機化学分野:理学共通科目「基礎有機化学」

理学専門科目「有機化学Ⅰ」「有機化学Ⅱ」「有機化学Ⅲ」「化学実験C」

物理化学分野:理学共通科目「基礎物理化学」「物理化学Ⅰ」

理学専門科目「物理化学Ⅱ」「物理化学Ⅲ」「化学実験D」

4. 生物学コース

(*6)「生物環境基礎実験」「生物環境実験」を修得し、「細胞生物学実験A」「細胞生物学実験B」又は「生物多様性学実験A」「生物多様性学実験B」を修得しておくこと。

[出典：平成24年度理学部学生便覧]

平成25年度

卒業研究の履修要件単位表

区分		数学 コース	物理学 コース	化学 コース	地球環境 科学コース	生物学 コース
教 養 教 育	共通 目 基 礎 科 目	21 (卒業に必要な教養教育の科目(理系基礎科目を除く)23単位のうち、21 単位以上修得しておくこと。)				
	情報科目	ただし、基礎セミナー、情報科目、必修外国語の12単位のうち10単位以上を修得しておくこと。				
	必修外国語科目					
	教養科目					
	社会連携科目					
	自由選択外国語科目					
	開放科目					
目 科 礎 基 通 共 目 科 礎 基 系 理 目 科 礎 基 系 理 目 科 礎 基 系 理 目 科 礎 基 系 理 目 科 礎 基 系 理	数学	8 (*1)	8	8	8	
	理科	12	12	14	12	
	基盤実験	2	2	2	2	
専 門 教 育	理学共通科目	12 (*2)	15 (*4)	(*5)	20	10
	理学専門科目	18 (*3)			14	8 (*6)
備考						
1. 卒業研究を履修するには、当該コースの要件を満たし、かつ、第18条に規定する別表第3の卒業要件単位のうち100単位以上を修得していなければならない。						
2. 数学コース						
(*1) 「線形代数Ⅰ」「線形代数Ⅱ」「微分積分Ⅰ」「微分積分Ⅱ」を修得しておくこと。						
(*2) 「解析幾何」「微分方程式」「複素関数」「実数と論理」「線形数学」のうちから8単位以上を修得しておくこと。						
(*3) 「代教概論Ⅰ」「代教概論Ⅰ演習」「代教概論Ⅱ」「代教概論Ⅱ演習」「幾何概論Ⅰ」「幾何概論Ⅰ演習」「幾何概論Ⅱ」「幾何概論Ⅱ演習」「解析概論Ⅰ」「解析概論Ⅰ演習」「解析概論Ⅱ」「解析概論Ⅱ演習」「解析概論Ⅲ」「複素解析」のうちから修得しておくこと。						
3. 物理学コース						
(*4) 理学共通科目の「基礎力学」「基礎量子力学」「基礎電磁気学」「基礎物理教学」「力学」「物理学共通実験」、理学専門科目の「電磁気学」「量子力学Ⅰ」「熱力学」「統計力学」「物理教学」「物理実験A」「物理実験B」のうちから修得しておくこと。						
4. 化学コース						
(*5) 理学共通科目について卒業要件を満たす20単位以上(次の各分野の指定する理学共通科目の単位数を含むことができる。)を修得し、かつ、次の各分野の指定する理学共通科目及び理学専門科目のうちから7単位以上を当該各分野からそれぞれ修得しておくこと。						
分析化学分野：理学共通科目 「基礎分析化学」「分析化学Ⅰ」 理学専門科目 「分析化学Ⅱ」「分析化学Ⅲ」「化学実験A」						
無機化学分野：理学共通科目 「基礎無機化学」「無機化学Ⅰ」 理学専門科目 「無機化学Ⅱ」「無機化学Ⅲ」「化学実験B」						
有機化学分野：理学共通科目 「基礎有機化学」 理学専門科目 「有機化学Ⅰ」「有機化学Ⅱ」「有機化学Ⅲ」「化学実験C」						
物理化学分野：理学共通科目 「基礎物理化学」「物理化学Ⅰ」 理学専門科目 「物理化学Ⅱ」「物理化学Ⅲ」「化学実験D」						
5. 生物学コース						
(*6) 「生物環境基礎実験」「生物環境実験」を修得し、「細胞生物学実験A」「細胞生物学実験B」又は「生物多様性学実験A」「生物多様性学実験B」を修得しておくこと。						

[出典：平成25年度理学部学生便覧]

資料 A - I - 1 - 2 - 4 4 年次進級要件

第4年次進級要件単位表

区分		数 学 コ ー ス	物 理 学 コ ー ス	化 学 コ ー ス	地球環境 科学コース	生物学 コース
教 養 教 育	共 導 入 科 目 科 通 目 基 礎 情報科目 (基礎セミナーに限る。)	21 (基礎セミナー、情報科目及び必修外国語のうちから10単位以上を含む)				
	必修外国語科目					
	教養科目					
	社会連携科目					
	自由選択外国語科目					
	開放科目					
	共通基礎科目 (理系基礎科目)	数 学 理 科 基 礎 実 験	8 (*1) 12 2	8 12 2	8 14 2	8 12 2
専 門 教 育	理学共通科目	12 (*2)	15 (*4)	(*5)	20	10
	理学専門科目	18 (*3)			14 (*6)	8 (*7)

備考

1. 第3年次終了までに第18条に規定する別表第4の卒業要件単位のうち100単位以上を修得し、かつ、上記に示す当該コースの要件を満たしていなければならない。

2. (*1)~(*7)については次のとおりである。

(*1) 次の科目を修得しておくこと。

区分	科目	必要単位数
理系基礎科目	「線形代数Ⅰ」「線形代数Ⅱ」	8単位
	「微分積分Ⅰ」「微分積分Ⅱ」	

(*2) 12単位のうち、次の科目から8単位以上を修得しておくこと。

区分	科目	必要単位数
理学共通科目	「解析幾何」「微分方程式」「複素関数」	8単位以上
	「実数と論理」「線形数学」	

(*3) 次の科目のうちから、18単位以上を修得しておくこと。

区分	科目	必要単位数
理学専門科目	「代数概論Ⅰ」「代数概論Ⅰ演習」	18単位以上
	「代数概論Ⅱ」「代数概論Ⅱ演習」	
	「幾何概論Ⅰ」「幾何概論Ⅰ演習」	
	「幾何概論Ⅱ」「幾何概論Ⅱ演習」	
	「解析概論Ⅰ」「解析概論Ⅰ演習」	
	「解析概論Ⅱ」「解析概論Ⅱ演習」	
	「解析概論Ⅲ」「複素解析」	

(*4) 次の科目のうちから、15単位以上を修得しておくこと。

区分	科目	必要単位数
理学共通科目	「基礎力学」「基礎量子力学」 「基礎電磁気学」	15単位以上
	「基礎物理数学」「力学」 「物理学共通実験」	
理学専門科目	「電磁気学」「量子力学Ⅰ」「熱力学」 「統計力学」	
	「物理数学」「物理実験A」「物理実験B」	

(*5) 次の要件をいずれも満たすこと。

1) 理学共通科目について卒業要件を満たす20単位以上(次の各分野の指定する理学共通科目の単位数を含むことができる。)を修得しておくこと。

2) 次の各分野の指定する科目のうちから、それぞれ7単位以上を修得しておくこと。

分野	区分	科目	必要単位数
分析化学	理学共通科目	「基礎分析化学」「分析化学Ⅰ」	7単位
	理学専門科目	「分析化学Ⅱ」「分析化学Ⅲ」「化学実験A」	以上
無機化学	理学共通科目	「基礎無機化学」「無機化学Ⅰ」	7単位
	理学専門科目	「無機化学Ⅱ」「無機化学Ⅲ」「化学実験B」	以上
有機化学	理学共通科目	「基礎有機化学」	7単位
	理学専門科目	「有機化学Ⅰ」「有機化学Ⅱ」「有機化学Ⅲ」「化学実験C」	以上
物理化学	理学共通科目	「基礎物理化学」「物理化学Ⅰ」	7単位
	理学専門科目	「物理化学Ⅱ」「物理化学Ⅲ」「化学実験D」	以上

(*6) 次の科目のうちから14単位以上を修得しておくこと。

区分	科目	必要単位数
理学専門科目	別表第1に規定する地球環境科学の科目及び 「熱力学」「統計力学」「コンピュータ物理学」 「多様性進化学」「系統分類学」「自然誌科学」「保全生物学」 「基礎講義Ⅰ、Ⅱ」	14単位以上

(*7) 次の要件をいずれも満たすこと。

1) 「生物環境基礎実験」及び「生物環境実験」を修得しておくこと。

2) 「細胞生物学実験A」及び「細胞生物学実験B」又は「生物多様性学実験A」及び「生物多様性学実験B」を修得しておくこと。

[出典：平成26年度履修の手引き]

資料 A - I - 1 - 2 - 5 集中講義の実績

理学部専門科目集中講義数一覧

	2009	2010	2011	2012	2013
集中講義数	75	87	73	76	87

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A - I - 1 - 2 - 6 平成 25 年度合宿研修日程計画書

		朝食	午前の活動 9:10 ~ 12:00	昼食	午後の活 動 13:10 ~ 16:00	夕食	夜の活動 19:00 ~ 20:20	備 考
第一 目 5 月 12 日 土 曜	内容	幼児食		幼児食	13:30 入 所式 14:00~16:0 0 高校生含め レクリエーション (体育館で ソフトバ レー、屋根 付きグランド で大縄) 16:00 片 付け 16:30 連 絡会 17:00 夕べの集 い 17:30 夕 食	幼児食	19:00~20:20 レクリエーション (体育館グ ラウンドで 、人間知恵の 輪) ・同時に高校 生とJRF(大学 生)の談話 20:30 部屋長会議 20:30~21:50 入浴、天体 観測 22:30 消灯・就寝 ~23:30 実行 委員ミーティング (ミーティング室)	<借用物> ・バレーの ネット、ソ フトバレー ボール×3 ・大縄×6 つ マイク・×3つ ・CDを流 すオーディ オ機器 ミーティング室 天体観測は 入り口前の 駐車場辺り で行います。
		一般		一般		一般		
第二 目 5 月 13 日 日 曜	内容	幼児食	6:30 起床 7:10 朝の集 い 7:50 朝食・掃 除 9:00 宿舎点 検 9:30~10:50 ごとのクラス研 修 ・高校生は 自学 ・実行委員 休憩 11:00 退所式 11:15 弁当受け取 り 11:30 写真撮影・ 弁当配布	幼児食	12:30 出 発	幼児食		
		一般		一般		一般		

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A - I - 1 - 2 - 7 平成 25 年度理学部七夕祭り案内

「理学部七夕祭り」の開催

熊本大学理学部では、一学科制になってから学生の学年を越えた交流をより活発にするため、毎年 7 月初めに理学部七夕祭りを開催しています。
理学部の 1, 2 年生が実行委員となり、企画・運営に携わっています。浴衣姿の学生も参加して、七夕ムードをつくります。今年は第十回目の開催となり例年よりも増して、祭りを盛り上げようと準備をしております。
また、星空にまつわるお話、天体観望会も予定されています。どなたでも参加できますので興味のある方は、是非、ご参加ください。

記

【日時】平成 25 年 7 月 5 日（金）16:00～21:00（小雨決行）
【場所】熊本大学理学部 1・2 号館中庭（黒髪南地区）
【催し等】
☆ [出店] 17:00 頃～21:00
（焼き鳥、焼きそば、唐揚げ、かき氷他）
☆ [ステージ企画] 18:00 頃～21:00
（早飲み、バンド演奏、ダンス他）
☆ [七夕特別講義]
「星空にまつわるお話」17:00～
磯部 博志 准教授（大学院自然科学研究科地球環境科学講座）
※場 所：理学部 2 号館 1 階 C 1 2 2 講義室
☆ 「七夕祭り天体観望会」20:00～21:00
熊本大学天文部監修
※場 所：理学部南側白川堤防上（雨天の場合は中止）
※ポスターはこちら（添付 PDF）

～ 問合せ ～
熊本大学理学部教務担当
TEL: 096-342-3321

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A - I - 1 - 2 - 8 理学概論の実績

理学概論実績

年度	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)
履修登録者数	196	203	191	148
成績認定者数	184	187	121	67

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A - I - 1 - 2 - 9 就職説明会等の記録（平成 25 年度実績）

日時	場所	ガイダンス内容
H25年5月24日(金) 16:10-17:40	工学部2号館223講義室	理学部3年生、M1全員必参加 就職ガイダンス 就活をはじめる前に！
H25年6月21日(金) 午後6時より	理学部D-201教室	熊本経済就職セミナー
H25年10月11日(金) 16:10～17:30	工学部2号館223教室	理学部3年生・M1全員必参加 就職ガイダンス 就活を始める前に！
H25年11月8日(金) 14:30～16:00	理学部1階C-122教室	理学部・工学部B3 M1対象 就職ガイダンス理工系学生のための就活応援講座

理学部 HP <http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/career/index2.html>（理学部教務担当）

[出典：理学部年報 就職委員会報告]

就職活動体験記

(所 属) 理学部 理学科

(氏 名) ██████████

(内定先) ██████████

1. はじめに

私は3年の夏まで、一般企業に就職するか、又は教員になるか全く自分の進みたい道が定まっていませんでした。しかし、なんとなく興味のある熊本の企業にインターンシップを申し込みました。これが、後に私が就職活動をスタートさせるきっかけです。このインターンで、様々な年代の社員の方とお話しすることができ、「働くとはどういうことか」「自分が目指す将来の姿」について深く考える機会となりました。そこで私は、「多くの人と関わり、多くの人に影響を与えることのできる人になりたい」と思い、教員という枠にとらわれず、一般の企業で働きたいという意思が固まりました。

2. スケジュール

月	活 動 内 容	
11	・ インターンシップ (9月) ・ 学内就職講座 (10月)	インターンシップでは、多くの方と出会い、「働くとは」「将来の自分の姿」等について深く考えました。
12	・ 合同企業説明会 (2回) ・ 学内企業説明会 ・ 個別企業説明会	合説では業界を絞らず、視野を広げました。学内のセミナーや説明会には、可能な限り参加。興味を持った企業には、積極的に質問をするよう心掛けました。
1	・ 個別企業説明会 ・ ES 作成、提出	初めてのES提出。多くの先輩や友人に添削をお願いし、何度も作り直す日々が続きました。
2	・ ES 作成、提出 ・ web テスト	上旬はテストに追われ平日は全く活動できなかったため、休日を利用して福岡での説明会へ。テストが終わってからは、ほぼ毎日福岡に通う日々が続きました。
3	・ web テスト、テストセンター ・ 面接、GD	スケジュール帳と毎日にらめっこ。優先順位を意識し、計画性のある行動を心掛けました。
4	・ 4月4日に1社内定 ・ 志望度の高い3社のみ受け続ける	初めて最終面接を受けた企業から、その日の内に内定の電話を頂きました。その後、もう一度自分の将来について深く考え、より志望度の高い3社のみ就職活動を続けました。
5	・ 教育実習 ・ 5月15日に ██████████ 内定	教育実習と就職活動の両立が大変でした。

3. 自己分析とエントリーシート

○自己分析

自己分析に関しては、特別に何かしたということはありません。エントリーシートを書いていく中で行った、というのが本音です。しかし面接が進むにつれ、質問内容が何をしたかではなく「なぜ」そうしたのか、「なぜ」そう考えたのかと深くなり、もっと事前に自己分析を丁寧に行っていればよかったと思うこともありました。

資料 A - I - 1 - 2 - 10 就職体験記（続き）

○エントリーシート

書く上で注意していたことは、他人に見てもらおうこと。もともと文章を書くのが苦手だったので、初めて企業へ提出するエントリーシートは先輩や友人など約10人に添削をお願いしました。

簡潔に、具体的に、丁寧な字で。初めの添削で指摘を受けたことに注意し、客観的に読み返して確認しました。

4. 筆記試験対策

SPI対策の本を1冊買い、苦手な言語問題のみ解きました。他は、非言語問題が苦手な友人達に教えながら確認をしました。webテストもSPIも一番苦勞したのは、スピード。早めに時間を意識して解く練習をすることをお勧めします。

5. 面接対策

○GD

選考の中にGDがある企業は少なくありません。「無駄な時間を作らない」「相手を理解する」「楽しむ」。この3つだけ意識しました。話し合いが白熱し、楽しくて、選考だということを忘れるくらい没頭したGDもあったのを覚えています。

○面接

対策としては、一度学内の模擬面接に参加。基本的な動作や立ち振る舞いなどのアドバイスを受けました。面接では、伝えたいことの要点だけを頭に入れ、相手の目を見てその人にはどう伝えたら伝わるかと考えました。私ともっと話したいと思ってもらえるよう、自分自身も面接を楽しみました。

6. 後輩へのアドバイス

就職活動を楽しんでほしい。もちろん、緊張や不安で押しつぶされそうになることもあると思います。しかし、人生の中でこんなにも多くの会社の話が聞け、多くの人と出会うことができる機会はそうありません。悩む時間はもったいない！積極的に動き、自分の可能性を広げるチャンスを自分で掴んでほしいと思います。

皆さんが「ここで働きたい！」と強く思える企業と出会い、悔いの残らない就職活動ができるよう、応援しています。

熊本大学 HP キャリア支援サイト（学内専用）

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/careersupport>

[出典：熊本大学ホームページ就職活動体験記]

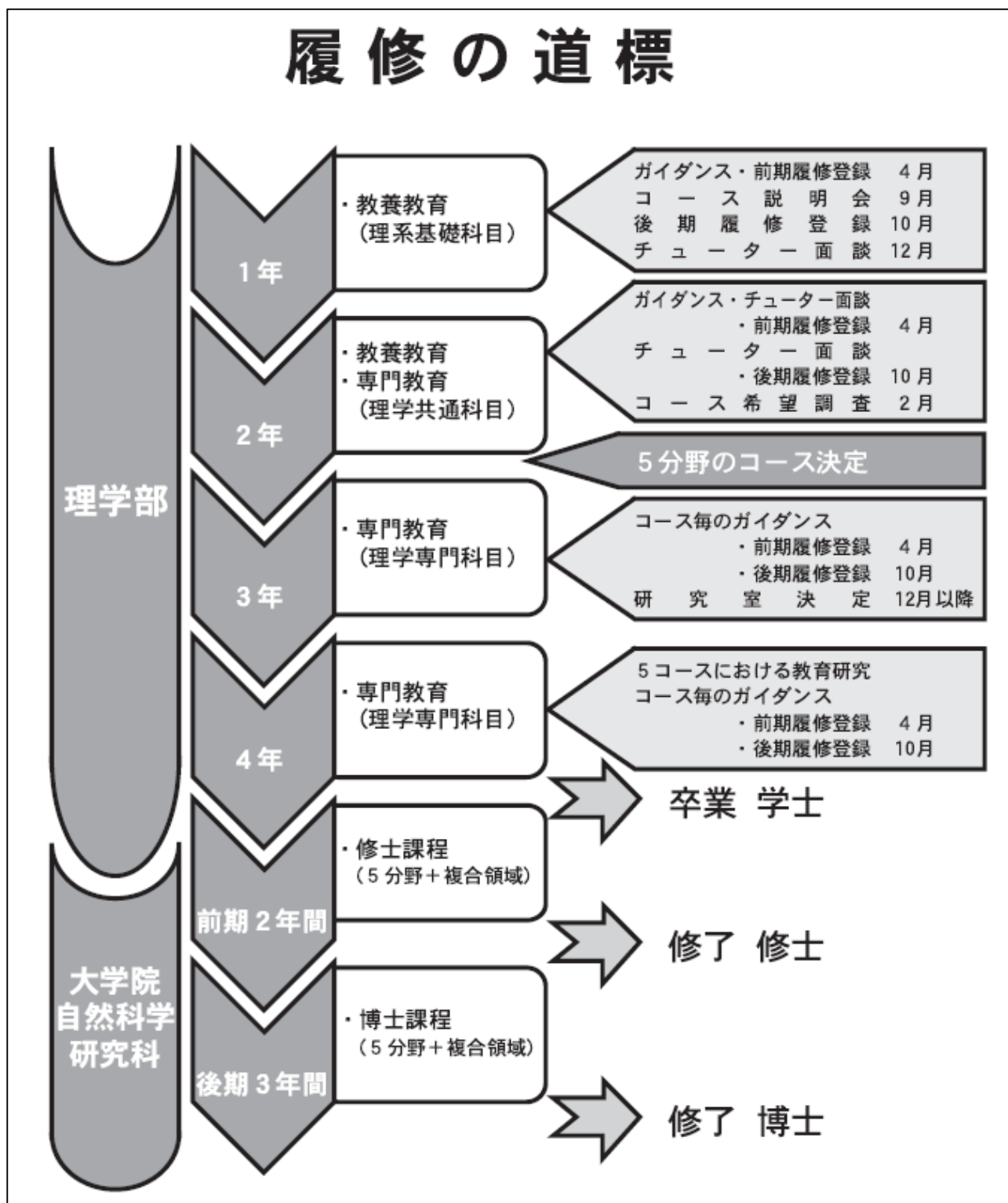
数学コースの紹介

数学は古代ギリシャの時代からその厳密な論理体系の美しさで多くの人を惹きつけてきました。数学的論理体系の追求は現在でも数学者の主要な研究動機になっています。数学では代数・幾何・解析といった大きな分野分けがされますがさらにその中には、群論、環論、表現論、数論、代数幾何、位相幾何、微分幾何、微分方程式、実解析、複素解析、確率論、力学系などなど、いくつもの分野があります。それらの分野が互いに影響を与え合いながら日々進歩し続けています。さらに、数学は数学内にとどまらず、物理学、化学、生物学、経済学、人文科学など多種多様な分野で、現象を記述する言葉として、またはデータを解析する道具としても用いられています。これら他の分野からも影響を受け、数学のさらなる発展につながっています。

数学コースでは、数学の基盤的な内容を身につけ、その上で、代数学・幾何学・解析学を基礎から学ぶことを通じて、数学的思考方法を身につけると同時に、数学の魅力を理解し数学およびその関連する分野に意欲的に取り組むための能力を育てます。

[出典：履修の手引き]

資料 A-I-1-2-12 コース毎の4年間の履修の流れ
理学科全体の履修の流れ



資料 A - I - 1 - 2 - 12 コース毎の4年間の履修の流れ（続き）
各コースにおける2年次（理学共通科目）の履修について

理学共通科目の履修について

【数学コース】

数学コースに進もうとする学生は、数学系の科目（解析幾何、微分方程式、複素解析、実数と論理、線形数学、数学演習I、数学演習II）はすべて履修してください。その他の科目は基本的に自由ですが、数理物理学に関心のある人は、物理系の科目（基礎力学、基礎量子力学、力学、基礎電磁気学）も履修してください。また他分野でも化学分野の基礎物理化学など数学を使う共通科目もあります。教養科目の中にも経済学などでは数学が使われています。このようなことも参考にしながら履修計画を立ててください。

なお、実数と論理は数理論理の基礎を扱う授業科目です。他のすべての数学科目の基礎であり、この科目を通じて数学での議論の展開の仕方を身につけてください。

【物理学コース】

物理学は、素粒子から宇宙まで、自然界とそこで起きる現象を、基本法則を基にして深く理解する学問です。物理学コースに興味があり学ぼうという学生は、2年次で物理系の科目（基礎力学、基礎量子力学、基礎電磁気学、基礎物理数学、力学、物理学共通実験）はすべて履修してください。また、物理学を記述するための数学系の科目（解析幾何、微分方程式、複素関数、線形数学）および基礎的な化学系の科目（基礎物理化学、基礎無機化学、基礎有機化学）も履修することが望まれます。化学、生物、地学の共通実験の履修も役に立ちます。将来を見通しての履修計画で分からないところがあれば気軽に物理の先生に質問してください。

【化学コース】

化学に関連する講義や実験を履修します。具体的には2年次前期で基礎物理化学、基礎分析化学、基礎無機化学、ならびに化学共通実験、2年次後期では基礎有機化学、物理化学I、分析化学I、無機化学Iです。これらの科目は、化学コースの卒業研究履修要件に深く関与しています。化学コースへ進学を考える場合は、これらの科目の履修を強く勧めます。化学の他分野との境界領域も重要です。化学以外にもできるだけ多くの共通科目を履修することを勧めます。化学の基礎となる物理や数学、応用分野と関連のある地学や生物の科目の中から、興味や適性に応じて積極的に選択してください。

【地球環境科学コース】

地球環境科学コースでは、2年次で地球環境科学および関連分野を広く履修することが望まれます。宇宙地球システム学、地球史、基礎地質学、基礎地球物質科学、基礎地球環境科学、基礎地球惑星科学の他に、化学、生物学、物理学分野の科目をできるだけ多く履修して下さい。共通科目の微分方程式、基盤科目の統計学の履修も推奨します。地球環境科学分野以外の理学共通科目については、地球環境科学コースの3履修モデルとの対応を22ページの表に示しています。ただし、この表にあるのはあくまでも参考としての科目群であり、どの共通科目の履修も、必ず地球環境科学分野の何らかの領域で役立ちます。地学共通実験はもちろん、他分野の共通実験で学ぶことも大事です。基礎的な知識を広く身につけ、地球環境科学の基本を学んでいれば、2年次までは他分野を志望していたとしても、3年次以降に地球環境科学コースに進むことに問題はなりません。

【生物学コース】

生物学コースに興味がある学生は、2年次で生物学に関する科目（細胞生物学、分子生物学、細胞生理学、生物多様性学、環境適応学、細胞遺伝学、発生工学I、生物学共通実験）はすべて履修してください。その他、細胞生物学領域では、生物を物質的側面からアプローチするため、基礎物理化学、基礎分析化学、基礎有機化学、化学共通実験など物理系、化学系の科目も履修することを勧めます。生物多様性学領域では、生物の持つ多様性を理解するうえで、地球の環境やその変遷に関する情報はとても重要です。そのために、地学分野の科目（地球史、基礎地質学など）も積極的に履修することを勧めます。

資料 A-I-1-2-12 コース毎の4年間の履修の流れ（続き）

各コースにおける履修の流れ（例：数学コース）

年次	セメスタ	科目区分	数 学 コ ー ス
2年	3	理学 共通 科目	解析幾何，微分方程式，数学演習Ⅰ， 統計学Ⅰ（教養教育・理系基礎科目）
			基礎力学，基礎量子力学
	4		線形数学，複素関数，実数と論理，計算機科学，数学演習Ⅱ， 統計学Ⅱ（教養教育・理系基礎科目）
			力学，基礎電磁気学
3年	5	理学 専門 科目	代数概論Ⅰ，代数概論Ⅰ演習，幾何概論Ⅰ，幾何概論Ⅰ演習， 解析概論Ⅰ，解析概論Ⅰ演習，複素解析，基礎講読
	6		代数概論Ⅱ，代数概論Ⅱ演習，幾何概論Ⅱ，幾何概論Ⅱ演習， 解析概論Ⅱ，解析概論Ⅱ演習，解析概論Ⅲ，
4年	7		代数学Ⅰ，幾何学Ⅰ，解析学Ⅰ，応用解析，確率論Ⅰ，確率論Ⅱ，卒業研究
	8		代数学Ⅱ，幾何学Ⅱ，解析学Ⅱ，卒業研究

[出典：履修の手引き]

資料 A - I - 1 - 2 - 13 履修モデル

コース	履修モデル	概 要
数 学	数 学	数学を体系的に学ぶ履修例
物理学	物理学	現代物理学の基礎となる分野を体系的に学ぶ履修例
化 学	化 学	化学をベースに物質の性質や反応ならびに化学物質の解析について理解する履修例
地 球 環 境 科 学	地 球 物 質 科 学	地球に存在する物質とその構造, 成り立ちを理解する履修例
	地球環境変遷学	地球環境とそこに生きる生物の変遷と進化を理解するための履修例
	地球惑星物理学	惑星としての地球とそこで起こる物理的, 化学的現象を理解する履修例
生物学	細 胞 生 物 学	多細胞個体, 細胞, 生体高分子といったさまざまなレベルの情報を統合して生命を理解する能力を身につける履修例
	生 物 多 様 性 学	生物の持つ多様性を個体群・種・生態系レベルで理解する履修例

[出典 : 平成 25 年度履修の手引き]

・ 数学コース 履修モデル

年次	セメスタ	科目区分	数 学 コ ー ス
2年	3	理学 共通 科目	解析幾何，微分方程式，数学演習Ⅰ， 統計学Ⅰ（教養教育・理系基礎科目）
			基礎力学，基礎量子力学
	4		線形数学，複素関数，実数と論理，計算機科学，数学演習Ⅱ， 統計学Ⅱ（教養教育・理系基礎科目）
			力学，基礎電磁気学
3年	5	理学 専門 科目	代数概論Ⅰ，代数概論Ⅰ演習，幾何概論Ⅰ，幾何概論Ⅰ演習， 解析概論Ⅰ，解析概論Ⅰ演習，複素解析，基礎講読
	6		代数概論Ⅱ，代数概論Ⅱ演習，幾何概論Ⅱ，幾何概論Ⅱ演習， 解析概論Ⅱ，解析概論Ⅱ演習，解析概論Ⅲ，
4年	7		代数学Ⅰ，幾何学Ⅰ，解析学Ⅰ，応用解析，確率論Ⅰ，確率論Ⅱ，卒業研究
	8		代数学Ⅱ，幾何学Ⅱ，解析学Ⅱ，卒業研究

・物理学コース 履修モデル

物理学コース 履修モデル				
年次	セメスタ	科目区分	物理学履修モデル	
			現代物理学の基礎となる分野を体系的に学ぶ履修例	
2年	3	理学共通科目	物理学	基礎力学, 基礎量子力学
			数学	解析幾何, 微分方程式, 統計学Ⅰ (理系基礎科目)
			化学	基礎物理化学, 基礎無機化学
	4		物理学	基礎電磁気学, 基礎物理数学, 力学, 物理学共通実験
			数学	複素関数, 線形数学, 統計学Ⅱ (理系基礎科目)
			化学	基礎有機化学
3年	5	理学専門科目	物理学	力学演習, 電磁気学, 電磁気学演習, 解析力学 熱力学, 物理実験学, 物理実験A
	6			量子力学Ⅰ, 量子力学Ⅰ演習, 統計力学, 物理数学, 光学 コンピュータ物理学, 物理実験B, 科学英語 (物理)Ⅰ
4年	7			卒業研究 (必修), 量子力学Ⅱ, 量子力学Ⅱ演習, 熱統計力学演習 統計物理, 基礎数理物理学, 物性物理学Ⅰ, 科学英語 (物理)Ⅱ
	8			卒業研究 (必修), 量子力学Ⅲ 特殊相対論, 物性物理学Ⅱ

下線の科目は物理学の基本となる重要科目 (物理学コア科目)

卒業研究を履修するためには、物理学コア科目を15単位以上修得しておくこと。

・化学コース 履修モデル

化学コース 履修モデル					
年次	セメスタ	科目区分	化学履修モデル		
			講義	実験, 演習	
2年	3	理学共通科目	基礎物理化学, 基礎分析化学, 基礎無機化学	化学共通実験	
	4		基礎有機化学, 物理化学Ⅰ, 無機化学Ⅰ, 分析化学Ⅰ		
3年	5	理学専門科目	有機化学Ⅰ, 有機化学Ⅱ, 物理化学Ⅱ, 無機化学Ⅱ, 分析化学Ⅱ	化学実験A 化学実験B	
	6		物理化学Ⅲ, 無機化学Ⅲ, 分析化学Ⅲ, 有機化学Ⅲ 物性化学, 有機反応化学	化学実験C 化学実験D	
4年	7			化学特別講義A, B, C, D (集中講義)	卒業研究 化学セミナー
	8				

このほか、化学の基礎と関連する物理や数学、あるいは化学の応用分野と関連する地学や生物系の科目を、自分の興味や適性を考慮し選択してください。

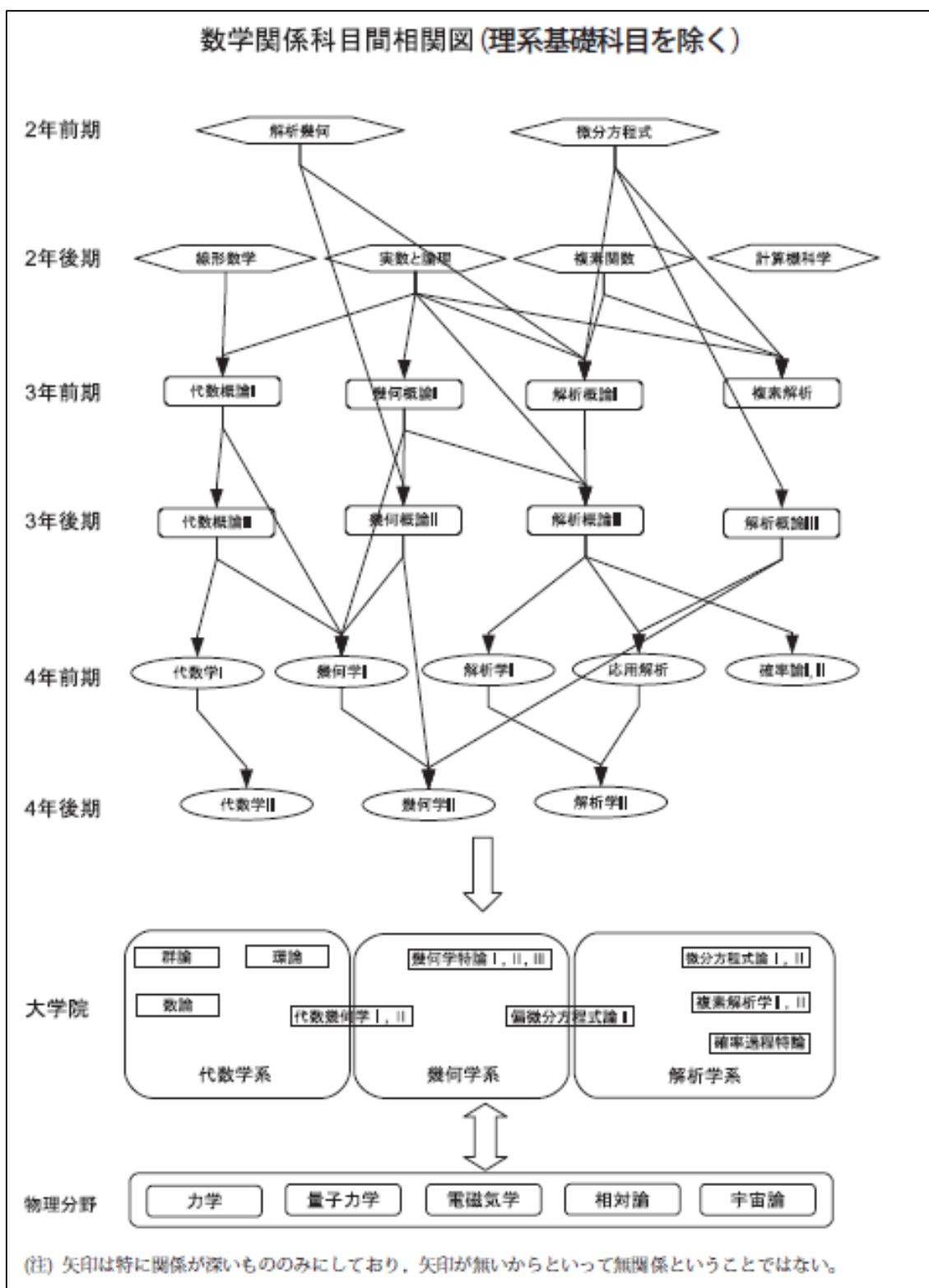
・地球環境科学コース 履修モデル

地球環境科学コース 履修モデル					
年次	セメスタ	科目区分	地球物質科学	地球環境変遷学	地球惑星物理学
			地球に存在する物質とその構造、成り立ちを理解するための履修例	地球環境とそこに生きる生物の変遷とその進化を理解するための履修例	惑星としての地球とそこで起こる物理的、化学的現象を理解するための履修例
2年	3	理学共通科目	宇宙地球システム学、地球史、微分方程式、共通実験、統計学Ⅰ（理系基礎科目）		
			基礎分析化学 基礎無機化学	生物多様性学 分子生物学	基礎分析化学 基礎力学
3年	4	理学共通科目	基礎地質学、基礎地球物質科学、基礎地球環境科学、基礎地球惑星科学、海洋特別実習ⅠまたはⅡ、共通実験、統計学Ⅱ（理系基礎科目）		
			分析化学Ⅰ	環境適応学	基礎電磁気学 基礎物理数学
*3年	5	理学専門科目	岩石学、地球惑星物質学、水文学、地球エネルギー学、基礎講義Ⅰ、地球科学実験A、地球惑星環境学実験A、野外巡検（通年）、地球環境科学特別講義（集中講義）		
			層位学 堆積学 進化古生物学 地球惑星化学 地質調査法Ⅰ 地質調査法Ⅱ（通年） 地球科学実験B	層位学 堆積学 多様性進化学 系統分類学 進化古生物学 地質調査法Ⅰ 地質調査法Ⅱ（通年） 地球科学実験B	気象学 熱力学 固体地球物理学A 地球惑星化学 地球惑星環境学実験B
4年	7	理学専門科目	地球物質動態学、火山学、固体地球物理学B、基礎講義Ⅱ、地球科学実験C、地球惑星環境学実験C、地球環境科学特別講義（集中講義）		
			地史学 構造地質学 海洋の科学 古環境論 社会地球科学 地球科学実験D 地球科学実験E	地史学 構造地質学 古環境論 社会地球科学 自然誌科学 保全生物学 地球科学実験D 地球科学実験E	海洋の科学 統計力学 コンピュータ物理学 地球惑星環境学実験D
8	8	理学専門科目	地球環境科学演習A、卒業研究（通年）		
			物性物理学Ⅰ		物性物理学Ⅰ
地球環境科学演習B					

*このリストにある科目の全てを3年次の間に修得しなければならないということではなく、4年次になってから履修することも可能です。ただし、卒業研究履修要件を満たすために、この中から14単位以上を3年次の間に修得するようにしてください。

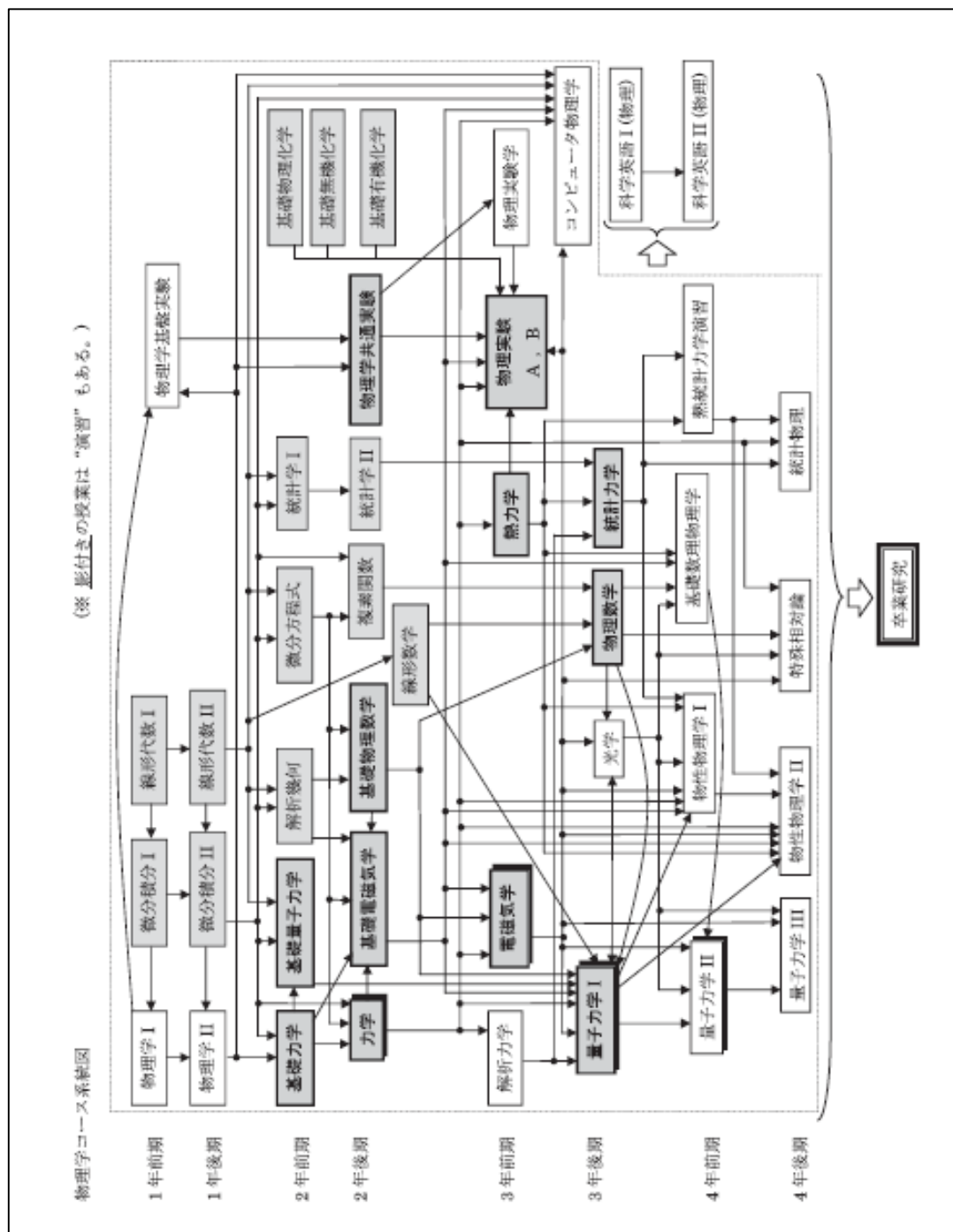
・生物学コース

生物学コース 履修モデル				
年次	セメスタ	科目区分	細胞生物学	生物多様性学
			多細胞個体、細胞、生体高分子といったさまざまなレベルの情報を統合して生命を理解する能力を身につける履修例	生物をの持つ多様性を個体群・種・生態系レベルで理解する履修例
2年	3	理学共通科目	分子生物学、細胞生物学、生物多様性学、共通実験、統計学Ⅰ（理系基礎科目）	
			基礎物理化学 基礎分析化学	地球システム学 地球史
	4		発生工学Ⅰ、細胞遺伝学、細胞生理学、環境適応学、共通実験、統計学Ⅱ（理系基礎科目）	
			基礎有機化学	基礎地質学
3年	5	理学専門科目	生化学、植物生理学、動物生理学、多様性進化学、植物分子生物学、基礎講義Ⅰ、生物環境基礎実験、生物環境演習A、	
			発生生物学 内分泌学 細胞生物学実験A	系統分類学 共生生物圏学 生物多様性学実験A 臨海実習Ⅰ
	6		植物代謝生理学、自然誌科学、生物環境実験、生物環境演習B、基礎講義Ⅱ	
			分子細胞生物学 神経生理学 分子発生生物学 分子遺伝学 免疫学 細胞生物学実験B	保全生物学 海洋生態多様性学 生物多様性学実験B 臨海実習Ⅱ
4年	7	科目	卒業研究、生物環境セミナーA、生物環境概論、理学特別講義（集中講義）	
				進化古生物学
	8		卒業研究、生物環境セミナーB、理学特別講義（集中講義）	
			細胞生物学概論	



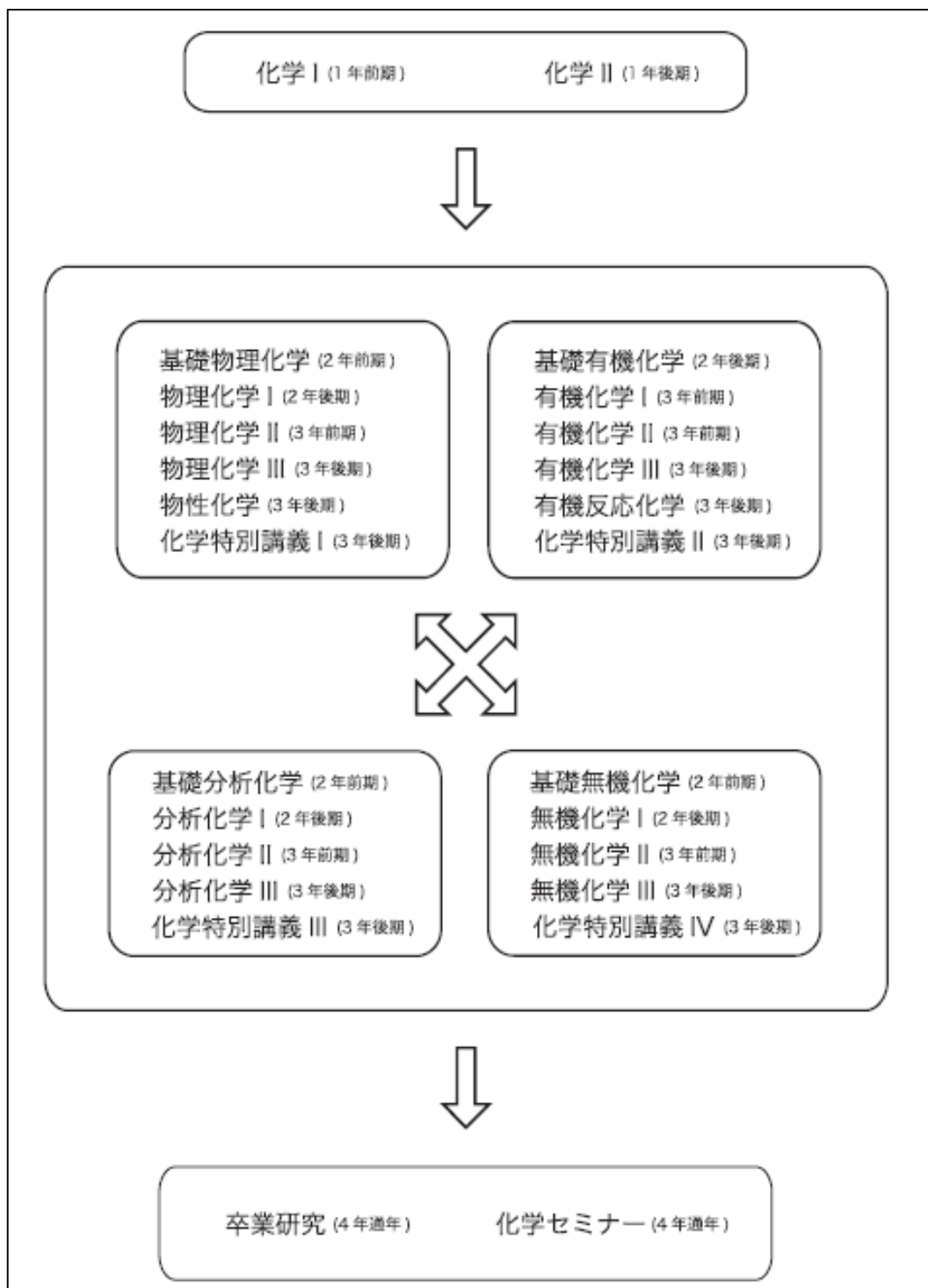
[出典：平成 25 年度履修の手引き]

資料 A - I - 1 - 2 - 14 科目相関図 (物理学)

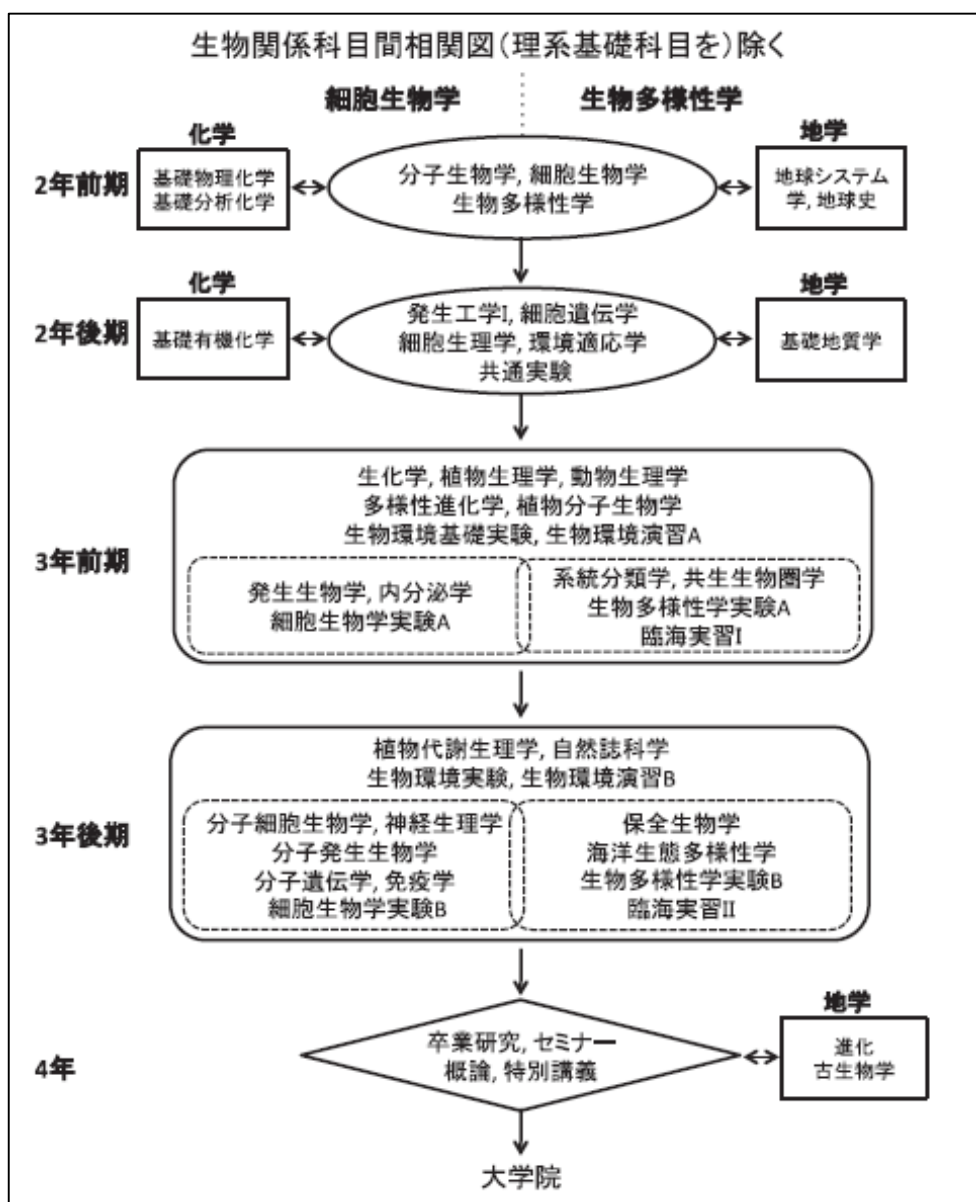


[出典：平成 25 年度履修の手引き]

資料 A - I - 1 - 2 - 14 科目相関図 (化学)



[出典：平成 25 年度履修の手引き]



[出典：平成 25 年度履修の手引き]

資料 A - I - 1 - 2 - 15 コース変更の学生数

コース変更の学生数

新コース	旧コース	H23年度	H24年度	H25年度
化学	生命科学			
生命科学	地球環境科学	1		
生命科学	物理科学	1		
地球環境科学	物理科学	1		1
地球環境科学	数理科学		1	3
地球環境科学	生命科学			2
地球環境科学	化学			1
物理科学	数理科学			2
計		3	1	9

[出典：教務担当資料を基に作成]

学生のケア体制・チューターと担任の役割分担

平成19年1月26日 理学部運営会議

1. 理学部における学生のケア体制を以下のように明確化する.
 - (1) 担当
 - 1年次：担任
 - 2年次：チューター
 - 3年時以降：各プログラム（講座）毎に定める.
 - 留年生：学部長室
 - (2) 担任の役割
 - 新入生ガイダンスを担当する.
 - 担当クラスの学生の相談窓口
 - 履修登録完了調査・欠席調査などで不登校が懸念される学生への対応
 - (3) チューターの役割
 - 進路指導とそれに伴う履修指導
 - 担当の学生の相談窓口
 - 履修登録完了調査・欠席調査などで不登校が懸念される学生への対応
 - (4) 留年生へのケア
 - 学部長面談による
 - (5) その他
 - 学生と学部長による懇談会を設け、意見・要望を吸い上げる.
2. 担任の決め方
 - ・学生委員会に副委員長をおく.
 - ・副委員長は1年ごと講座持ち回りとする. ただし委員長を出す講座にあたったときは、その講座をとばして次の講座から出す.
 - ・講座選出の学生委員計5名と副委員長が担任を兼ねる.
 - ・2年生の担任は廃止する.

注記：全学の学生委員の任期が2年で、学生委員長の任期もそれに合わせて2年としているため、副委員長は1年任期とし、次期委員長を意味しない.
3. チューターの決め方
 - ・学生の希望分野に応じてチューターを宛てるという方法も考えられるので、チューターを決める時期なども含めて次年度の検討課題とする.

[出典：理学部運営会議資料]

チューター実施マニュアル

平成 19 年 12 月 理学部教務委員会

1. チューターの仕事内容

チューターの役割は以下である(平成 19 年 1 月 26 日 理学部運営会議決定, 原岡前学科長から 2 月 6 日付けで全員にメール連絡済). 2 年生の, 1) 進路指導とそれに伴う履修指導, 2) 担当の学生の相談窓口, 3) 履修登録完了調査・欠席調査などで不登校が懸念される学生への対応. チューターの決定に関して, 本年度は従来通り学生の希望プログラムとは無関係に機械的に割り振ることとしたため, 1 年生の 12 月にチューターを決定し, 第 1 回の面談を行うこととした. 1 年生で前倒しとなるが, 1) と 2) に関して, 2 年生に向けて上述の役割をお願いしたい.

進路指導について具体的には, 3 年生で希望する教育プログラムへ進むための履修指導と助言を行う. 「平成 19 年度学生便覧」とともに, 各教育プログラムの内容をまとめた「平成 19 年度教育プログラムハンドブック」をもとにして, 履修指導を行う. すなわち学生本人の希望・各教育プログラムの概要・学生の履修(単位取得)状況などを総合的に判断して, 2 年次科目の選択について助言を行う. 各教育プログラムについての詳しい説明を求められたときは, 必要に応じて本資料末尾の教務委員へ振る. また教員免許や学芸員資格についてなど教務関係の質問に対しても, 基本的に学生便覧に基づく回答となるが, 必要に応じて教務委員へ振る.

そのほか, 学生の学習・進路・生活などの各方面についての相談相手となる.

なお, 第 2 回と第 3 回については, 面談内容の詳細を開催直前に再度連絡する予定.

2. 第 1 回面談

日時: 12 月中旬(教務委員会で日程を定めるので, その期間内でチューター毎に学生と相談して設定する)

場所: 各教員室

日時については、学生あるいはチューターの都合が悪いときは、次の方法で別な日時を設定する。まずチューターの都合が悪いときは、チューターが理学系教務担当へ都合の良い日時を連絡し、掲示してもらうことで学生へ伝える。学生の都合が悪いときは、学生が e-mail 等にてチューターへ連絡を取り、相談の上適当な日時を設定する。

面談内容：希望する教育プログラムについて相談し、プログラム希望調査用紙に記入して理学系教務担当に提出するよう伝える。締切は12月下旬。なお、教育プログラムの最終決定は2年生の2月に行うので、それまでは「仮の調査であり、束縛はされない」旨を伝える。希望の教育プログラムへ進むために2年次でどのような科目を選択するのが望ましいか、これからどのような勉強をしていったらよいかなどについて考え始めるよう促す。

また、学生の携帯メールアドレスを聞くなどして、学生との連絡方法を確立する。第2回面談が4月の前期履修登録時期に予定されているので、後日その日程を設定するため必要となる。連絡先が変更になった場合、チューターにも必ず連絡するよう伝える。

そのほか学生生活全般について、学生の意見等があれば対応する。ただし、セクハラや精神的なケア等は専門の相談窓口があるので、チューターが全て抱え込む必要はない。適宜、理学系教務担当等への連絡窓口をお願いする。

面談内容は、「学生指導控」に記入して保存する（以降の面談も同様）。

なお第2回面談の日程について、4月初旬を予定していること、チューターから連絡して日程調整することを伝える。

3. 第2回面談

日時：4月初旬、前期履修登録時期（教務委員会で日程を定めるので、その期間内でチューター毎に学生と相談して設定する）

場所：各教員室

面談内容：学生から1年次の履修状況を聞き、2年次科目の選択についての助言を行う。共通科目（前期分）については履修計画を作成させ、それに承認を与えるのがチューターの仕事となっている。

なお第3回面談の日程については、10月初旬のガイダンス時期が予定されていることを伝える。

4. 第3回面談

日時：10月初旬，後期履修登録時期（教務委員会で日程を定めるので，その期間内でチューター毎に学生と相談して設定する）

場所：各教員室

面談内容：プログラムの選択および2年次後期科目の選択について助言を行う。共通科目（後期分）については履修計画を作成させ，それに承認を与えるのがチューターの仕事となっている。

5. 補足

履修指導（助言）については，選択する履修モデルを決めている学生に対しては推奨科目を含み，それプラス広く履修するように付け加える。選択する教育プログラムを決めていない学生，および自主編成プログラムを考えている学生に対しては，チューターの指導が重要な要素となる。

上記の面談の回数は最低限のものであり，必要に応じて適宜面談を行うことを制限するものではない。

チューターが効果的な指導を行うことができない場合は，学生またはチューターの申し出によりチューターの交代を行うことができるという制度がある（教育プログラム制実施細則第2条3項）ので，該当する場合には教務委員会へ申し出るよう周知すること。（実際の申し出は理学系教務担当へ行う。）

[出典：チューター実施マニュアル]

学生指導控

学生番号：

氏名： (平成 年度入学)

保護者連絡先

住所

電話番号

本人連絡先

住所

電話番号 (携帯電話)

電子メールアドレス

年 月 日	レベル	指導方法	指 導 内 容

注) レベルは以下のように分類する。

- A : 本人が自発的に接触してきた。
- B : 本人を呼び出し、面談した。
- C : 両親 (身元保証人) に書面により警告した。
- D : 両親 (身元保証人) を呼び出し警告した。

[出典：教務担当資料]

資料 A - I - 1 - 2 - 19 学部長面談

A	平成24年度入学				アパート			サークル	×	バイト	×				
2014/04/ 2回生2年 成績不振	総取得単位 22	基礎セミ 教養数学	1 4	情報 教養理科	1 8	必修外国語 基盤実験	2 2	自由外国語 理学共通	0 0	教養科目 教養必修	4 4	社会連携科目 教養選択		学際科目 4	進級 卒業
面談記録:	2013年後期登録するも全てX。														
指導内容:															
特記事項:	応答なし。保証人に成績不振と面談できない旨の連絡を教務担当係に依頼。														
2014/5/2 2回生2年 成績不振	総取得単位 22	基礎セミ 教養数学	1 4	情報 教養理科	1 8	必修外国語 基盤実験	2 2	自由外国語 理学共通	0 0	教養科目 教養必修	4 4	社会連携科目 教養選択		学際科目 4	進級 卒業
面談記録:	後期初めに風邪による体調不良とその後の生活時間の乱れで1カ月程度登校できず、授業を放棄。 現在は問題なし(4月初めのガイダンスも受けていない。受講登録もなし。) 保証人からも連絡あり。(連休前に連れに来ている。三者面談を希望。) ※ 本人との面談後に判断することとした。														
指導内容:	進級要件+a を目指すべく履修指導(1年間でも進級要件を満たすことは可能)。希望コース:物理or化学 前期:統計学と共通科目中心に。英語C3と初修外国語は教養事務に確認 後期:理系基礎(数学3科目, 理科4科目)と教養必修(情報2科目, 英語A2,B2,C4) 進級要件:教養必修4単位, 理系基礎8単位(数学4, 理科4), 共通科目10単位 ※ 共通科目担当者に履修の承諾を得つつあった。														
特記事項:	途中挫折せず続けば問題ないと思われるが...														
次回	総取得単位 0	基礎セミ 教養数学		情報 教養理科		必修外国語 基盤実験		自由外国語 理学共通	0 0	教養科目 教養必修		社会連携科目 教養選択		学際科目 0	
面談記録:															
指導内容:															
特記事項:															

[出典：教務担当資料]

資料 A - I - 1 - 2 - 20 欠席者調査

***** *****前年度資料***** *****
On 2011/05/17, at 11:16, 光永 正治 wrote:
理学教養科目, 理学共通科目担当各位 Cc: 教務担当 山内様 (上記を担当されていない先生は削除してください。)
先日の理学会議でもお知らせしましたように、欠席回数が多い学生の調査をしますので、担当の先生方には以下の報告をお願いします。
対象科目：理学教養科目(旧基盤科目)と理学共通科目の実験・演習を含む 全て
対象学生：5月19日(木)時点で、3回以上欠席している全学生
報告内容：欠席者氏名、学生番号、欠席回数
報告先：理学部教務担当 szr-kyomu@jimu.kumamoto-u.ac.jp
締切：6月3日(金)
(理学教養科目欠席者についてはクラス担任、複数の理学共通科目欠席者についてはチューターを通して指導していただきます。)
理学部教務委員長 光永 正治

[出典：教務担当資料]

理学部学生 各位

小講義室を自修のために使用する際の
使用時間について

理学部2号館の小講義室は、授業やゼミ等で使用している場合を除き、自修のための使用を認めていますが、今後、自修室として使用できる時間を下記のとおりとします。

使用は自修目的のみとします。安全管理及び防犯のため、使用時間は厳守してください。

なお、時間外のグループ学修は、附属図書館のグループ学修室が利用できます。希望者は、別紙グループ学修室の掲示を参照してください。

記

- 1 使用できる時間 8時～20時まで
20時に施錠します。
- 2 平成26年4月7日(月)から適用します。
- 3 自修室として使用できる講義室
C123小講義室 (理学部2号館1階)
C228小講義室 (理学部2号館2階)
C331小講義室 (理学部2号館3階)

平成26年4月3日 理学部長

[出典：教務担当資料]

平成25年度「熊本大学理学部国際奨学金」の募集について

1. 趣旨

理学部学生の国際的な学習・研究活動への参加機会を広く提供し、参加を支援することによって、国際的視野と学習研究能力を高め、積極的な社会進出を動機付けることを目的として奨学金の支給を行う。

2. 応募資格

理学部に在籍する学部学生で、次の活動を目的とする者。

ただし、他の経費から支給される場合は対象としない。

- (1) 国際学会への参加
- (2) 国際的な調査活動
- (3) 国際インターンシップ
- (4) 国際交流協定校での目標を定めた学習
- (5) その他、国際的な学習・研究活動

3. 支給予定人数

第1次募集、第2次募集それぞれ2～3名程度とする。

4. 支給予定額

採用された者に対して1人当たり15万円程度の奨学金を支給する。

5. 募集期間

第1次募集：平成25年7月8日（月）～平成25年7月19日（金）

第2次募集：平成25年11月頃の募集予定

6. 対象となる国際活動の期間

平成25年4月～平成26年3月

※ 4月以降、募集期間以前に行った活動についても対象とする。

7. 提出書類

- (1) 申請書（所定様式）
- (2) 指導教員からの推薦書（所定様式）
- (3) 学業成績証明書
- (4) スコア証明書（TOEFL 又は TOEIC を受験した者のみ）
- (5) その他

国際学会へ参加し発表する場合は、そのプログラム又は要旨を添付すること。
調査活動の場合は、先方からの招聘状又はこれに類するものを添付すること。

8. 提出先

理学部教務担当（工学部1号館1階）

9. 選考方法

奨学生の選考は、提出された書類により、学業成績、外国語能力及び企画（研究計画、学会報告等）の内容等を総合的に判定して行う。

10. 成果及び事業の報告

奨学金を得て国際活動を行った学生は、帰国後速やかに成果報告書を理学部長に提出するものとする。また、帰国後に学内報告会等により成果を発表するものとする。

問い合わせ先：理学部教務担当 平成25年7月1日 掲示

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A - I - 1 - 2 - 23 国際奨学金実績

国際奨学事業の実績

平成17(2005)年度から実施している
過去5年間の理学部における実施実績はつぎのとおり

- ① 国際学会での発表
 - ② 国際的な調査活動
 - ③ 国際インターンシップ
 - ④ 国際交流協定校での目標を定めた学習
 - ⑤ その他
- 注意 海外語学セミナーは含まない

学部(研究科)	学科又は専攻	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先	渡航期間	奨学金支給額	備考(経費区分)	
1	理学部	理学科	4年	国際学会での発表	①	アメリカ ニューヨーク	H20年9月17日～H20年9月23日	200,000	国際奨学事業経費
2	理学部	理学科	4年	国際学会での発表	①	ポーランド カロリンスカ	H20年12月6日～H20年12月15日	200,000	国際奨学事業経費
3	理学部	理学科	4年	国際的な調査活動	②	アメリカ ハワイ	H21年2月18日～H21年2月23日	200,000	国際奨学事業経費
4	理学部	理学科	3年	国際的な調査活動	②	アメリカ ハワイ	H21年2月18日～H21年2月23日	200,000	国際奨学事業経費
							800,000	国際奨学事業経費(80万円)	

学部(研究科)	学科又は専攻	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先	渡航期間	奨学金支給額	備考(経費区分)	
1	理学部	理学科	4	国際学会参加	①	アメリカ ハワイ	H21年7月11日～H21年7月18日	149,000円	国際奨学事業経費
2	理学部	理学科	4	国際学会参加	①	アメリカ ニューオーリンズ	H21年11月18日～H21年11月25日	155,000円	国際奨学事業経費
3	理学部	理学科	4	国際的な調査活動	②	アメリカ ロサンゼルス	H21年9月15日～H21年9月22日	91,000円	国際奨学事業経費
4	理学部	理学科	4	国際的な調査活動	②	ベトナム ハノイ他	H21年9月3日～H21年9月15日	149,000円	国際奨学事業経費
5	理学部	理学科	4	国際的な調査活動	②	アメリカ テキサス州	H21年11月11日～H21年11月20日	203,000円	国際奨学事業経費
6	理学部	理学科	4	国際的な調査活動	②	アメリカ ニューヨーク州	H22年3月16日～H22年3月22日	142,000円	国際奨学事業経費:53,000円 国際共同教育事業経費:89,000円
7	理学部	理学科	4	国際的な調査活動	②	インドネシア ジョグジャカル	H22年3月26日～H22年3月31日	111,000円	国際共同教育事業経費
							1,000,000円	国際奨学事業経費(80万円) 国際共同教育事業経費(20万円)	

学部(研究科)	学科又は専攻	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先	渡航期間	奨学金支給額	備考(経費区分)	
1	理学部	理学科	4	国際学会参加	②	オーストラリア ケアンズ	H22年7月26日～H22年7月30日	200,000円	国際奨学事業経費
2	理学部	理学科	4	国際学会発表	①	インドネシア ジャカルタ	H22年10月18日～H22年10月24日	151,000円	国際奨学事業経費
3	理学部	理学科	4	国際的な学習・研究活動	②	ロシア イルクーツク	H23年3月21日～H23年4月1日	200,000円	国際奨学事業経費
							551,000円	国際奨学事業経費(60万円)	

学部(研究科)	学科又は専攻	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先	渡航期間	奨学金支給額	備考(経費区分)	
1	理学部	理学科	4	国際学会参加	①	オーストラリア メルボルン	H23.7.22～8.1	160,000円	国際奨学事業経費 理学部長経費
2	理学部	理学科	4	調査活動	②	ベトナム ハノイ	H23.9.28～10.9	160,000円	国際奨学事業経費 理学部長経費
3	理学部	理学科	4	国際学会参加	①	アメリカ ボストン	H23.11.12～11.20	160,000円	国際奨学事業経費 理学部長経費
4	理学部	理学科	4	国際学会参加	①	オーストラリア メルボルン	H23.7.22～8.1	160,000円	国際奨学事業経費 理学部長経費
5	理学部	理学科	4	国際学会参加	①	アメリカ ボストン	H23.11.12～11.20	160,000円	国際奨学事業経費 理学部長経費
							800,000円	国際奨学事業経費(60万円) 理学部長経費(20万円)	

学部(研究科)	学科又は専攻	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先	渡航期間	奨学金支給額	備考(経費区分)	
1	理学部	理学科	4	国際学会参加	⑤	フランス	H24.7.21～7.29	200,000円	国際奨学事業経費
2	理学部	理学科	4	国際的な共同研究	②	ベトナム ハノイ、ホーチミン	H24.10.2～10.6	108,141円	国際奨学事業経費
3	理学部	理学科	4	国際的な調査	②	ベトナム ハノイ	H24.6.17～6.24 H24.9.29～10.10	180,402円	国際奨学事業経費
							488,543円	国際奨学事業経費(60万円)	

学部(研究科)	学科又は専攻	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先	渡航期間	奨学金支給額	備考(経費区分)	
1	理学部	理学科	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	イギリス オックスフォード	H25年10月24日～H25年11月25日	150,000円	国際奨学事業経費 理学部長経費
2	理学部	理学科	4	国際学会参加	①	アメリカ バークレー	H25年6月9日～H25年6月16日	150,000円	国際奨学事業経費 理学部長経費
3	理学部	理学科	4	国際学会参加	①	アメリカ サンフランシスコ	H25年12月8日～H25年12月25日	150,000円	国際奨学事業経費 理学部長経費
4	理学部	理学科	4	国際学会参加	①	韓国 釜山	H25年7月14日～H25年7月17日	26,745円	国際奨学事業経費 理学部長経費
							476,745円	国際奨学事業経費(40万円) 理学部長経費(76,745円)	

[出典：ミッションの再定義資料]

資料 A - I - 1 - 2 - 24 留学生に対するチューターの実績

留学生に対するチューターの実績

(人)

	H22(前期)	H22(後期)	H23(前期)	H23(後期)	H24(前期)	H24(後期)	H25(前期)	H25(後期)
留学生	(*)	(*)	(*)	1	1	2	1	2
チューター	0	0	0	1	1	2	1	2

(*) チューターを必要とする外国人留学生 : 該当なし

チューターの詳細

	所属身分・学科(専攻)	学年
H23(後期)	自然科学研究科・理学専攻・物理科学コース	1
H24(前期)	自然科学研究科博士前期課程/数学専攻	-
H24(後期)	大学院自然科学研究科博士前期課程理学専攻	2
	大学院自然科学研究科博士前期課程理学専攻	1
H25(前期)	自然科学研究科博士前期課程理学専攻	1
H25(後期)	大学院自然科学研究科博士前期課程 理学専攻	1
	大学院自然科学研究科博士前期課程 理学専攻	1

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

H25 年度 熊本大学理学部理学科 1 年生ガイダンスの手引き p.1

2013 年 4 月 3 日

平成 25 年度 熊本大学理学部理学科 1 年生ガイダンスの手引き

教務委員会

このガイダンスは、新入生一人一人が熊本大学理学部の教育体制、カリキュラムなどを十分理解し、大学生としての今後の学生生活を有意義に、実り多く過ごしていくために極めて重要な事柄について説明するものである。聞き逃したり誤解したりしたままでは、直ちに重大な不利益に結び付くことがあるので、分からないことがあったらためらわずにすぐに質問すること。

1. 配布物の確認

1) 理学部配布物（配布資料一覧で確認すること）

1 年生学生名簿（組名簿）

入部式（4 月 4 日）座席表

平成 25 年度（2013）学生便覧（空色の表紙、以下「便覧」という）

平成 25 年度授業計画書（空色の表紙、以下「授業計画書」という）

1 年生ガイダンスの手引き（この資料）

修得単位計算表

1 年生時間割

理学部通信

学部長へのダイレクトメールについて

成績送付に関する案内書

理学部書庫の利用について

問診票・X 線撮影票・検尿容器

予防接種等調査票

2) 教養教育実施機構配布物（配布資料一覧で確認すること）

教養教育の案内（青色の表紙、以下「案内」という）

教養教育授業計画書

教養教育外国語履修案内

教養教育授業時間割

学生案内

健康・安全の手引

基礎セミナークラス番号希望届（マークシート用紙）

基礎セミナークラス分け手順 ほか

* 学生証は、明日の入部式で配布。

[出典：理学部教務委員会資料より抜粋]

資料A-I-1-2-26 履修相談会（理学部ガイダンス日程表）

2013年度（平成25年度）理学部ガイダンス日程表

2014/9/26

月日	曜日	内容	開始時間	終了時間	場 所	対象学生					対応教員（△：待機）										
						新入生	2年生	3年生	4年生	M1	担任（学生委員）	学部長	副学部長	学科長	前教務委員長	教務委員長	学生委員長	各コース	学芸員課程専門委員	その他	
3月中旬		教務委員会（ガイダンス資料の検討）																			
3月27日		教養教育ガイダンス説明会	9:00	12:00	（全学教育棟C301）						○					○	○	○			
3月末～4月初め		理学部ガイダンス説明会	13:30		共用会議室B						○					○	○	○			
4月3日	水	新入生ガイダンス	9:00		全学教育棟E107	○					○					○					
			9:30頃		理学部講義室	○					○						1階小講義室 待機				
		新入生向け学芸員ガイダンス（希望者のみ）	13:00	13:30	C330(担当 小松)	○														○	
		推薦入学者への課題返却	13:30	14:00	C123(担当 高宮)	○						○									
		担任の先生と話そう	13:00	14:30		○						○									
		先輩と会おう	13:00	16:00		○															
4月4日	木	入学式	10:00	11:00	熊本県立劇場	○						○									
		入部式	13:00	14:00	全学教育棟E107	○					○	○	○	○		○	○				
		自然科学研究科入科式	14:00		工学部百周年記念館					○	○										
		自然科学研究科ガイダンス			各コースごと					○										○	
4月5日	金	2年生ガイダンス	9:30		C122とC226		○								○	○					
		教職ガイダンス（希望者のみ）	上終了後		C122とC226		○								○	○					
		学芸員ガイダンス（希望者のみ）3,4年は別対応	上終了後		C122(担当 小松)		○	○	○											○	
		3年生ガイダンス			各コースごと			○												○	
		4年生ガイダンス			各コースごと				○											○	
		新入生履修相談会	10:00	14:00まで 参加 (16:00)	全学教育棟 多目的会議室 (演名:井上、戸田・高宗)	○								○	○	○				○	
4月中旬まで		チューター面談					○														
5月11日～12日		合宿研修				○					○	○	○								

※ 1年生ガイダンス資料でも履修相談会を周知している。

[出典：理学部教務委員会資料]

2012 年 4 月 6 日

平成 24 年度理学科 2 年生ガイダンス資料

教務委員会

1. 配布物確認

授業計画書, 2 年生ガイダンス資料, 修得単位計算表, 学部長へのダイレクトメールについて, 理学部書庫の利用について, 問診票, X 線撮影票, その他各コースからの配布物

2. 日程確認 すべて掲示されている

健康診断 4/19 (木) 午前男子, 午後女子. 学生証, 問診票, X 線撮影票を持参すること

履修登録期間 4/6 (金) ~ 20 (金) SOSEKI での登録

住所等変更届・履修登録願 (本年度より SOSEKI による履修登録でエラーがあった場合および住所等変更があった場合のみ提出) 提出期限 4/20 (金) 提出先: 理学部教務担当

3. 履修関係 重要

・2 年次では, 自然科学各分野のより深い内容を含む, 「共通科目」を主に履修する. 教育プログラムハンドブックの「共通科目の履修について」を参考にすること.

・各自, 自分の修得単位と 2 年次から 3 年次への進級要件 (便覧 6 ページ) を修得単位計算表に記入の上で確認し, 満たしていない場合は本年度の履修計画の決定と単位修得を確実に行うこと.

進級要件

理学教養科目「数学 8 単位以上, 物理・化学・生物・地学 12 単位以上, 基盤実験科目 2 単位以上」

理学共通科目「2 年次に開講される共通科目 10 単位以上」

教養教育科目「必修科目 (基礎セミナー, 情報科目及び外国語科目) 8 単位以上」

・教養選択科目について (教養教育案内 p.27) 理系以外の教養科目を幅広く履修することが望ましい.

「教員免許取得に必要な「体育」は, 学系 4「命と健康」の「体育・スポーツ科学 A」である. (案内 p.27)」

・教養教育に関する今年度の授業計画書と時間割は配布しない. 各自全学教育棟教養教育担当まで取りに行くこと. 特に, 語学, 基礎セミナー, 情報基礎の再履修が必要な者は, 「再履修マニュアル」を入手するとともに, 掲示にも注意し, 間違いなく履修できるようにすること. 教養教育の選択科目については, 基本的に自由に履修できる. ただし, 卒業要件単位としては 9 単位までしか加算されない.

・専門教育の理学教養科目では, 1 年次の理学教養科目の講義と実験全てを修得していれば, 28 単位となり, 理学教養科目の卒業要件単位 24 単位より 4 単位多い. この余剰分は「本学の専門教育の全授業科目 (卒業要件 12 単位以上)」の単位として加算される. 2 年次には, 理学教養科目の統計学 I と II が開講される.

・専門教育の理学共通科目では, 20 単位以上が卒業要件単位となる. 余剰分は上述した「本学の専門教育の全授業科目」に加算される. また, 計算機科学 I の 1 単位は必ず修得しなければならない.

・履修計画の作成に当たっては, 理学部基盤科目の再履修が必要な場合は, それを優先すること. 再履修にあたっては, 担当教員に必ず承認を得ること. なお数学 (微分積分 I, II, 線

形代数 I, II) と物理 (物理学 I, II) については, 他学部向けの専門基礎科目 I でも再履修が可能である。他学部の専門基礎科目 I で再履修する場合は, 理学部教務担当に申し出て時間割コードを振ってもらうこと。

- ・各チューターから面談の連絡がこれから届くはず。面談の際に習得単位計算表を持参すること。履修計画については, 担当チューターに示して確認を受けること。必要があれば, クラス担任, 理学部教務担当または教務委員に相談すること。
- ・共通実験の履修については希望調査をもとに, クラス分けおよび日程を既に掲示してあるので指示に従って履修すること。前期前半に開講される実験は 4 月 10 日 (火) から始まるので特に注意すること。前期は化学と地学, 後期は物理学と生物学の共通実験を開講する。なお, 化学共通実験の履修には, 化学基盤実験の単位修得が条件となっているので, 化学基盤実験未履修者はまず化学基盤実験を履修すること。
- ・授業計画書綴じ込みの理学科 2 年次用時間割において, 複数のクラスが開講される科目については以下の取扱となる。
統計学 I: 1, 2, 3 組は時間割上段のクラス (原岡先生), 4, 5, 6 組は下段クラス (濱地先生)。
基礎力学: 4 月 12 日 (木) 14:30 に, 1, 2, 3 組及び再履修者は 3 階大講義室 (C329: 高橋先生), 4, 5, 6 組は 2 階大講義室 (C226: 荒井先生) に集まること。
- ・「計算機科学 I」1 単位を必修として履修し修得しなければならない。数学の教員免許を取得するためには「計算機科学 I」と「計算機科学 II」の両方が必要である (双方とも後期開講)。
- ・「理学概論 (キャリアのための講演会を含む)」が通年金曜 4 時限に開講される。前学期の授業はコース選択の参考となるような内容となっているので必ず受講すること。開催日時は随時掲示により知らせる。
- ・特に後学期では共通科目が複数同時開講 (数学と生物, 物理と生物) となる。前学期終了までに希望コースを決定すること。最終希望調査は 1 月の予定。

4. 卒業研究履修要件について

2010 年度入学者より卒業研究が必修になっている。4 年次で卒業研究を履修するための条件は各コースによって異なる。各自希望するコースの条件を確認し, 2 年生の履修計画を行うこと。コースによっては, 2011 年度入学者より卒業研究履修条件が大きく変更されているので 2011 年度の学生便覧 (p. 44) でよく確認しておくこと。特に, 1, 2 年次開講科目については取りこぼしのないようにすること。

5. 教職免許及び学芸員資格取得希望者

2 年生ガイダンス終了後, 引き続き「教育職員免許状取得」に関するガイダンスを行い, さらにその終了後, C122 講義室において「学芸員資格取得」に関するガイダンス (小松先生) を行うので, 取得希望者は残ること。

6. 学外特別演習

3 年生の理学部展開科目に「インターンシップ A (1 単位)」及び「インターンシップ B (2 単位)」がある。従来理学部で指定した受け入れ先の企業で実習を行うインターンシップだったが, 他の形式のインターンシップ先も認めることとした。2 年次後学期にガイダンスを行うので, 掲示に注意すること。

7. 学籍移動に関して

学籍移動に関しては、以下のように取り扱う方針である。

- (1) 休学・退学・除籍等は学則にしたがって対応する。
- (2) 他大学受験については学部長に届け出て、合格したら速やかに退学届を提出することとする。
- (3) 専門学校等に在籍する等のいわゆる二重学籍については、速やかに学部長に届け出る。

8. その他注意事項

- ・10月8日(月)、11月23日(金)、12月24日(月)は授業日である。ただし掲示に注意すること。
- ・後学期の授業開始は9月28日(金)である。
- ・20歳になったら、誕生月に国民年金学生納付特例制度の手続を必ず行うこと。これは、いわゆる「年金」のためだけではなく、万一の事故に備えるためのものでもある。初回以降は、年度初めに申請すること。
- ・学生傷害保険と賠償責任保険Aコースには必ず加入するように。申し込みは全学教育棟の学生相談担当まで。なお、同様の保険が生協(学生総合共済)からも提供されているので、そちらに加入してもよい。
- ・学生生活においては、「学生案内」や「健康・安全の手引」(随時配布)などを参考に、健康かつ安全を心がけること。また、実験などにおける万一の火災などを想定して、日ごろから非常ベルや消火器、AEDの位置を確認し、掲示に注意しておくこと。
- ・理学部ジュニア・リサーチ・フェロー(JFR) 地球環境科学コースのみ追加募集、希望者は応募書類(志願票)を平成24年4月12日(木)17時 時間厳守理学部教務担当まで提出
募集人員：1名程度

9. チューター面談について

チューター面談を実施します。以上の内容をよく確認した上で履修計画を立てること。その上でチューター面談を行い、履修相談をしてください。最終的にはチューターによる履修計画の確認と許可をとること。

チューター面談： 4月9日(月)～20日(金)

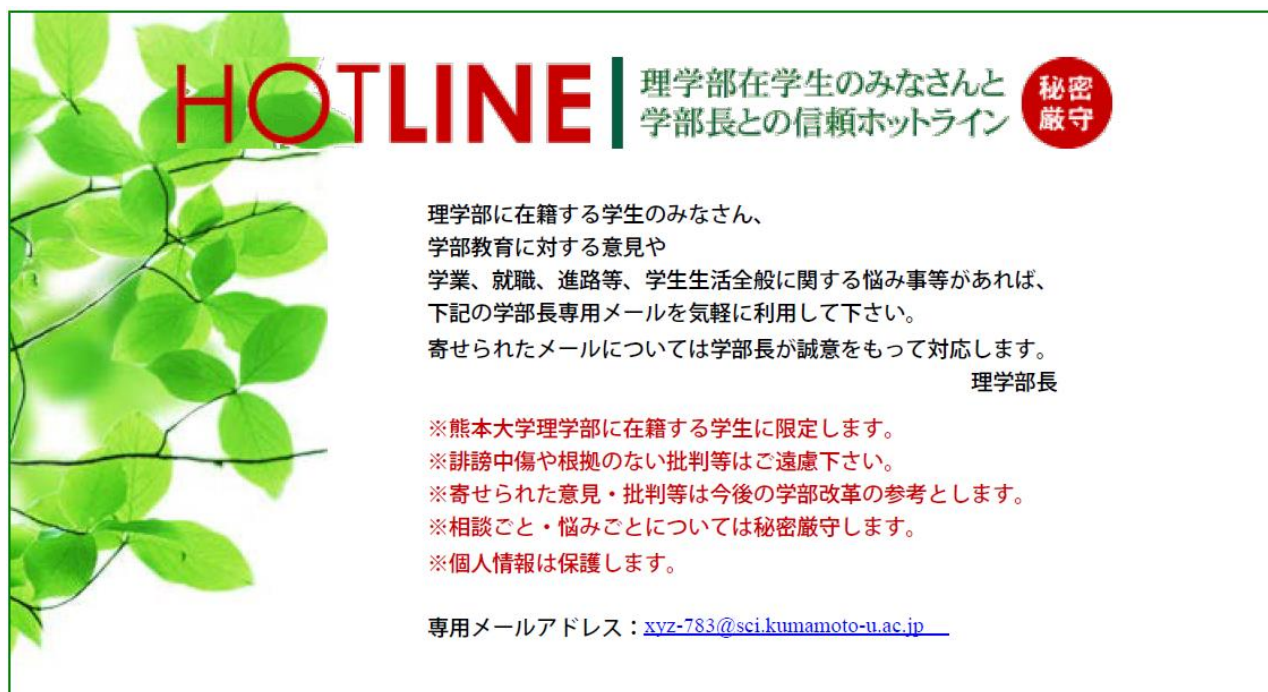
各自学生側からアポイントをとって、面談を必ず行うこと。

[出典：理学部教務委員会資料]

資料 A-I-1-2-28 オフィスアワー、ホットライン

オフィスアワー <http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/forinternal/officehour.html>

ホットライン（学部長メールのアドレス：xyz-783@sci.kumamoto-u.ac.jp）



HOTLINE | 理学部在学学生のみなさんと
学部長との信頼ホットライン **秘密
厳守**

理学部に在籍する学生のみなさん、
学部教育に対する意見や
学業、就職、進路等、学生生活全般に関する悩み事等があれば、
下記の学部長専用メールを気軽に利用して下さい。
寄せられたメールについては学部長が誠意をもって対応します。
理学部長

※熊本大学理学部に在籍する学生に限定します。
※誹謗中傷や根拠のない批判等をご遠慮下さい。
※寄せられた意見・批判等は今後の学部改革の参考とします。
※相談ごと・悩みごとについては秘密厳守します。
※個人情報は保護します。

専用メールアドレス：xyz-783@sci.kumamoto-u.ac.jp

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/hotline/index.html>

[出典：理学部ホームページ]

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

専門教育に関しては、学士像とそれに基づく教育目的・目標を達成すべく検証と見直しを適時行い、迅速なる改善を行ってきた。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

（観点到係る状況）

学業の成果は個々の学生に教育目的や目標、到達度などを十分に説明しなければ意味がない。学生に学修する事の意味や大切さを認識させてこそ興味も広がり学修意欲も増し、結果、主体的な学修へとつながり、最終的には学士の質の確保が保証される。そのために、まず、学士像及び修士像の違いを明確にし、理学士としてのミニマムエッセンスを周知・理解させる必要がある。平成22年に理学部学士課程教育推進WGにおいて議論し、学士像と修士像及び学士教育の目的・目標として纏めたもの（資料A-II-2-1-1）が理学科会議にて最終承認されている。それに沿った改革を行い、一学科発足当時に比較すると卒業までの各段階における到達すべき目標とクリアすべき基準は高くなった（前掲資料A-I-1-2-2～4, 11, 12）が、卒業率に大きな変化はない。（資料A-II-2-1-2）これは、入学者選抜とその後の教育課程が目的・目標を達成するために機能しており、教育ミッションを遂行するのに十分であることを示している。一方、学士課程教育の一部としての全学共通教育については、専門教育との一貫性を担保できない状況にあり、本学

の共通教育としての在り方及び目的の議論を含め、今後早急に改善と変更を加える必要がある。

卒業を目前にひかえた4年生が、一学科による教育プログラム制に対してどのような意見を持ち、どう評価しているのかを調べるために第1期生より継続してアンケート調査を実施してきた。回収率はほぼ100%である。(資料A-II-2-1-3) このアンケート(平成20~24年度分)から学生の満足度を判断すると、否定的な「不満足」、「どちらかという」と不満足」という回答は常に1割弱である。学生から一定の評価が得られていることを示している。(資料A-II-2-1-4) 今後もこの満足度を維持するためにこれまでの取り組みを継続実施していく必要がある。

更に平成24年度に前期日程の入試科目に英語を課すことを検討し、平成27年度からの導入を決めた。試験科目の変更による学生の資質の変化にも教育課程が即しているのかの検証を今後する必要がある。

(中期計画番号K1~K32)

理学部理学科一学科制における学士課程教育の充実および推進(素案)

平成22年2月8日

理学部学士課程教育推進 WG

1. はじめに

学士課程教育点検・見直しの背景

- ① 理学部は 2004 年度に旧来の 6 学科制から一学科制に改組し、2007 年度の学科完成を目処に、教育カリキュラムの見直しや点検整備を行ってきた。法人化二期目に際し、2008 年度に行った組織評価(自己評価)の結果および 2008 年 12 月に提示された中教審の答申を受け、学士課程教育の質を保証するための有効なカリキュラム改革や制度の見直しと強化を図る必要に迫られている。
- ② 2007 年度の理学科完成後 2 年が経過し、卒業生のアンケート調査結果や FD 活動、学外(企業など)有識者の意見などを分析し、卒業生の出口論から見た教育プログラムやカリキュラムの検証を行う時期に来ている。また、2009 年度に理学部一学科制を経た初めての修士修了生も送り出し、6 年一貫教育の見直しをすべき時期となっている。
- ③ 学士課程教育推進委員会への対応を通して学部構成員の学士課程教育に対する意識改革や理念の共有化を図る事も学部教育の将来像を描く上で重要なステップと考えられる。
- ④ 6 年一貫教育の実質化に向けたカリキュラムの整備・強化を図り、学士や修士の質の確保を可視化し、学生や社会に発信する事が求められる。
- ⑤ 平成 21 年 8 月 4 日に公表された基礎科学強化委員会の「基礎科学力強化」に向けた提言を、大学院教育・研究の高度化推進に対する「追い風」と捉え、教育システムとしての 6 年一貫教育体制の整備・強化を検討する時期が到来した。

学士課程教育の充実および推進の目的

- ① 学士課程教育の質の向上と学部の個性化。
- ② 社会や受験生へ学部教育の質や存在感のアピール。
- ③ 次期の法人評価・組織評価への対応の準備。
- ④ 専門教育および教養教育の高度化および実質化推進。
- ⑤ 教育プログラムの見直しおよび改革・改善。
- ⑥ 全学対応や個性化戦略(生き残り戦略)。
- ⑦ 学部教育の充実と大学院教育の高度化。
- ⑧ 6 年一貫教育の実質化。

2. 学部教育(学士課程教育)に対する基本的な考え方

学士課程教育は一般教育と専門教育で構成され、一般教育は概ね教養教育、リテラシー教育(技能教育)、キャリア支援教育からなる。

以下、それぞれの教育に関する基本的な考えを確認する。

資料 A - II - 2 - 1 - 2

学部・研究科ごとの標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限1.5」年内卒業（修了）率

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
標準修業年限内の卒業(修了)率(※1)	88%	85%	88%	84%	80%
「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率(※2)	93%	89%	95%	88%	83%

※1 標準修業年限内の卒業（修了）率＝標準修業年限で卒業（修了）した者の数／標準年限前の入学者数

※2 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率＝Aのうち、（標準修業年限×1.5）年間に学位を取得した者の数／（標準修業年限×1.5）年前の入学者数

（注）「標準修業年限×1.5」の算出において、端数がある場合は、1年として切り上げる

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

資料 A - II - 2 - 1 - 3 4年生、M2 アンケートの回収率

理学部 理学科 4年生アンケートの集計と分析	
2013年7月 熊本大学理学部	
理学部 理学科 4年生アンケートの集計と分析	
このアンケートは、卒業を目前にひかえた理学部理学科4年生(2013年3月卒業生)が、本学部の教育システムである「一学科による教育プログラム制」に対してどのような意見を持ち、どう評価しているのかを調べるために本学部独自に実施したものである。全対象学生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。	
提出期限: 2013年2月8日(金)	
提出場所: 理学系教務係	
結果, 165名から回答を得ることができた。回収率は94%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。	

[出典：理学部ホームページ]

アンケートの回収率

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
4年生	96%	100%	85%	94%	95%
M2	100%	100%	84%	97%	93%

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

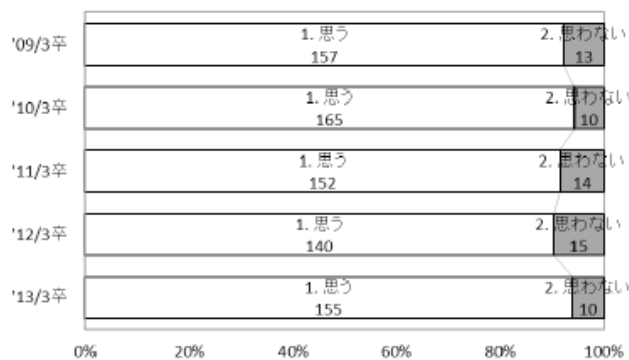
資料 A - II - 2 - 1 - 4 4 年生アンケートの結果

(B42) 今かえりみて、選択した教育プログラムは

自分にとってよかったですか。

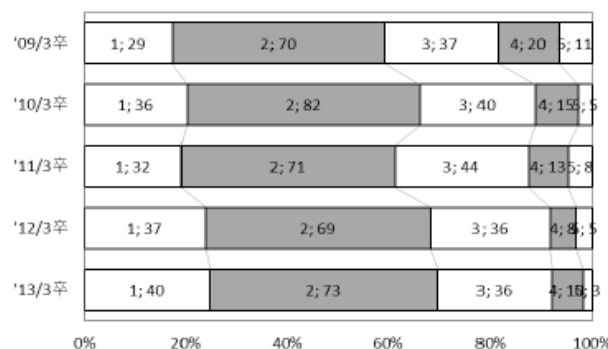
- 1. 思う
- 2. 思わない

意見など：7件



(B47) 教育プログラム制に対して満足していますか。

- 1. 満足
- 2. どちらかといえば満足
- 3. どちらとも言えない
- 4. どちらかといえば不満足
- 5. 不満足



[出典：4年生アンケート 集計と分析 (2012年度卒業生)]

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

ゆとり教育の真只中で初等・中等教育を受けた入学者を卒業生として輩出してきた。この間、専門教育の質を上げ、各段階で満たすべき条件を厳しくしてきたが、卒業率がほとんど変化していない点は、教育内容とその目標設定、見直し検討、及び変革が絶えず的確かつ順調に行われてきたことを示している。加えて、各々の教員の努力と弛まない改善活動によるところが大きく特筆に値する。

今後も入学者の基礎学力の把握に努め、絶えず教育内容の見直し検討を継続する必要がある。その一方で、グローバルな視野を持った人材を育てるためには、学士課程教育における教養力の涵養が不可欠であり、全学共通教育にも学部を挙げて積極的に関与していく必要がある。これらの改革の必要性を構成員間で共有していることが理由である。

観点 進路・就職の状況

(観点到に係る状況)

卒業生の半数以上が大学院に進学し、残りは教員や公務員志望者と企業就職者とに分かれる。(資料 A - II - 2 - 2 - 1) 教員や公務員志望者は毎年一定数いるが、新卒採用は極めて少ないため準備に2、3年かかる場合も多く、採用の実態を把握することは困難である。多様な業種への人材育成の観点から教員や公務員以外の職業についての教育も行う必要がある。また、教員一人一人が学生の就職に対する関心度を上げる取組みも必要である。

就職希望者の就職率は8割程度であるが、これは母数に教員志望の学生が含まれることに起因している。(資料 A - II - 2 - 2 - 2) 就職できない民間企業への就職希望者は少な

く、実態が就職率に反映されておらず、就職担当事務（キャリア支援ユニット）が決めた硬直化した就職率算出方法に問題があると捉えている。組織が小さく、きめ細かな対応が可能である点を生かし、個別に対応することで数値は大きく改善する。就職率に一喜一憂することなく、学生の希望と企業の欲する人材の動向を正確に掌握し、両者に還元し生かすことのできる体制を構築することが重要である。企業の動向については理学部支援企業や地元の経済情報会社等を通して把握している。

主に情報・金融を含むサービス関連企業の総合職（理系ジェネラリスト）としての就職が多い。これは一学科制の特性と理科と数学の幅広い教育の成果が表れていると言える。その一方で、露出度の高い企業を手あたり次第何ら策略も将来展望もなく目指す学生も見受けられ、キャリア支援ユニットと連携して抜本的な学生の意識改革が必要である。

特筆すべきこととして、教員志望者には独自のキャリア科目「教育インターンシップ」を開講している。受講者は、中学または高校での実務体験を通し、教育に対する理解を深め、教師に必要な実践力を身につけることができる。（資料A-2-2-2-3）

（中期計画番号K1～K32）

資料A-II-2-2-1 進学率、就職率（就職者数／卒業生数）、就職希望者の就職率（就職者数／就職希望者数）

進学率(H21～25年度)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
卒業生数	188	180	193	181	172
進学者	115	101	104	102	100
進学率	61.2%	56.1%	53.9%	56.4%	58.1%

就職率(H21～25年度)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
卒業生数	188	180	193	181	172
就職者	58	53	59	54	48
就職率	30.9%	29.4%	30.6%	29.8%	27.9%

就職希望者の就職率(H21～25年度)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
就職希望者数	61	66	75	67	57
就職者	58	53	59	54	48
就職率	95.1%	80.3%	78.7%	80.6%	84.2%

[出典：熊大データ集を基に作成]

資料 A - II - 2 - 2 - 2 理学部卒業生進路調査結果（平成21～25年度）

平成21年度 理学部卒業生 進路調査結果

■進路別

進路	人数
企業就職	44
教職	8
公務員	6
総計	58

■業種別

業種	人数
学校教育	9
化学工業・医薬品・石油・石炭製品製造業	7
金融業	5
複合サービス事業	4
情報通信業	4
その他の専門・技術サービス業	4
情報通信業・新聞業	4
地方公務員	3
医療業、保健衛生	2
その他のサービス業	2
その他	2
保険業	1
生活関連サービス業、娯楽業	1
電子部品・デバイス製造業	1
その他の製造業	1
地方公務	1
小売業	1
電気・ガス・熱供給・水道業	1
医療業・保健衛生	1
運輸業	1
その他の教育、学習支援業	1
国家公務員	1
国家公務	1
総計	58

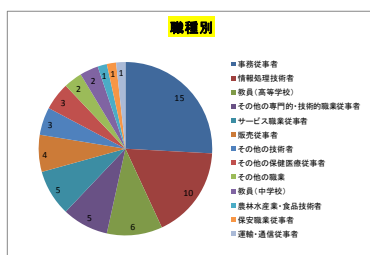
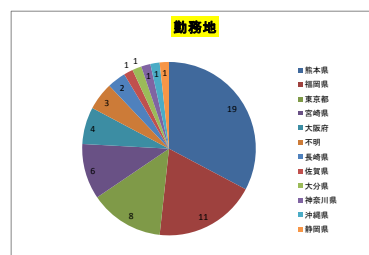
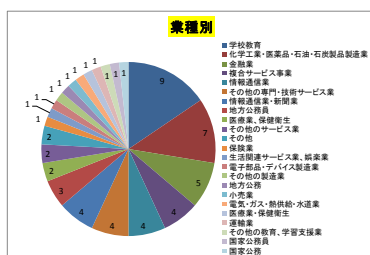
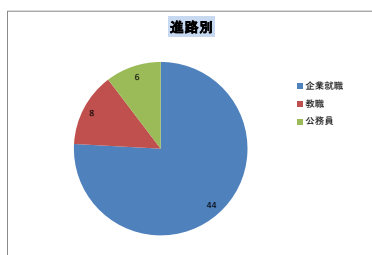
■勤務地別

勤務地	人数
熊本県	19
福岡県	11
東京都	8
宮崎県	6
大阪府	4
不明	3
長崎県	2
佐賀県	1
大分県	1
神奈川県	1
沖縄県	1
静岡県	1
総計	58

■職種別

職種	人数
事務従事者	15
情報処理技術者	10
教員（高等学校）	6
その他の専門的・技術的職業従事者	5
サービス職業従事者	5
販売従事者	4
その他の技術者	3
その他の保健医療従事者	3
その他の職業	2
教員（中学校）	2
農林水産業・食品技術者	1
保安職業従事者	1
運輸・通信従事者	1
総計	58

平成21年度 理学部卒業生 進路調査結果



平成22年度 理学部卒業生 進路調査結果

■進路別

進路	人数
企業就職	41
教職	6
公務員	6
総計	53

■業種別

業種	人数
化学工業・医薬品・石油・石炭製品製造業	9
情報通信業	8
学校教育	6
地方公務	5
金融業	5
小売業	4
医療業、保健衛生	4
運輸業、郵便業	2
宿泊業、飲食サービス業	1
その他の教育、学習支援業	1
その他のサービス業	1
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	1
保険業	1
複合サービス事業	1
その他の専門・技術サービス業	1
国家公務	1
学術・開発研究機関	1
その他	1
総計	53

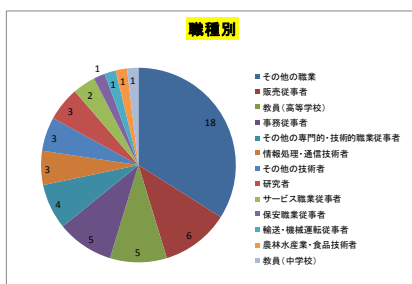
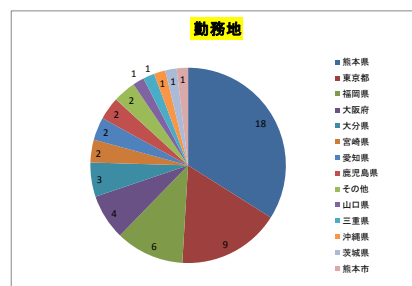
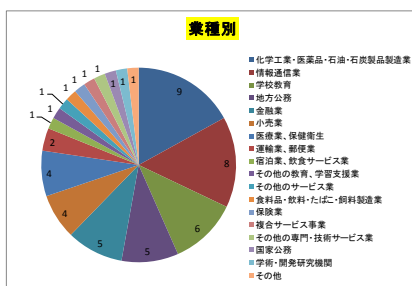
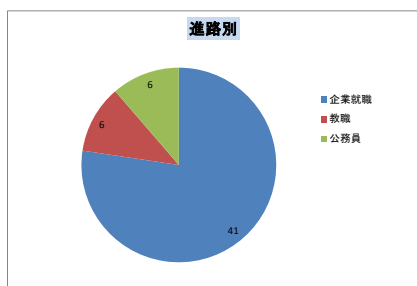
■勤務地別

勤務地	人数
熊本県	18
東京都	9
福岡県	6
大阪府	4
大分県	3
宮崎県	2
愛知県	2
鹿児島県	2
その他	2
山口県	1
三重県	1
沖縄県	1
茨城県	1
熊本市	1
総計	53

■職種別

職種	人数
その他の職業	18
販売従事者	6
教員(高等学校)	5
事務従事者	5
その他の専門的・技術的職業従事者	4
情報処理・通信技術者	3
その他の技術者	3
研究者	3
サービス職業従事者	2
保安職業従事者	1
輸送・機械運転従事者	1
農林水産業・食品技術者	1
教員(中学校)	1
総計	53

平成22年度 理学部卒業生 進路調査結果



平成23年度 理学部卒業生 進路調査結果

■求人(就職・進学・その他)別

求人(就職・進学・その他)名称	人数
進学	104
企業就職	35
その他	26
教職	13
公務員	10
(空白)	3
教員	1
不明	1
総計	193

項目	求人	人数
就職	企業就職	35
就職	教職	13
就職	公務員	10
就職	教員	1
就職	計	59
進学	進学	104
進学	計	104
その他	その他	26
その他	(空白)	3
その他	不明	1
その他	計	30
総計	総計	193

■就職(業種別)

業種	人数
学校教育	14
地方公務	8
その他の専門・技術サービス業	6
情報通信業	6
金融業	5
化学工業・医薬品・石油・石炭製品製造業	3
建設業	3
国家公務	2
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	2
電子部品・デバイス・電子回路製造業	2
その他のサービス業	1
医療業、保健衛生	1
社会保険・社会福祉・介護事業	1
小売業	1
電気・情報通信機械器具製造業	1
農業	1
保険業	1
輸送用機械器具製造業	1
総計	59

■就職(職種別)

職種	人数
事務従事者	14
教員(高等学校)	11
販売従事者	8
情報処理・通信技術者	5
その他の技術者	4
サービス職業従事者	3
教員(中学校)	3
製造技術者(開発)(その他)	3
その他の職業	1
その他の専門的・技術的職業従事者	1
建築・土木・測量技術者	1
研究者	1
製造技術者(開発除く)(電気)	1
農林業従事者	1
農林水産技術者	1
保安職業従事者	1
総計	59

■就職(勤務地)

勤務地	人数
熊本県	15
福岡県	13
大阪府	6
宮崎県	4
神奈川県	3
長崎県	3
鹿児島県	2
大分県	2
東京都	2
(不明)	1
京都府	1
熊本市	1
広島県	1
埼玉県	1
山口県	1
神奈川	1
北海道	1
北九州市	1
総計	59

■進学(決定進路先)

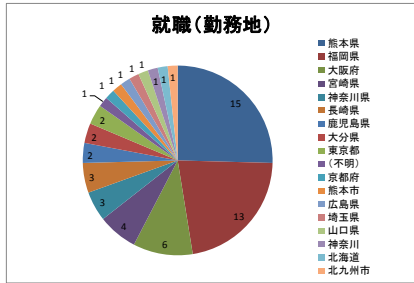
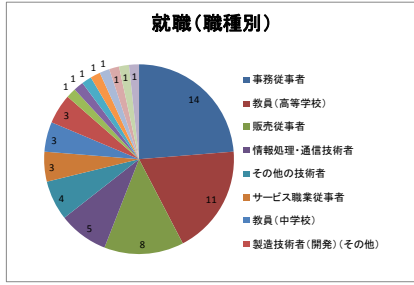
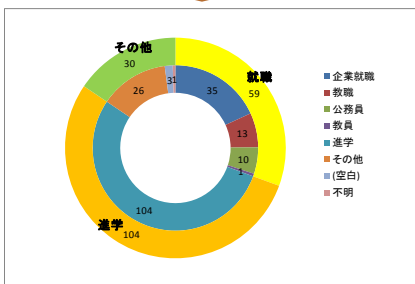
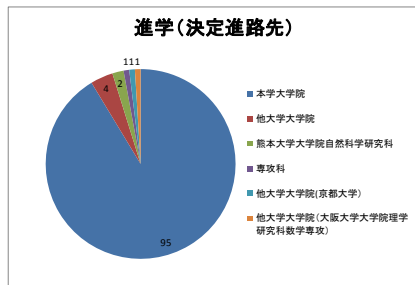
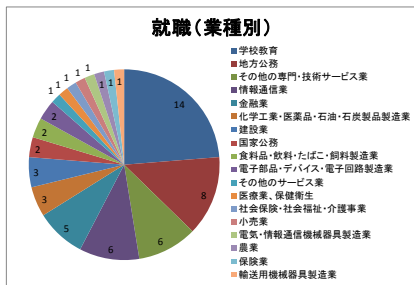
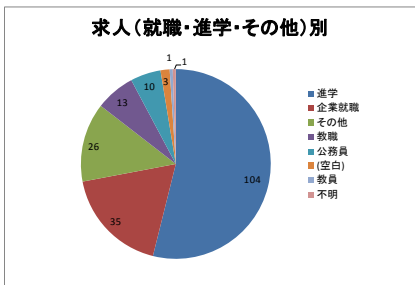
決定進路先	人数
本学大学院	95
他大学大学院	4
熊本大学大学院自然科学研究科	2
専攻科	1
他大学大学院(京都大学)	1
他大学大学院(大阪大学大学院理学研究科数学専攻)	1
総計	104

■その他・不明

その他(内容)	人数
教員採用試験準備	9
就職活動継続	7
公務員採用試験準備	3
(空白)	3
公務員試験受験準備	2
2013.4双日株式会社入社予定(それまでは留学等)	1
その他(不明)	1
就職の意志無し	1
専門学校進学	1
大学院受験準備	1
大学院進学準備	1
総計	30

大学院進学や進学準備、
就職活動継続などの情報を含む

平成23年度 理学部卒業生 進路調査結果



平成24年度 理学部卒業生 進路調査結果

■求人(就職・進学・その他)別

求人(就職・進学・その他)名称	人数
進学	102
企業就職	33
その他	22
教職	12
公務員	9
不明	3
総計	181

項目	求人	人数
就職	企業就職	33
就職	教職	12
就職	公務員	9
就職	計	54
進学	進学	102
進学	計	102
その他	その他	22
その他	不明	3
その他	計	25
総計	総計	181

■就職(業種別)

業種	人数
学校教育	12
地方公務	8
小売業	6
情報通信業	6
化学工業・医薬品・石油・石炭製品製造業	5
その他の教育、学習支援業	4
金融業	4
医療業、保健衛生	3
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	2
その他の専門・技術サービス業	1
国家公務	1
電気・ガス・熱供給・水道業	1
保険業	1
総計	54

■就職(職種別)

職種	人数
事務従事者	11
教員(高等学校)	10
その他の職業	6
販売従事者	5
サービス職業従事者	4
その他の技術者	3
その他の専門的・技術的職業従事者	3
保安職業従事者	3
教員(中学校)	2
研究者	2
製造技術者(開発除く)(その他)	2
管理的職業従事者	1
情報処理・通信技術者	1
製造技術者(開発除く)(化学)	1
総計	54

■就職(勤務地)

勤務地	人数
福岡県	13
熊本県	13
大分県	7
東京都	5
鹿児島県	4
長崎県	3
大阪府	2
佐賀県	2
宮崎県	2
千葉県	1
京都府	1
愛媛県	1
総計	54

■進学(決定進路先)

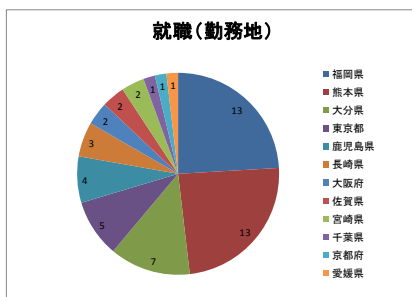
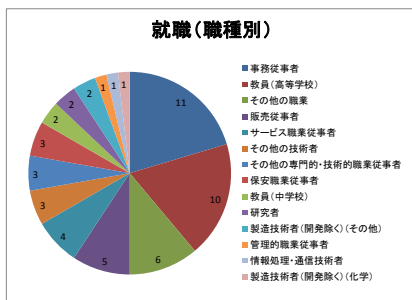
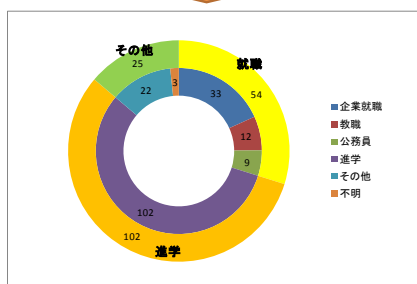
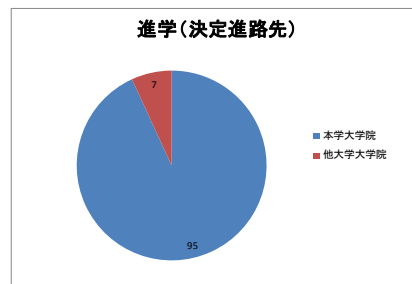
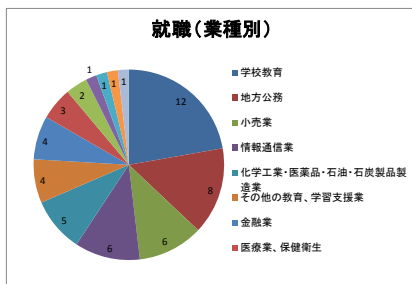
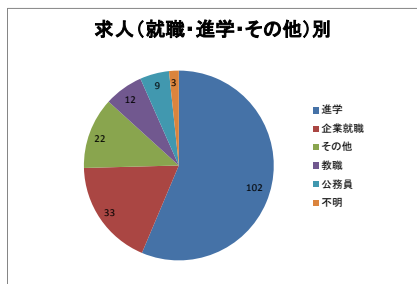
決定進路先	人数
本学大学院	95
他学大学院	7
総計	102

■その他・不明

その他(内容)	人数
就職活動継続	9
公務員採用試験準備	5
教員採用試験準備	4
(不明)	3
その他	2
進学準備	1
大学院受験準備	1
総計	25

大学院進学や進学準備、
就職活動継続などの情報を含む

平成24年度 理学部卒業生 進路調査結果



平成25年度 理学部卒業生 進路調査結果

■求人(就職・進学・その他)別

求人(就職・進学・その他)名称	人数
進学	100
企業就職	28
その他	20
公務員	12
教職	8
不明	4
総計	172

項目	求人	人数
就職	企業就職	28
就職	公務員	12
就職	教職	8
就職	計	48
進学	進学	100
進学	計	100
その他	その他	20
その他	不明	4
その他	計	24
総計	総計	172

■就職(業種別)

業種	人数
地方公務	10
学校教育	8
情報通信業	4
化学工業・医薬品・石油・石炭製品製造業	3
金融業	3
その他のサービス業	2
卸売業	2
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	2
複合サービス事業	2
国家公務	2
その他	1
その他の専門・技術サービス業	1
医療業、保健衛生	1
学術・開発研究機関	1
建設業	1
小売業	1
生活関連サービス業、娯楽業	1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	1
保険業	1
はん用・生産用・業務用機械器具製造業	1
総計	48

■就職(職種別)

職種	人数
販売従事者	8
事務従事者	8
教員(高等学校)	7
事務従事者	5
保安職業従事者	4
その他の技術者	3
情報処理・通信技術者	3
その他の職業	2
サービス職業従事者	1
研究者	1
製造技術者(開発)(化学)	1
製造技術者(開発)(機械)	1
製造技術者(開発除く)(化学)	1
製造技術者(開発除く)(機械)	1
教員(中等教育学校)	1
その他の職業	1
総計	48

■就職(勤務地)

勤務地	人数
熊本県	12
福岡県	11
宮崎県	5
佐賀県	5
東京都	4
長崎県	3
大阪府	2
神奈川県	1
鹿児島県	1
愛知県	1
広島県	1
埼玉県	1
山口県	1
総計	48

■進学(決定進路先)

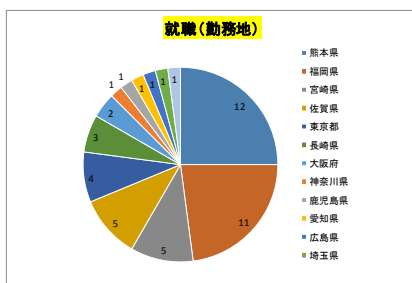
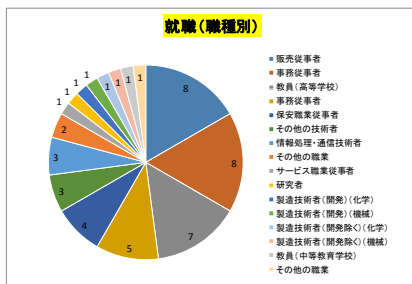
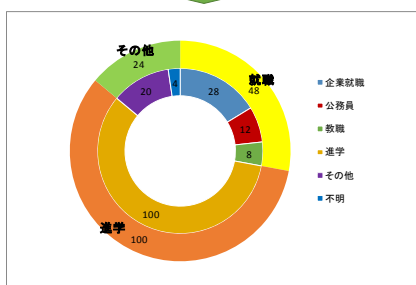
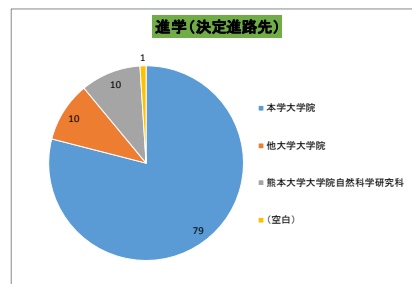
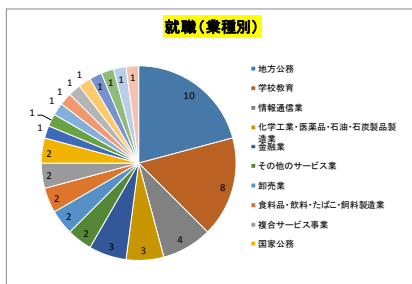
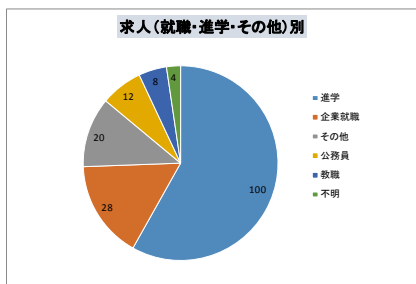
決定進路先	人数
本学大学院	79
他大学大学院	10
熊本大学大学院自然科学研究科	10
(空白)	1
総計	100

■その他・不明

その他(内容)	人数
(空白)	24
総計	24

大学院進学や進学準備、
就職活動継続などの情報を含む

平成25年度 理学部卒業生 進路調査結果



[出典：ミッションの再定義資料]

資料 A - II - 2 - 2 - 3 教育インターンシップ実施要領、実績

教育インターンシップ実施要領

趣旨・目的	教員を目指す熊本大学理学部4年次学生が、在学中に一定期間、中学校、高等学校において、教師の業務を実際に体験することにより幅広く実践的に学び、教育に対する理解を深め、教師に求められている業務能力を身につける。
対象学生	教育実習を終えた理学部4年次学生で中・高等学校教員志望の学生
実習時間	30時間 又は 60時間
授業科目・単位	学部4年生：インターンシップA（1単位）・インターンシップB（2単位）
成績評価	学生のレポート及び受入校からの報告書を基に教務委員会が行う。 単位の認定は、合格、不合格で表わす。
研修内容	授業等の補助、学級担任業務の補助、クラブ活動や学校行事等の補助、生徒の学習相談等、協力校の職務に関連した補助的職務。具体的内容については協力校と協議の上で計画する。
実施期間	8月～翌年の3月までの間 (但し、協力校の都合で変更することもある。)
実施責任機関	理学部教務委員会
実施責任機関	【留意事項】 1. 学生は、学生教育研究災害保険及び学研災付帯賠償責任保険（Aコース）に加入すること。 2. 「インターンシップの心構え」等の事前指導を受けること。 3. 実習謝金、交通費等の経費は原則として支給されない。 4. 他の授業に支障がない範囲で実施すること。

[出典：理学部学生便覧]

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

進学率及び就職先分野から、スペシャリストとジェネラリストの育成という本学部が掲げる教育目標を達成していると考ええる。また、専門とは直結しない企業への就職者もあり、自然科学に関する幅広い知識を有機的に結び付け、直面する問題を解決する能力の涵養もできていると判断する。

人材育成体制と検証・見直・変更のサイクルは、十分機能していると考えられる。人材を適材適所に送り出し、個々の能力を十分に発揮できるように社会と結びつける体制が整いつつある。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

重要な質の変化あり

前回の組織評価時は未だ学科は完成しておらず、具体的な評価は示されなかったため、質の向上度を分析及び判定することはできない。しかし、アドミッションポリシーに則した入試方法への変更(資料A-I-1-1-8)、及び、卒業生の質保証の観点からの改革実施(資料A-I-1-1-12)を踏まえ、教育の質は中期目標期間第1期終了時より改善・向上していると判断した。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

重要な質の変化あり

前回の組織評価時は理学科として卒業生を送り出しておらず、質の向上度を分析及び判定することはできない。しかし、以下の状況から改善・向上していると判断した。

- ① 教育内容のレベルは上げたが卒業率は変わっていない
- ② 進学率は5割を超えている
- ③ 幅広い分野からのニーズがあり、多様な業種に就職している

Ⅲ 社会貢献の領域に関する自己評価書

1. 社会貢献の目的と特徴

本学部は九州地区における理学教育・研究の中核的役割を果たしてきた。また、地理的にも九州中部に位置する国立大学として、特に、熊本県及び隣接する県の郡部や過疎地域における教育機会の拡大と教育の地域間格差の解消に向けた教育支援に積極的に取り組む責務がある。一方、公立及び私立の進学校が熊本市内に集中している状況の中で、男女を問わず理系進学者を数多く増やしてゆくための教育支援体制の確立も喫緊の課題である。さらに、高度に発展を遂げた自然科学分野の研究や科学技術について社会人の学びの機会の提供も本学部が負うべき使命である。このような事情を踏まえて、本学部では、大学の中期目標に沿うべく

- 科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材の養成
- 地域の教育への支援
- 専門知識・経験の提供（教員の所属は自然科学研究科等の別部局であるので、個々の業績は所属部局の自己評価書に記載する）

などを通して社会・地域に貢献している。特に、本学部としては以下のような特徴ある社会貢献を行っている。

- 1) 特定地域教育支援事業
- 2) 学内外の各種科学啓発イベントの企画・実施・運営

〔想定する関係者とその期待〕

本学部として特徴的な郡部や過疎地域は高等学校や中学校の統廃合により、教育の機会均等が失われつつあり、都市部との地間の教育格差も広がる傾向にある。一方、熊本県は教育公務員や一般公務員も多く、大学での学び直しを希望する定年退職者も潜在的に多くいる。このように、本学部への地域社会からの要望の多くは教育的支援及び地域への優秀な人材の供給にあると考えられ、想定するステークホルダーとしては以下があげられる。

- 1) 教育機関
- 2) 行政機関
- 3) 地場企業

このことから想定される本学部への期待は

- 1) 優れた人材の輩出
- 2) 理数教育支援
- 3) 各種委員を通しての専門知識・経験の提供

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

特定地域教育支援事業や夢科学探検等の科学啓発イベントを通しての長年にわたる貢献。特に特定地域教育支援事業では、地域の教員との連携を重視し、教員が異動した後の異動先とのつながりも維持している。また、行政と一体になって活動してきたことも本事業の特徴である。

【改善を要する点】

特定地域教育支援事業や夢科学探検等のイベントを今後も継続し、より効果的かつ効率的に実施できるように見直しと改善を加え続ける必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。
(観点に係る状況)

大学の中期目標(資料C-I-1-1-1)を受けて中期計画(資料C-I-1-1-2)が策定されている。その目標等に沿って「社会貢献の目的と特徴」で挙げた「科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材の養成」を方針として、

- ・国及び地方公共団体等の審議委員等
 - ・教育職員免許更新講習の講師
 - ・学内外の各種科学啓発イベントの企画・実施・運営
 - ・スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)事業への協力
 - ・国や地方公共団体、民間企業との委託研究や共同研究
- などそれぞれ教員が個別に計画を策定し活動してきている。

(中期計画番号K46～K47)

資料C-I-1-1-1 中期目標(社会貢献該当部分)

- 1) 大学の資源と知的活動の成果を利活用して、大学間連携、産学官連携をグローバルに推進し、知識基盤社会の形成・発展、産業の振興等に貢献する。

[出典：熊本大学ホームページ]

資料C-I-1-1-2 中期計画(社会貢献該当部分)

- ①科学技術や産業の振興に貢献するため、イノベーション推進機構を中心として、研究成果の有体物の整備管理、知的財産等の活用を推進する。
②国内外の研究及び産業の発展等に貢献するため、その推進のための施策・評価委員会等にも積極的に参画し、社会貢献を果たす。また、国内外の研究機関等とネットワークを形成し、学術研究並びに産学官連携を組織的に進める。

[出典：熊本大学ホームページ]

(水準)期待される水準にある。

(判断理由)本学の中期目標・中期計画に則り、独自の目的・目標のもと計画を策定し、イベントの実施に関しては公表している。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

個々の計画にそって下記の通り適切に実施されている。

- 国及び地方公共団体等の審議委員等として、専門知識を提供することで社会に貢献している。(審議委員等の把握は教員が所属している自然科学研究科で行っており、委嘱を受けている件数などは自然科学研究科の自己評価書に記載されている。)
- 教育職員免許更新講習の講師(資料C-I-1-2-1)
- 学内外の各種科学啓発イベントの企画・実施・運営(資料C-I-1-2-2)
特に、毎年開かれている夢科学探検は、小学生から一般市民までの参加者が様々な演習実験を体験し、「科学」への理解と興味を持つきっかけをつくることを目的とし

ている。このイベントは「夢化学探検'94」以来実施し、平成12年度からは広く「科学」に触れるため「夢化学」を「夢科学」と名称変更し、現在に至っている。さらに、平成19年度からは大学祭の期間中に開催している。(資料C-I-1-2-3)

- スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 事業への協力
体験学習、課題研究の指導、留学生による英語での実験授業、講演など
- 国や地方公共団体、民間企業との委託研究や共同研究

その他、地域への理学啓発教育として新聞の折り込み情報誌で定期的に情報発信をしている(資料C-I-1-2-4)。また、大学間、部局間交流協定も増えており、社会貢献に協力している。学会に対する貢献も大きく、最近の学会の開催状況からもわかる(資料C-I-1-2-5)。

(中期計画番号K46～K47)

資料C-I-1-2-1 教育職員免許更新講習の開講数

学部	対象者	H22年度	H23年度	H24年度
理学部	中・高数学	1講座	1講座	1講座
	中・高理科	1講座	1講座	1講座
計		2講座	2講座	2講座

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

資料C-I-1-2-2 学内外の各種科学啓発イベントの開催状況(平成25年度)

月日	イベント
7月14日	国際生物学オリンピック予選
11月2日	夢科学探検
12月14日	SSH体験学習(熊本第二, 熊本北, 宮崎北高校)
11月10日 12月8日	公開実習「遺伝子を見てみよう」

[出典：理学部年報]

資料 C - I - 1 - 2 - 3 夢科学探検

夢科学探検2013

～ 理学部探検、工学部探検、もの・クリChallenge～

本イベントは、小学生から一般市民までの参加者に様々な演示実験を体験していただき、「科学」への理解と興味を持っていただくきっかけをつくることを目的としています。平成6年度の「夢化学探検'94」以来毎年実施し、平成12年度からは広く「科学」に触れていただこうと「夢化学」を「夢科学」と名称変更し、現在に至っています。さらに、平成19年度からは大学祭(紫熊祭)の期間中に、工学部探検やもの・クリChallengeなどと一緒に開催しております。

本年度の夢科学探検2013も、参加者に楽しんでいただける企画を考えています。ぜひともご参加ください。

理学部探検
工学部探検
もの・クリChallenge

主催：熊本大学
会期：平成26年11月2日(土)午前10時～午後4時
会場：熊本大学 黒髪キャンパス
南地区(工学部・理学部・自然科学研究科)
(熊本市中央区黒髪2-39-1)

参加費 無料
当日受付(事前申し込みは不要です)

問い合わせ先：
〒860-8555
熊本市中央区黒髪2-39-1
熊本大学大学院 自然科学研究科 夢科学探検2013事務局宛

電子メール： yume@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp

(夢科学探検2013 代表 古島 幹雄)



[出典：熊本大学ホームページ夢科学探検]

資料C-I-1-2-4 アレンジに連載している「熊遊学ツーリズム」

【熊遊学(ゆうゆうがく)ツーリズム】

熊本日日新聞社が発刊する無料のタブロイド判生活情報紙「あれんじ」に掲載されているコーナー

回	発行日	タイトル	氏名
20	2013/4/6	アリスもびっくり！「非アルキメデスの幾何学」のワンダーランド	加藤 文元 教授
19	2013/1/12	花と昆虫の知恵比べ「受粉の生物学」	杉浦 直人 准教授
16	2012/4/7	意外に面白い!? 物性物理学	原 正大 准教授
15	2012/2/4	意外な話に驚くことばかり！ 柔らかい「岩石学」	西山 忠男 教授
11	2011/3/19	46億年のドラマに迫る！ 化学がひもとく地球史	可児 智美 助教
10	2011/2/19	コピーしたり、編集したり？RNAルネッサンス！	谷 時雄 教授
9	2011/1/15	「ブラックホール」はなぜだらけ	荒井 賢三 教授
7	2010/11/20	天地創造から未来が見える！「地球環境科学」を科学する？	磯部 博志 准教授
6	2013/10/16	「固体科学」入門！！	藤本 斉 教授
5	2010/9/18	数学は「定義することから始まる」!? 目からウロコの「確率論」	濱名 裕治 教授
3	2010/7/17	あなたの近くにも新種が!? 「シダ植物」のフシギ	高宮 正之 教授
2	2010/6/19	地球温暖化にも関係してる!? 「エアロゾル」の不思議	小島 知子 准教授
1	2010/4/17	MRIも、リニアモーターカーも関係ある!? 「超伝導」って、何?	市川 聡夫 教授

[出典：ミッションの再定義資料]

資料 C-I-1-2-5 平成 25 年度学会等の開催状況

月日	学会
5 月 17 日～2 月 7 日	群論セミナー（10 回開催）
5 月 18 日～19 日	日本動物学会九州支部（第 66 回）九州沖縄植物学会（第 63 回） 日本生態学会九州地区会（第 58 回）合同熊本大会
5 月 25 日～2 月 27 日	応用解析セミナー（8 回開催）
12 月 2 日	International Kick-Off Symposium for “Integrated Science for Molecular Chirality in Biology and Chemistry”（熊本大学）
12 月 3 日	大域解析セミナー
3 月 8～10 日	研究集会「アクセサリー・パラメーター研究会」
3 月 20～23 日	日本植物分類学会第 13 回大会

[出典：理学部年報]

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）本務である教育研究業務に加えて、審議委員等としての貢献、教育職員免許更新講習の講師、科学啓発イベントの企画・実施・運営、SSH 事業への協力、委託研究や共同研究、学会の開催等、様々な種類の社会貢献を通じた活発な活動状況から判断した。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

（観点に係る状況）

前述した社会貢献活動は、参加希望者がいて始めて実施可能となる事業であり、活動が途切れることなく継続して実施されており、問題なく活動の成果が上がっていると判断できる。また、教育職員免許更新講習、科学啓発イベント、SSH 事業においては、参加した小中高教員や児童・生徒のアンケート結果や感想は参加者の個人差や回収率などから、数値的に判断することは難しいが、全体的に好意的に受け止められている。夢科学探検にあっては、毎年 1000 名前後の小・中・高生および保護者等が継続して参加していることから、事業として認知確定されており、リピーターや口コミによる参加者も多くいると推定され、参加者の満足度の高いことが窺える。

（中期計画番号 K46～K47）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）人材の養成、教育への支援、専門知識・経験の提供等の目的に対応した活動が継続して実施されている実績があり、満足度からも成果が上がっている。

観点 改善のための取組が行われているか。

（観点に係る状況）

社会貢献活動においては、個々の取り組みごとに、無理せず継続して実施する方策を工夫することが重要であり、そのための改善を弛まなく行っている。

夢科学探検に関しては、当初、「夢化学探検」として化学分野に限定して開催されていたイベントであったが、2000 年より物理分野も参加し「夢科学探検」と名称変更して現在にいたっている。また、開催時期も 12 月に開催していたものを大学祭開催時期の 11 月上旬に変更し、理学部のすべての分野が参加する大きな科学啓発イベントに発展した。（前掲資料 C-I-1-2-3）

平成 19 年度時点では、SSH 指定校は熊本第二高校の 1 校だけであったが、その後近隣の

指定校が増え、宮崎北高校、熊本北高校、宇土高校に協力している。このままでは教員の負担が過度になり、協力できない事態が予想される。そのため、体験学習を年1回にし、継続性を保証した。(資料C-I-1-4-1)

(中期計画番号K46～K47)

資料C-I-1-4-1 SSH体験学習

SSH体験学習の変遷

年度	日付	研修
2008	2008/7/8	宮崎北高校SSHサイエンス研修
	2008/12/13	第二高校SSH体験学習
2009	2009/7/7	宮崎北高校SSHサイエンス研修
	2009/12/12	第二高校SSH体験学習
2010	2010/7/6	宮崎北高校SSHサイエンス研修
	2010/12/4	第二高校SSH体験学習
2011	2011/7/19	宮崎北高校SSHサイエンス研修(台風のため中止)
	2011/12/3	第二高校SSH体験学習
2012	2012/7/11	宮崎北高校体験学習
	2012/12/1	第二高校、北高校SSH体験学習講座
2013	2013/12/14	第二、熊本北、宮崎北高校SSH体験学習講座

[出典：SSH担当者資料]

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 夢科学探検及びSSH事業における体験学習等を継続して実施するため、見直しを行っていることより判断した。

分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

大学の中期目標(資料C-II-2-1-1)を受けて中期計画(資料C-II-2-1-2)が策定されているが、理学部で該当するものは公開講座と授業開放のみである。これに関しては全学で適切に公表・周知されているはずである。

加えて、独自のものとして特定地域教育支援事業を実施している。本事業は、中期目標達成経費から援助を受けており、その中では年度計画を作成している。(資料C-II-2-1-3) 年度計画は特定地域の行政・教育機関との間で共有しており、イベント等の関係者への公表・周知はその都度共同で遅滞遺漏なく行っている。

(中期計画番号K48～K50)

資料C-II-2-1-1 中期目標

2) 地域振興の中核大学として、熊本大学の資源と知的活動を活用し、また、地域の諸機関と連携し、地域に貢献する。

[出典：熊本大学ホームページ]

資料C-Ⅱ-2-1-2 中期計画

- ①地域振興の中核大学として、地方自治体と共同で、魅力ある地域づくりと地域人材育成を行うため、政策創造研究教育センターの機能を強化する。
 ②地域文化の向上、教育の質向上に貢献するため、「高等教育コンソーシアム熊本」の活動を活性化する。
 ③図書館等を中心とした地域への情報提供と知的・文化的サービスを一層充実させるとともに、公開講座や授業開放等を推進し、地域住民への知の還元を行う。

[出典：熊本大学ホームページ]

資料C-Ⅱ-2-1-3 中期目標達成経費申請書

平成26年度 中期目標達成経費要求書《新規分》

事業等名称	特定地域教育支援事業
要求経費区分	<input type="checkbox"/> 人事労務・広報・企画推進 <input type="checkbox"/> 入試・情報化推進 <input type="checkbox"/> 教育・学生支援推進 <input type="checkbox"/> 国際交流推進 <input checked="" type="checkbox"/> 研究・社会貢献推進 <input type="checkbox"/> 財務・施設推進
事業計画期間	平成26年度～平成27年度
恒久化の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
事業実施主体	理学部特定地域教育支援室
概要	大学の資源を活用した教育支援活動、特に、科学技術立国を目指す我が国においては理科・数学に対する支援活動が重要である。理学部では、特定の地域（地方）における教育力とその地域の生徒の勉学意識・学力の向上を目指すことを目的として、教育支援事業を実施している。平成26年度は、阿蘇地域、高森地域、山鹿地域、牛深地域の事業を継続・充実するとともに、高千穂地域の事業を立ち上げる。

1. 事業の必要性・取組内容等

全体計画	理学部特定地域教育支援室が、特定地域（阿蘇、山鹿、高森、牛深、高千穂の各地域）の教育機関（小、中、高）や教育委員会、行政と連携をとり、様々な活動（大学訪問、寺子屋、教育フォーラムでの講演）を通して、生徒の進学意欲や教諭の教育力を挙げたり、保護者や地域の教育に対する意識改革が進むような活動を行う。
平成26年度に実施する事業計画	高森・阿蘇・山鹿・牛深地域：教員志望の大学生・院生の本事業への参加を更に推進するなど、内容の詳細を見直しながら支援活動を継続する。 高千穂：熊本県外の県境部に対するモデル地域と位置付け、地域の教育関係者との連絡を進め、本格的に展開するようにネットワークの構築と、地域の生徒や保護者に対して教育・進学に対する意識改革が進む活動を計画し、実施する。

[出典：平成26年度中期目標達成経費要求書《新規分》から抜粋]

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）全学で実施している事業に協力するとともに、理学部独自に特定地域教育支援事業を計画・実施している。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

（観点到係る状況）

平成19年度から実施している特定地域教育支援事業は、平成21～25年度の期間におい

ても、対象地域を高森、山鹿、牛深、阿蘇と増やしながら事業を継続して実施している。

(資料C-Ⅱ-2-2-1) 授業開放科目に関しても、全学からの要請を受けて、継続して積極的に提供しており、平成25年度の開講科目数からみても理学部の貢献が著しい。理学系の授業を受ける機会を地域に提供している。(資料C-Ⅱ-2-2-2)

(中期計画番号K48～K50)

資料C-Ⅱ-2-2-1 特定地域教育支援事業 (平成21～25年度)

H21(2009)年度 特定地域教育支援室活動報告

年月日	訪問先	活動(会議)内容
H.21/04/17	小国町教育委員会 事務局会議室	小国郷教育支援に関する打ち合わせ
H.21/05/09	天草青年の家	小国高校生への進学講話
H.21/05/13	理学部特定地域教育支援室	小国高校, 大津高校の熊大受験者増に向けた取り組み
H.21/06/16	小国町教育委員会事務局会議室	第1回小国郷教育再生懇談会
H.21/07/10	五ヶ瀬教育委員会事務局, 五ヶ瀬中学高等学校	五ヶ瀬教育ビジョン視察及び意見交換
H.21/08/25.26.27	小国教育委員会大会議室	小国郷寺子屋学習会, 教育再生懇談会, 小中学校教員向け講話
H.21/10/25	JA小国大会議室	PTA中央地区連合会にて講演
H.22/01/22	南阿蘇ホテルグリーンピア	高森・南阿蘇地区教育支援事業の打ち合わせ
H.22/03/16	高森高校武道館	高森高校1・2年生向け大学紹介並びに進学動機付け講話

[出典：理学部年報 特定地域教育支援室報告]

H22(2010)年度 特定地域教育支援室活動報告

年月日	活動内容、審議事項など
2010.5.8-9	熊本大学理学部新入生合宿研修 高森高校から生徒4名と教諭1名、小国高校から生徒3名と教諭1名が参加し、大学生との交流を通して大学を身近に感じ、進学意識を高めた
2010.8.2-3	あそぼっとプロジェクト（高森中央小学校） 佐藤、市川、院生2名、学部生2名がサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトの補助として参加し、作製の指導を行った（小学校の参加者：児童92名、保護者15名、職員8名）
2010.8.16	南郷塾寺子屋（高森高校） 市川、院生2名、学部生1名が参加し、高森高校、近隣中学校の生徒に対して、熊大生による夏休みの課題の補助、勉強の仕方の講話を通して、勉学意欲や意識の向上を図った
2010.10.16	教育フォーラム（高森町） 「南阿蘇における教育のあり方について」教育フォーラムが開催され、古島が講演した 総合学習やまびこプラン発表会に佐藤が出席し講評をおこなった
2010.12.7	熊本大学訪問（熊本大学） 高森高校の2年生全員（生徒43名、教諭2名）が熊本大学を訪問し、勉学意欲や進路意識の向上を図る「熊本大学訪問」。この事業には文学部、教育学部、医学部（保健学科）の協力も得た
2011.2.15	学校関係者評価委員会（高森高校） 古島、佐藤が参加し、高森高校に対する評価を行った
2011.3.15	平成22年度 熊本大学&高森町 教育支援による地域活性化事業 報告会（高森高校） 古島、佐藤、市川が参加し、高森町の小中高の教員と意見交換を行った

[出典：理学部年報 特定地域教育支援室報告]

H23(2011)年度 特定地域教育支援室活動報告

年月日	活動内容、審議事項など
2011.5.7-8	熊本大学理学部新入生合宿研修 高森高校から生徒4名と教諭2名が参加し、大学生との交流を通して大学を身近に感じ、進学意識を高めた
2011.6.20	平成23年度熊本大学理学部による特定地域教育支援事業（女子生徒への教育支援）意見交換会（鹿本高校） 女子生徒への教育支援プログラムを構築するために種々の意見交換を行った。鹿本高校の教諭から山鹿地区の教育における状況や、理系文系の割合、男女比、地域の特殊性などを聞き、これまでの特定地域教育支援事業で行ってきた状況との違いを認識した。新たな「山鹿モデル」の構築が必要であることを認識し、その検討を開始することとした。
2011.8.8	南郷塾寺子屋（高森高校） 古島、磯部、市川、院生3名、学部生4名が参加し、高森高校生、近隣小中学校生と熊本大学生との交流をとおして、勉学意欲や学習意識の向上を図る目的で実施した。午前は、中学生・高校生を数名ずつのグループに分け、グループごとに熊大生が一人ついて、夏休みの課題の補助や勉強の仕方・大学生活についての講話をした。午後は、小中学生に対する科学教室を実施した。科学教室には小学生の保護者も参加した。児童・生徒の参加は次の通り（高森高校21名、高森中学校4名、高森東中学校4名、高森中央小学校42名）
2011.9.26	鹿本高校との今後の支援事業にかんする検討会 藤本、磯部、佐藤、市川が参加し、鹿本高校の校長以下3名の教諭と今後の教育支援事業について話し合い、進路指導の在り方などに特徴をもった教育支援を展開することなどを決めた。
2012.1.25	熊本大学訪問（熊本大学） 高森高校の1、2年生の希望者（8名）が熊本大学を訪問し、勉意欲や進路意識の向上を図った。この活動には、医学部保健学科の協力も得て、看護師や理学療法士などへの進路にも対応した。
2012.3.19	平成23年度 熊本大学&高森町 教育支援による地域活性化事業 情報交換会（高森高校） 古島、高宮、佐藤、市川が参加し、高森町の教育委員会および小中高の教員と意見交換を行った

[出典：理学部年報 特定地域教育支援室報告]

H24(2012)年度 特定地域教育支援室活動報告

年月日	活動内容、審議事項など
2012/5/12-13	熊本大学理学部新入生合宿研修 高森高校から生徒が参加し、大学生およびJRFとの交流を通して大学を身近に感じ、進学意識を高めた
2012/5/30	山鹿地域第1回会合 18:30~20:30 今年度の取組に関して、会合を持った
2012/8/9	南郷塾寺子屋（高森高校） 教員4名、学生8名が参加し、高森高校、近隣中学校の生徒に対して、熊大生による夏休みの課題の補助、勉強の仕方の講話を通して、勉学意欲や意識の向上を図った
2012/8/22	連続講義（鹿本高校） （1）大学ってどんなトコ？ （2）将来を考えるヒント？ 古島理学部長より（1）では中学3年生、高校1，2年生に対して進路に関する講話、（2）ではセンター試験過去問の問題解説を実施した。
2012/9/7	牛深地域第1回会合、生徒への講話（牛深高校） 第1回会合 16:00~17:00 今後の授業の具体的取組について 生徒への講話 16:00~17:00 （ア）「看護医療の仕事について」 （イ）「大学で学ぶ意義（学問の意義）」
2012/10/25	総合的な学習の時間（未来への懸け橋）（鹿本高校） 学年発表会に参加し、意見を述べる
2013/1/17	熊本大学訪問（熊本大学） 高森高校の1，2年生12名が熊本大学を訪問し、勉学意欲や進路意識の向上を図る「熊本大学訪問」。この事業には文学部、医学部（保健学科）、工学部の協力も得た
2013/2/20	教育支援による地域活性化事業に関する情報交換会（高森高校） 平成24年度事業報告 平成25年度事業計画案 佐藤，市川が参加し、高森町の小中高の教員と意見交換を行った。次年度の南郷塾寺子屋を8月8日に開催することに決定した。
2013/3/13	特定地域教育支援事業（鹿本高校） 第1部 出張授業 16:00~ 第2部 第2回会合

[出典：理学部年報 特定地域教育支援室報告]

H25(2013)年度 特定地域教育支援室活動報告

年月日	活動内容、審議事項など
2013/5/11-12	熊本大学理学部新入生合宿研修（天草青年の家） 高森高校から生徒が参加し、大学生およびJRFとの交流を通して大学を身近に感じ、進学意識を高めた
2013/6/26	平成25年度 熊本大学理学部による特定地域教育支援事業 第1回会合（阿蘇地域）16:00～16:40 懇談会 17:30～ 今後の取組に関して、会合を持った
2013/8/8	南郷塾寺子屋（高森高校） 教員5名、技術職員2名、学生15名（内留学生3名）が参加し、高森高校、近隣中学校の生徒に対して、熊大生による夏休みの課題の補助、勉強の仕方の講話を通して、勉学意欲や意識の向上を図った。午後からは近隣小学校の児童も参加し、科学実験教室を行った。
2013/8/8	阿蘇谷寺子屋（阿蘇中央高校） 教員2名、学生4名が参加し、阿蘇中央高校、近隣中学校の生徒に対して、熊大生による夏休みの課題の補助、勉強の仕方の講話を通して、勉学意欲や意識の向上を図った。午後からは、近隣の小学生も含めて、科学実験教室を行った。
2013/8/21	出張講義（鹿本高校） 大学入試センター試験「数学」問題解法解説 古島理学部長より理系クラス3年生に対して、センター試験過去問の問題解説を実施した。 講義終了後、高校教員と懇談会において、今後の活動に関して意見交換を行った。
2014/1/24	熊本大学訪問（熊本大学） 高森高校の1、2年生13名が熊本大学を訪問し、勉学意欲や進路意識の向上を図る「熊本大学訪問」。この事業には文学部、医学部（保健学科）の協力も得た
2014/2/18	「教育支援による地域活性化事業」情報交換会（高森高校） 平成25年度事業報告 平成26年度事業・運営計画 来年度以降の本事業について 古島、市川が参加し、高森町教育委員会、高森町の小中高の教員と意見交換を行った。次年度の南郷塾寺子屋を8月8日に開催することに決定した。
2014/3/12	1・2年生対象進路説明会 「熊本大学の学びの精神に触れる」（阿蘇中央高校） 1・2年生A類型（進学クラス）の生徒に対して、理系文系にわかれ、大学での教育や大学の授業、生活などについて、講演を行った。

[出典：理学部年報 特定地域教育支援室報告]

資料C-Ⅱ-2-2-2 授業開放科目（平成22～25年度）

平成22年度授業開放科目

	授業開放部局	科目名
H22前学期	理学部	物理数学Ⅰ
		解析力学
		惑星圏環境学
		有機化学Ⅲ
		物理化学Ⅰ
	大学院自然科学研究科	物理化学Ⅳ
		有機化学Ⅳ
		脳神経科学特論第一
		環境音響特論
		有機化学Ⅵ
		月惑星探査データ処理解析学
		Volcanology
		先端科学特別講義 現代代数学の展開
		先端科学特別講義 生命科学のフロンティア
先端科学特別講義 超分子・超構造科学		
先端科学特別講義 環境負荷低減型建築システム構築について		
H22後学期	理学部	基礎有機化学
		化学Ⅱ
		熱統計力学Ⅱ
		火山学
		基礎地球物質学
		物理数学Ⅱ
		幾何概論Ⅱ
	大学院自然科学研究科	物理化学Ⅶ
		先端科学特別講義 現代解析学の展開
		先端科学特別講義 地球システムの変動と相互利用
		先端科学特別講義 函と生命の環境科学最前線
		先端科学特別講義 機械知能システムの創成と制御
		先端科学特別講義 スマートSIの創成
		理学特別講義A10

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

平成23年度授業開放科目

	授業開放部局	科目名
H23前学期	理学部	有機化学Ⅲ
		解析力学
		物理化学Ⅰ
		太陽系科学
	大学院自然科学研究科	有機化学Ⅳ
		有機化学Ⅵ
		物理化学Ⅳ
		脳神経科学特論第一
		環境音響特論(講師:橘秀樹)
		先端科学特別講義 現代確率統計学の展開
		先端科学特別講義 現代化学シリーズⅠ
		先端科学特別講義 構造・組織の観測とシミュレーション
		先端科学特別講義 応用情報通信技術シリーズⅠ
H23後学期	理学部	基礎有機化学
		化学Ⅱ
		幾何概論Ⅱ
		統計力学
		基礎地球物質科学
		火山学
		海洋の科学(海洋地学)
		固体地球物理学
		社会地球科学
		大学院自然科学研究科
	先端科学特別講義 マイクロからマクロまでの各階層とそれをつなぐ物理学	
	先端科学特別講義 現代化学シリーズⅡ	
	先端科学特別講義 応用情報通信技術シリーズⅡ	

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

平成24年度授業開放科目

	授業開放部局	科目名
H24前学期	理学部	太陽系科学
		地球システム学
		電磁気学
		物理化学Ⅰ
	大学院自然科学研究科	有機化学Ⅲ
		物理化学Ⅳ
H24後学期	理学部	脳神経科学特論第一
		幾何概論Ⅱ
		固体地球物理学
		海洋の科学
		基礎有機化学
		火山学
		基礎地球物質学
		統計力学
		物理化学Ⅰ
	社会地球科学	
	大学院自然科学研究科	物理化学Ⅶ
地域計画特論		

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

平成25年度授業開放科目

	開講学部	科目名
H25前学期	理学部	電磁気学
		有機化学Ⅲ
		地球システム学
		特殊相対論
	大学院自然科学研究科	物理化学Ⅳ
		脳神経科学特論第一 Volcanology
H25後学期	理学部	統計力学
		海洋の科学
		基礎有機化学
		有機化学Ⅲ
		物理化学Ⅰ
		力学
		火山学
		基礎地球物質科学
		固体地球物理学
		社会地球科学
		大学院自然科学研究科
	地域計画特論	

② 授業開放科目

	文学部	教育学部	法学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	教養教育機構	社会文化科学研究科	自然科学研究科	計
科目数	5	8	10	14	6	7	10	20	5	5	90
募集人員	25	37	50	70	30	35	52	97	25	25	446
受講者数	10	23	6	26	11	8	7	51	12	4	158

※平成25年度実績

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) 特定地域教育支援事業及び授業開放ともに継続して実施している。特に、特定地域教育支援事業は通常の高大連携事業とは一線を画したユニークな事業であり、地域の教育機関と連携して事業を展開していることは特筆に値する。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

地域貢献活動においては実施実績と継続が活動の成果である。特定地域教育支援活動は、第1期中期目標期間から継続して実施し、実施した特定地域も前述したように高森、山鹿、牛深、阿蘇と増えている。生徒からの感想文(資料C-Ⅱ-2-3-1)や意見交換会における小中高校の教員からの報告より参加者が満足していることがわかる。

(中期計画番号K48～K50)

今日は私たちのために貴重なお時間を作っていただきありがとうございます。
 うございしました。

私は将来理系への進学を希望しています。今日の学習は理学部
 中心だったので私にはとても魅力がありました。特に興味がある
 たのはDVDで見た内容です。DVDでは理学部にはこんな
 資料がありこんなことを学習するのかわかりやすく教え
 てくれました。

また設備がとても広いということに驚かされました。

今回の体験で普段は得られないことをたくさん学べ
 満足しました。

[出典：熊本県立高森高等学校から送付された生徒からの感想文]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 特定地域教育支援事業では、継続して実施していること、活動の地域を広げていること、参加者が満足していることなどより、期待される水準にあると判断した。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

特定地域教育支援活動に関しては、前掲資料C-Ⅱ-2-2-1に示すように、活動を活発に実施した地域においては、年度末に意見交換会（反省会）を実施し実施内容の点検を行っている。それをもとに、計画の見直しを行い、実施時期や実施内容、周知方法など取組みの改善を行っている。

授業開放に関しては、毎年開講科目数を維持するように努力を行っている。

（中期計画番号K48～K50）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）特定地域教育支援事業では、毎年取組みの見直しを行っている。授業開放に関しては、開講科目数の維持に努め、地域への理学教育の普及に貢献している。

4. 質の向上度の分析及び判定

- (1) 分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

質を維持している。

平成 21 年度以降、平成 25 年度までの間に、審議委員等としての貢献、教育職員免許更新講習の講師、科学啓発イベントの企画・実施・運営、SSH 事業への協力、委託研究や共同研究等、様々な種類の社会貢献活動に継続して参画協力している。

- (2) 分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

改善、向上している。

全学からの要請以外に独自の特定地域教育支援事業を展開しており、資料 C - II - 2 - 2 - 1 に示すように、毎年継続するとともに、特定地域を増やしている。また、事業内容の見直しを毎年実施している。

IV 国際化の領域に関する自己評価書

1. 国際化の目的と特徴

本学部の国際化への取り組みは限定的なものであり、本学が取り組む国際化推進に対する具体的な対応が主である。その中でも、日本人学生の海外留学支援及びそれに伴うグローバル人材養成への対応は本学部が果たすべき重要な使命と受け止めている。本学部が提供する理学専門教育についてはその内容や教授方法において高水準にあり、急速に発展している東南アジア地域からの留学生の質保証の観点からも十分に対応できている。一方で、留学生の教育や研究指導を通して本学部の教育・研究の水準の高さを発信することでアジア地域に向け本学部の教育研究力をアピールする狙いもある。また、学術面だけでなく、熊本をはじめ九州の各地域の文化や風土に触れることで、日本の文化や社会に対する理解を深めさせ、九州地域の国際化へも少なからず貢献したい。さらに、在学中に海外留学を希望する学生や卒業後にグローバル人材として国内外で活躍を願う学生に対しては国際標準の専門性を身につけさせるだけでなく、共通言語である英語の運用能力（特に、読み・書き）を高め、現地（現場）に於いてもグローバル思考・ローカル展開できる新たな人材育成を目的として国際化を進める。

[想定する関係者とその期待]

熊本県や熊本市は国際交流を積極的に推進しており、特に、多数の留学生の受け入れは本学部に限らず県内のすべての大学機関に期待されている。一方、県内外の企業も大学教育を通して日本人としての誇りをもち国際感覚を有する人材の育成に期待を寄せている。これらの期待は大学だけの努力だけでは応えることができず、行政や企業との有機的な連携が必要であり、そのことが求められている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

国際奨学金で学会参加等の海外渡航を奨励している。

卒業研究の英文アブストラクトを学生に課して、英語の運用能力をみている。

卒業研究で原著論文や文献を講読させている。

前期日程個別学力試験に外国語を入試に課すこととした。

理系英語（C-3, C-4）を導入した、1年次初期及び2年時終わりに TOEIC の試験を導入した。

【改善を要する点】

該当なし。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

（観点到に係る状況）

大学の目標及び中期目標（資料D-I-1-1-1, 2）を受けて中期計画（資料D-I-1-1-3）が策定されており、それに沿って高度な専門教育の水準を維持し、国際標準の専門性を身につけた人材の育成に主眼をおいている。従って、独自に計画や方針を定め、公表する必要はないと考える。

（中期計画番号K51～K56）

資料D-I-1-1-1 熊本大学の目標（地域貢献・国際貢献）

2. 国際交流の推進

世界に開かれた情報拠点として、各国の大学や研究機関と学術的・文化的交流を積極的に推進するとともに、本学学生を国際社会に送り出し、留学生教育とその支援体制を充実することによって、学術文化の国際的発展に貢献する。

[出典：熊本大学ホームページ]

資料D-I-1-1-2 中期目標

（2）国際化に関する目標

1) 質の高い国際連携教育の拡充と、それを円滑に実施するための制度や仕組みを整備し、教育の国際的通用性の向上を目指す。

2) 本学の特色ある分野を中心として、諸外国の研究機関との研究連携を強化することにより、研究の国際的な卓越性を高める。

3) 教育・研究の国際化を支える環境の基盤整備を進めるとともに、大学情報の海外への発信等を充実させる。

[出典：熊本大学ホームページ]

資料D-I-1-1-3 中期計画

- (2) 国際化に関する目標を達成するための措置
- ①英語による授業の実施、留学生を対象とする日本語教育の充実、交流協定校等との教育プログラムの拡充などを通じて、学生の国際的な交流を推進する。
 - ②外国人教員・研究者の受入を拡大するとともに、秋季入学の実施拡大など、教育環境を整備する。
 - ①研究者交流を大学として推進するために、国際的研究ネットワーク等を充実させ、国際的研究環境を整備する。
 - ②アジアをはじめとした世界諸国において、高等教育の発展、研究レベルの向上、並びに人材育成に貢献するために、国際共同研究や国際協力事業等を展開する。
 - ①第一期に設置された「国際化推進機構」が中心となり、学内文書の英語・中国語・韓国語等への多言語化やワンストップサービスをはじめとする国際化に対応した留学生・外国人研究者への支援環境の整備を強化する。
 - ②本学に留学した学生の組織化、海外オフィスの増設など、海外拠点の整備を進めるとともに、教育・研究に関する取組を世界に向けて発信する。

[出典：熊本大学ホームページ]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 大学の目的・計画に沿って対応しているとともに、専門教育においては国際標準の専門性を身に付けた人材育成に努めている。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

全学の計画に基づいて適切に対応している。その中でも、私費外国人留学生入試(定員若干名)を実施し留学生を受け入れている。受入数は前掲資料A-I-1-2-24の留学生数に対応する。(なお、この数には一般入試を受験して入学した留学生も含まれる。)また、前掲資料A-I-1-2-23に示した通り、学長裁量経費からの国際奨学金に加えて学部長裁量経費からも支出し補助することにより、年間4～5名の学生が海外で開催される研究集会等へ参加している。

理学の学問そのものがグローバルであることもあり、卒業研究では外国語の原著論文や文献を講読させている。また、卒業研究の内容を海外に発信する練習として英文アブストラクトを学生に課し、英語運用能力の把握に努めている。

(中期計画番号K51～K56)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 大学の目的・計画に沿って、留学生を受け入れるとともに、専門教育においては国際標準の専門性を身に付けた人材育成に主眼をおいた教育を行っている。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

(観点に係る状況)

グローバル人材の輩出という学部の目的に対しては成果の検証は困難であるが、学生が国際研究集会等に参加するために国際奨学金制度を設け、渡航に必要な旅費を援助している。(前掲資料A-I-1-2-23)年間4～5名の学生が国際奨学金制度を利用して海外で開催される研究集会等への参加を実現している。(資料D-I-1-3-1)一方、留学

生に関しては、担当教員及び学生をチューターとして配置し、学修及び学生生活の支援を行っている。(資料A-I-1-2-24)

その他、大学本部から依頼があった内容に関しては、継続して実施・対応しており、一定の成果は上がっていると考えます。

(中期計画番号K51～K56)

平成26年1月7日

平成22年度入学
理学部 理学科 ○○○学コース 4年
氏名 ■■ ■■

平成25年度 熊本大学国際奨学事業報告書

1. 実施した活動内容

5th International Symposium on Nano & Supramolecular Chemistry (ISNSC) への参加、および研究成果の発表。

講演風景 (写真)

2. 得られた成果

今回、ISNSCに参加できたのは非常に良い経験となりました。自分にとって今回が初めての研究発表だったのですが、そのような場を海外で行うことができるということはなかなかできない体験であり、世界でどのような研究が行われているかを論文ではなく、実際に耳で聞き知ることができたのでとてもためになりました。今回のISNSCでは、世界中から著名な教授の方々が多数来られており、その方たちの研究内容は非常に興味深く、改めて研究の楽しさ、面白さを実感することができました。さらに、自分の研究が世界で通用するかを確認できる場でもあり、4年生の段階からこのような発表会に参加できたのは本当に貴重な体験だったと思います。また、すべての発表が英語で行われたため、英語の大切さを再確認でき、日本ではなかなか気付かない自分の英語力不足を体感できたため、今後の研究生生活を考え直すものにもなりました。このような国際経験は、国内にいるときには気付かなかったことに気づけたり、その国における文化の違いを学んだりといった、自分の視野を広げるという意味で必ず将来の自分に役立つことであると思います。さらに、これからの研究における意識向上にもつながることであると考えています。今後もこのような機会があるならば是非参加しようと思いました。

3. 今後の課題

今後の課題といたしましては、やはり英語力の向上だと思います。今回の研究では、韓国の学生とも交流する機会があったのですが、そのときに感じたのが英語力の差です。研究発表に関しては自分も原稿を練習していたのできちんと話せたのですが、やはり日常会話がほとんど身につけていないため、言いたいことを伝えることができなかつたし、せっかく著名な先生方がいらっしやっているにも関わらず、あまりお話ができなかつたということは非常に悔しかつたですし、チャンスを逃してしまったのは本当にもったいなかつたと思います。もし、今後海外に行く機会があれば、しっかりと英語を話せるようになっておき、様々な人と交流、研究についてのディスカッションができるようになりたいです。

また、今回の研究発表で、自分の研究に対するモチベーションがさらに増加しました。先生方や韓国の学生の発表がとてもレベルの高いものであり、自分もより良い成果を出して多くの国際学会に発表できるようになりたいと思いました。そのためには、今までよりももっと研究を頑張り、考える力を身につけたり、実験や測定に関する力をつけたりする必要があると感じました。

今回の学会発表は自分にとって足りない力や、課題を確認するには非常に良い経験になりました。今後は、上記のような課題や問題点を解決できるように努力し、真摯に研究に取り組んでいきたいと思っています。

集合写真

[出典：理学部教務担当資料]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 人材育成に関する成果の検証は困難であるが、国際奨学事業の成果は学生の提出した成果報告書から上がっていると判断した。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

下記の改善を行った。

- 前期日程個別学力試験に外国語を平成 27 年度入試より課すこととした。
- 海外の大学へ留学する学生に対して、言語の壁を越えて新たな学問的知見得られるよう、卒業研究で英文アブストラクトを提出させるなどの措置を講じている。
- 理系英語 (C-3, C-4) を導入した。
- 1 年次初期及び 2 年時終わりに TOEIC を導入した。

なお、これらは今後検証する必要がある。

また、学長裁量経費による国際奨学金だけでは不足、学部長裁量経費からも加えて極力希望者の意に添うようにした。(資料 A-I-1-2-23)

(中期計画番号 K51～K56)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 英語の運用能力を向上させるべく様々な改善を行っている。経費が削られているにも関わらず、学部長裁量経費から支出し不足分を補填して水準を保つよう独自の努力を行っている。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

質を維持している。

前期日程個別学力試験に外国語を入試に導入、卒業研究で英文アブストラクトを提出させ英語力を検証、理系英語、TOEIC 試験の導入、留学生の受け入れ、国際奨学金による海外研修の援助などを通して本学の目的に即した活動は適切に行われており、成果を上げている。

V 男女共同参画に関する自己評価書

1. 男女共同参画の目的と特徴

本学では、「男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会」の実現を目指し「男女共同参画推進基本計画」を策定した。また、大学院自然科学研究科は基本計画の推進を図るために、男女の機会均等の実現と男女共同参画を推進するための啓発活動を基本方針として男女共同参画に取り組んでいる。本学部は、本学における男女共同参画の活動に、主に大学院自然科学研究科を通して協力・貢献しており、その目的と特徴は本学及び研究科と同様である。

理学部の教育を担当している教員は全て大学院自然科学研究科に所属しており、教員採用は自然科学研究科で行っている。従って、教員採用に関する男女共同参画に関する取り組みは、熊本大学男女共同参画推進基本計画に沿って適切に実施するとともに、女性研究者養成システム改革加速など本学が採択された事業にも参画している。また、自然科学研究科に設置されている男女共同参画推進委員会を通して具体的な活動も行われている。このように、理学部の男女共同参加に関する活動は、主に教員の所属部局である自然科学研究科を通じたものであり、その内容は自然科学研究科の自己評価書に記載されている。以下では、理学部に個別に関連する部分を抽出して記載している。

理学では学問として教育研究において性別による差別を加えることはない。一方、在学生及び教職員に対しては環境整備に関する要望や指摘に対しては迅速に対応する体制を整えている。また、自然科学研究科で行っている女子中高生の理系進路選択支援事業に協力して、理系の男女共同参画に対して底辺を広げることで協力をしている。

[想定する関係者とその期待]

全教職員 男女共同参画の適切な推進

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

該当なし。

(理由) 女性教員の新規採用など、自然科学研究科自己評価書に記載しているものと重複するので、省略した。

【改善を要する点】

該当なし。

上記と同じ理由。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 男女共同参画の状況

観点 男女共同参画に準ずる環境整備の取り組みを実施しているか。

(観点に係る状況)

女子学生及び女性教職員が安心安全に教育研究を実施できるように、環境整備は学部長のもと迅速に対応する体制を整えている。全学からの要請でセクハラ相談員を配置し、規則に沿って対応している。

女子中高生の理系進路選択支援事業に関しては、理学系教職員が企画運営に関係するとともに、自然科学研究科からの依頼に応じて理学部及び理学専攻等の女子大学生・大学院

生が各種企画に協力した。(資料 I - I - 1 - 1 - 1) 理系に進学する女子学生の割合を増やし、将来の女性教員増加につなげるという意味で、男女共同参画に準じた取組と考えている。なお、理学部に所属する女子学生の割合は平成 25 年度末で 29.2% であり、この数年間大きな増加も減少もない。

(中期計画番号 K40~K73)

資料 I - I - 1 - 1 - 1 女子中高生の理系進路選択支援事業に協力した理学部女子学生



[出典：平成 25 年度夢創り応援プロジェクト for ガールズ 2013 成果報告書]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 学部として可能な限り適切に対応している。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 I 男女共同参画の状況

質を維持している。

全学の目的に沿って、自然科学研究科の評価書に示されている各種事業に協力・貢献している。加えて、構成員からの意見・要望に迅速に対応している。

VI 管理運営に関する自己評価書

1. 管理運営の目的と特徴

理学科一学科制の下での円滑な管理運営には学部長を中心とした執行部（学部長室）のガバナンスが不可欠である。とりわけ、構成員及び学生が安全にかつ安心して教育・研究・学修のできる環境の整備や本学部の信頼を失墜しかねない不測の事態に対する危機管理体制の確立は学部長室の責務であり、これら責務を円滑に遂行する学部ガバナンスの強化を図る必要があるとの認識に立つ。このため、本学部の管理運営体制では理学部長、副学部長、理学科長を中心とする学部長室で学部の将来構想や学部の管理運営に関して細部に亘り検討及び計画し、最終的には学部長室に於いてそれらの意思決定を行っている。また、構成員へのフィードバック及び連絡調整については講座主任や各種委員会委員長からなる理学部運営会議においてなされている。このことにより、構成員の教育・研究以外の事務的な業務負担は軽減され、結果、学部教授会の円滑な進行を可能にしている。一学科制の運営にはこのような執行部の強力なリーダーシップが必要であり、その下で構成員の教育・研究に集中できる環境を最大限保証する管理運営体制が構築された。

[想定する関係者とその期待]

本学部構成員とその家族	本学部構成員が安全に、かつ安心して教育・研究・学修のできる環境の保証
卒業生、学生の採用企業、一般市民などその他の関係者	提言、苦言などを受け付ける窓口の設定と即座に対応する体制

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

理学部を一学科に改組したことにより、それまで各学科で負担していた管理運営事項を理学部で一極集中して行うこととなった。同時に、教員間の学問分野による壁が取り払われ、分野固有の事情を含め各種情報の迅速な開示共有とバランスの取れた運営を迫られた。そのための仕組みとして理学部長室を機能強化し、迅速な判断と効率的な管理運営を実施している。これに伴い、構成員の教育・研究以外の事務的な業務負担は軽減され、教育・研究に集中できる環境を最大限保証する管理運営体制が構築されている。すなわち一学科ならではの効率化が図られている。

【改善を要する点】

更なる迅速な意思決定とそれを周知する体制を整えることが必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

管理運営のための組織としては、運営基本規則及び各会議・委員会規則を制定して体制を整えている。これらの規則集は理学部ホームページからアクセスできるようになっており、学内からであればいつでも参照できるようになっている。(資料Z-I-1-1-1) 特筆すべきことは目的と特徴で記載した理学部長室を中心とした意思決定システムである。

一方、事務組織に関しては、管理運営上支障の生じない体制として構築されてはいるが、全般的に人数が足りない状況である。特に学部教務担当者の不足が深刻である。教務担当では、教務、入試、就職、学生支援、教室管理、学部委員会業務等、教学に関する業務一切を3名のみで担当し、オーバーワークとなっている。全学的に適切な人員配置が望まれる。

危機管理等に係る体制として、緊急時連絡網(資料Z-I-1-1-2)、対応マニュアル(資料Z-I-1-1-3)等を作成し、必要な構成員に配布周知している。また、消防団(資料Z-I-1-1-4)も組織し、火災や地震等の災害に対応している。(資料Z-I-1-1-5) 安全衛生委員が定期的に巡視しており、危険箇所を指摘し、施設の管理者に対策を報告させることにより、日常的に安全の確保に取り組んでいる。

平成25年度の理学科会議において、安全教育の充実、時間外施設利用申請システムの導入、理学部安全週間の実施など柱とした安全に対する取り組みを更に強める方針を決めた。(資料Z-I-1-1-6)

研究費不正使用の防止のために、検収制度が整備されている。(資料Z-I-1-1-7) 理学部の教職員も積極的に協力している。また、データのねつ造など研究不正防止に関連する講演会やアンケート調査も実施されており、多くの研究者が参加している。(資料Z-I-1-1-8)

P2Pソフトの使用は熊本大学のインターネット環境では禁止されており、理学部では独自に4か国語(日本語、英語、中国語、韓国語)の配布文書を作成し、教職員や学生のみならず、留学生や短期滞在の研究者にいたるまで、その旨周知徹底している。(資料Z-I-1-1-9)

なお、緊急時は、基本的に理学部長室で対応することとなっており、担当職員から理学

部長室のメンバーに連絡が届くようになっている。

(中期計画番号 K67～K93)

資料 Z - I - 1 - 1 - 1 理学部規則集

1. 理学部規則
2. 熊本大学理学部運営基本規則 [PDF 125KB]
3. 熊本大学理学部長室細則 [PDF 75.9KB]
4. 熊本大学理学部運営会議細則 [PDF 105KB]
5. 熊本大学理学部教務委員会細則 [PDF 98.7KB]
6. 熊本大学理学部学生委員会細則 [PDF 100KB]
7. 熊本大学理学部入試委員会細則 [PDF 97.8KB]
8. 熊本大学理学部広報委員会細則 [PDF 97.2KB]
9. 熊本大学理学部 F D 委員会細則 [PDF 112KB]
10. 熊本大学理学部就職委員会細則 [PDF 96.1KB]
11. 熊本大学理学部図書委員会細則 [PDF 91.1KB]
12. 熊本大学理学部評価委員会細則 [PDF 71.8KB]
13. 熊本大学理学部特定地域教育支援室に関する申し合わせ [PDF 85.8KB]

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/forinternal/kisoku/index.html>

[出典：理学部ホームページ]

熊本大学理学部運営基本規則

(趣旨)

第1条 この規則は、「学生や教員を元気づける教育体制の確立」及び「事務の簡素化・効率化と学生指導の充実」という理念及び目的が達成されるよう、以下に示した基本方針を定め、教職員の協力の下に円滑、かつ、安定的に理学部を運営するために必要な基本となる事項を定めるものとする。

(基本方針)

第2条 理学部を運営するための基本方針を次のように定める。

- (1) 教育・研究の組織運営体制の整備・充実
- (2) 教員の事務的負担の最小化・効率化
- (3) 各種委員会業務の整理と負担の軽減化、及び責任体制の明確化
- (4) 学生と教員の教育・研究交流の促進
- (5) 就職支援・広報活動の充実
- (6) 社会貢献
- (7) 国際化の推進
- (8) 教員の個人活動評価及び学部評価に基づく改善の促進

(実施体制)

第3条 理学部長は、会議及び委員会等を全て掌握し、バランスのとれた運営を行うとともに、最終責任を負うものとする。

2 役割及び責任の所在を明確にするため、次の会議等を置く。

- (1) 理学部長室
- (2) 運営会議
- (3) 教授会
- (4) 理学科会議
- (5) 各種委員会
 - ア 教務委員会
 - イ 学生委員会
 - ウ 入試委員会
 - エ 広報委員会
 - オ FD委員会
 - カ 就職委員会
 - キ 図書委員会
 - ク 評価委員会
- (6) 講座会議
- (7) 特定地域教育支援室

3 会議等に関し、必要な事項は別に定める。

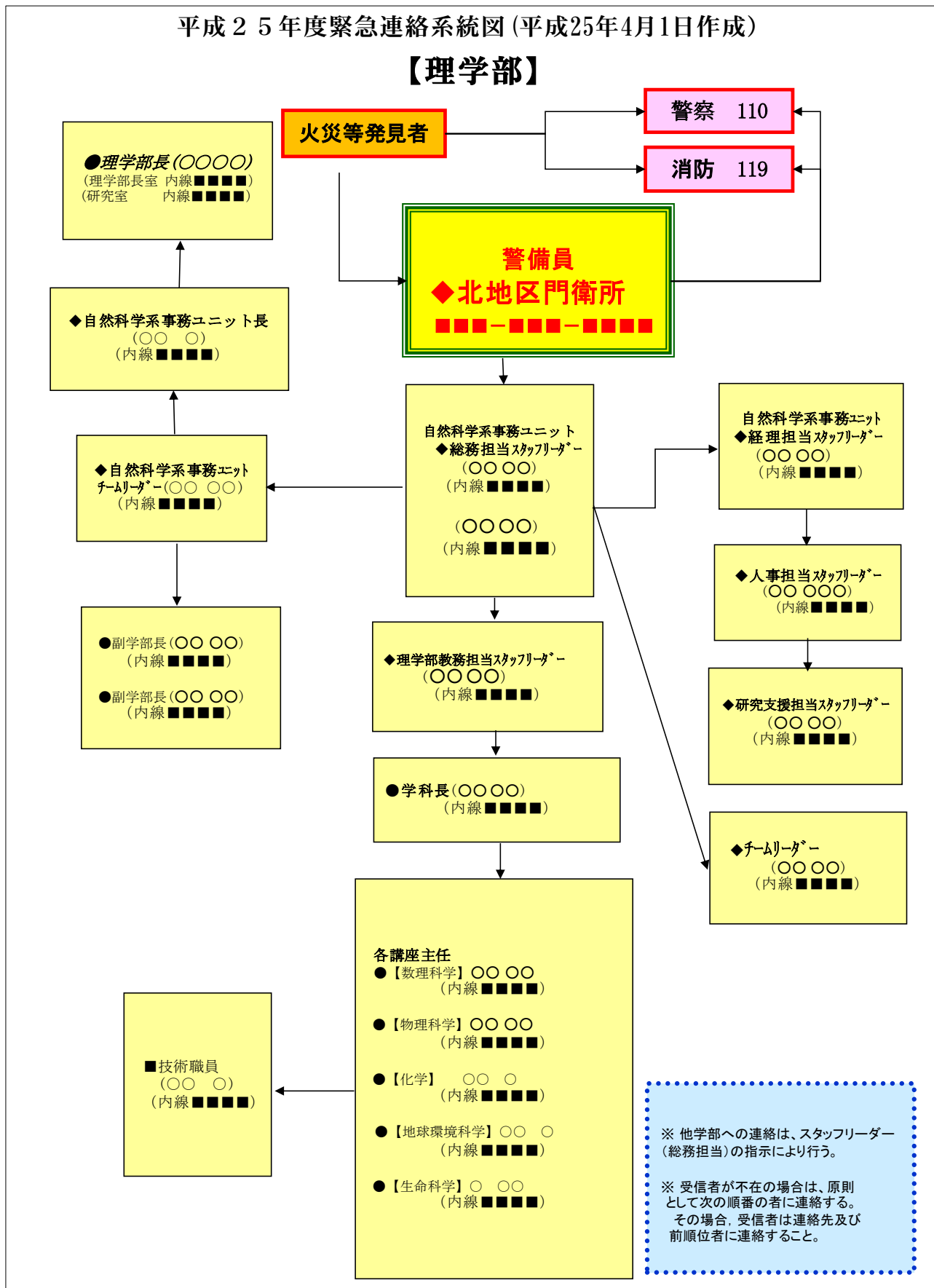
(学部運営の支援)

第4条 各講座及び自然科学系事務ユニットは、理学部運営が教職員協力の下に円滑に実施されるよう、必要な配慮を行うとともに、お互いに連携を図りながら業務の遂行に努めるものとする。

[出典：熊本大学理学部運営基本規則]

平成25年度緊急連絡系統図(平成25年4月1日作成)

【理学部】



[出典：平成25年度緊急連絡系統図]

火災発生

火災が発生したら?!

- ① 火災報知機を押し、人を呼ぶ

↓

- ② スイッチを切る 元栓をしめる

↓

- ③ ◆ 消防署へ連絡(119番)

【連絡内容】

所属:熊本大学 黒髪南地区 理学部〇〇館

氏名:〇〇 〇〇

連絡先電話番号:〇〇〇-〇〇〇〇

負傷者の有無

◆ 自然科学系事務ユニット総務担当へ連絡
電話番号:●●●-●●●-●●●●

※ 総務への連絡が取れない場合(夜間・休日など)
北地区守衛室(●●●-●●●-●●●●)へ連絡

★ 初期消火により消火した場合

初期消火により消火できた場合は、次の場所へ連絡すること

◆ 自然科学系事務ユニット総務担当 電話番号:●●●-●●●-●●●●

※ 総務への連絡が取れない場合は、北地区守衛室(●●●-●●●-●●●●)へ連絡

[出典：火災発生時対応マニュアル]

自衛消防組織編成表 (自然科学系理学部地区隊)

(平成26年4月1日現在)

地区隊長		
理学部長		
副地区隊長		
理学科長		
	通報・連絡班	
	班長(数理学講座主任)	<ul style="list-style-type: none"> ・在館者に対する指示 ・記録の作成 ・自衛消防本部への通報及び隣接各室への連絡
	・数理学講座所属教職員	
	・物理学講座所属教職員	
	・自然科学系事務ユニット総務担当	
	初期消火班	
	班長(化学講座主任)	<ul style="list-style-type: none"> ・出火階に直行し、屋内消火栓設備による初期消火作業に従事 ・消火器、バケツ等を利用しての初期消火作業 ・消火用水の運搬 ・隣接する延焼物の取除き又は遮断等一切の消防作業
	・化学講座所属教職員	
	・自然科学系事務ユニット経理担当	
	避難誘導班	
	班長(地球環境科学講座主任)	<ul style="list-style-type: none"> ・出火階及び上層階に直行し、避難開始の指示命令の伝達 ・非常口の開放及び開放の確認、避難上支障となる物件の除去 ・消火器等による初期消火作業及び本部初期消火班の誘導 ・火災発生地区へ直行し、防火戸、防火シャッター及び防火ダンパー等の閉鎖
	・地球環境科学講座所属教職員	
	・自然科学系事務ユニット理学系教務担当	
	救出救護班	
	班長(生命科学講座主任)	<ul style="list-style-type: none"> ・救出・救助及び搬出の介助 ・負傷者の応急手当その他応急処置
	・生命科学講座所属教職員	
	・自然科学系事務ユニット人事担当	

[出典：教務担当資料]

資料 Z - I - 1 - 1 - 5 防災訓練マニュアル

【教職員・学生・フロア責任者版】黒髪南地区防災・消防訓練シナリオ等

①流れ・注意事項について

- ・理学部では、地震による防災訓練を行い、そのまま流れて、火災による消防訓練を行う。(地震での負傷者1名を想定している。【〇〇研究室学生】)
- ・地震による災害を想定しており、エレベーターは使用できないため、階段を利用すること。
- ・階段は使えるが、当日、消防署が数カ所封鎖する可能性がある。(昨年度は1カ所封鎖。)
- ・消防署が逃げ遅れ等の付加想定を行う可能性がある。(昨年度は「逃げ遅れ」が1カ所あった。)
- ・各研究室等内の電話は、本訓練時に使用しないこと。
- ・原則、全員参加。
- ・避難時は、速やかに避難して下さい。

②当日の役割

- (1)理学部地区隊 (地区隊長・副地区隊長・通報連絡班・初期消火班・避難誘導班・救出救護班)【理学部長・理学科長・各講座主任を中心として組織】
- (2)建物責任者(主に各建物の状況を理学部地区隊へ報告する)【理学部1号館(〇〇〇先生) 2号館(〇〇〇先生) 3号館(〇〇〇先生) 4号館(〇〇〇先生) 化学薬品庫(〇〇先生)】
- (3)フロア責任者(各フロアの状況を建物責任者へ報告する)【理学部1号館・2号館・3号館・4号館の各階にフロア責任者をおく(後日決定後、連絡します)】
- (4)負傷者1名【〇〇研究室学生】
- (5)負傷者発見者1名【〇〇研究室学生】
- (6)火災発生場所は、理学部2号館となっているが2号館のどこで発生するかは、当日の訓練開始時に消防署が決定。
- (7)一時避難場所(理学部3号館西側:理学部3号館と工学部研究棟Ⅰの間のスペース(駐車場及び通路))当日は、通行規制を行います。
 - ・一時避難場所への避難が完了したら、指示に基づき、避難場所:南地区西側駐車場(工学部物質生命棟前)へ避難

[出典：防災訓練資料]

平成 25 年 8 月 2 日

安全教育の考え方 (案)

理学部長室

理学部では、本年 1 月 21 日に学生アパート火災による死亡事故、4 月 13 日に実験室からの出火による消防車の出動、5 月 14 日にバーベキュー後の不適切な取り扱いと、安全対策の欠如による事故が続いている。

これを機に、理学部全体として、安全教育の見直しを行うこととし、講座ごとに安全対策を検討してもらった上で、今回理学部長室として提案する。

○安全の手引き

工学部の「実験・実習における安全の手引き」を参考にして、理学部バージョンを作る。実験・実習だけではなく、飲酒等を含む事故を未然に防ぐような内容を盛り込む。簡単な内容をピックアップしたポスターや事例集のようなパンフレットも作る方針。手引き作りは、WG を作って実働してもらう。

安全衛生管理は、運営会議の任務事項なので、特に委員会は設けず運営会議で取り扱う。

各講座特有の安全対策も想定されるので、その場合は別途追加資料とする。

○安全教育

これまで、各コースや研究室単位に任せて安全教育を実施してきたが、理学部全体としても行う。

一年生

→今年度は入部式で、保健センターの岸川教授により、飲酒について講演していただいた。今後も続ける予定。

→新入生合宿研修にて、安全に関する講習を行う

二年生

→二年生ガイダンスにて、講習を行う。

三年生、四年生、院生

→各コースのガイダンス等にて、講習を行う。

以上は、毎年年度初めに行うことで、意識を高め、再認識させる。

○時間外施設利用申請システム

これまで、時間外の施設利用は何の規制もなかった。これでは、事故があった場合にだれが建物にいるのかも把握できていなかった。

二年、三年生の自習室利用や、コンピュータ室の時間外管理方法は検討中。

四年生以上の学生に関しては、指導教員が責任をもって管理するため、工学部のシステムを利用させてもらい、理学部の建物用とした。渋谷教授に感謝。7月5日の理学科会議にて概要を説明済。8月2日の理学科会議後、システムへの入力（実際には8月5日の週から）を実行してもらう。

以下から入ってください。理学部ホームページにも掲載します。

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/yakan>

大学内からのみアクセス可能

申請許可は、システムに入る前に以下のような項目がある。

- 指導教員が帰宅するまでに許可をもらい、届け出して下さい。
- 平日 22 時以降、土日祝日については、デスクワーク・実験とも原則 2 名以上で実施して下さい。
- 社会人学生など指導教員が認めた者については一人でも可能です。共同申請者欄に「許可者」と記載して下さい。（ただし、学科の安全環境保全委員に届け出る必要があります。）

当面工学部と同じ条件を使用する。（ただし、、、）については、指導教員が許可すれば可とする。なお、22 時以降、土日祝日であっても、教員が居れば登録の必要はない。

○理学部安全週間

前期と後期の適当な期間を定め、教職員・学生の安全確認を行う週とする。

後期は、消防訓練の前に安全週間を設ける。

[出典：平成 25 年 8 月理学科会議資料]


資料 Z - I - 1 - 1 - 7 検収制度

目的

納入物品に対する検収を徹底するために、平成18年9月から物品検収窓口を設け、検収体制の強化を図っており、ご協力いただきましてありがとうございます。

なお、平成25年4月からは、これまで時間外等の理由で物品検収窓口で確認出来ていなかったものも確認し、全ての物品を対象とすることで、社会的な説明責任を果たすこととしました。

ご理解のうえ、更なるご協力をよろしくお願いいたします。

➤ [熊本大学における物品の検収制度について（業者のみなさまへ）](#)  [PDF 825KB]
(平成25年6月18日 一部改正)

熊本大学ホームページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/receive/index#01>

[出典：熊本大学ホームページ]

資料 Z - I - 1 - 1 - 8 研究不正防止に関するアンケート

公的研究費の適正な執行に係る調査の結果について（報告）

1. 調査事項：平成20年4月1日～平成23年7月31日までににおける預け金及びプール金の有無
 ※調査の過程で、平成19年度以前の不適切な経理が判明した場合も報告する。
2. 対象経費：本学における研究活動のための資金
 （競争的資金、運営費交付金、授業料／自己収入、寄附金など全ての資金）
3. 調査方法：
 - (1) 教職員
 各部局長等の責任において後日検証可能な方法により、調査時点で当該部局に在職し、研究活動業務（資金管理を含む）に関与する全ての職員（非常勤職員を含む）に対する文書又は聞き取りによる確認を行う。
 - (2) 取引業者
 410件（調査期間中300万円以上かつ20件以上の取引先）
4. 調査結果
 - (1) 教職員
 各部局長等からの「預け金」及び「プール金」の有無についての回答は、全て「無」であった。
 - ・調査対象者数：2,247名
 - ・回答者数：2,232名
 - ・回答のなかった者：15名（※）
 - ・回収率：99.3%
 ※回答のなかった者15名のうち、長期の海外研修者1名、病休1名、督促中13名であった。
 - (2) 取引先業者
 取引先業者からの「預け金」の有無についての回答は、全て「無」であった。
 - ・調査対象：410件（実質対象405件）
 - ・回答：402件
 - ・回答のなかった取引先業者：8件（※）
 - ・回収率：99.3%
 ※回答のなかった取引先業者8名のうち、統廃合5件、倒産等3件であった。
5. 文科省提出期限：平成23年12月28日（水）
6. その他
 平成23年10月27日（木）第6回部局長等連絡調整会議 報告
 平成23年12月22日（木）第8回部局長等連絡調整会議 報告

公的研究費の適正な執行に係る調査結果（2011.11.25現在）

No.	部局等	不適切な経理の有無		内訳	教員							一般職員					合計	回収率 (%)	
		有	無		教授	准教授	講師	助教	助手	その他	計	事務職員		技術職員		その他			計
												常勤	非常勤	常勤	非常勤				
4	理学部		○	対象者数							0		2	2	1		5	5	100
				回答者数							0		2	2	1		5	5	
9	自然科学研究科		○	対象者数	105	76	5	40			226						0	226	96.5
				回答者数	104	72	5	37			218						0	218	

[出典：総務担当資料]

資料 Z - I - 1 - 1 - 9 P 2 P ソフトに関する注意

熊本大学ファイル交換ソフトの使用禁止等について

1. ファイル交換ソフトの使用禁止 本学では、本学のネットワークを利用した著作権侵害を防止するため、ファイル交換ソフトの使用を禁止しています。

※代表的なファイル交換ソフト

100bao(百宝), Ares, Azureus, BitComet, BitTorrent, Blubster, Cabos, eDonkey2000, eMule, G2, Gnutella, Grokster, iMesh, Kazaa, KuGoo(KuGou, 酷狗), Kuwo(酷我), Lime Wire, MorpheusOvernet, PerfectDark, Piolet, POCO, PPLive, PPSStream, PP 点点通, QQLive(QQ 直播), QQ music(QQ 音乐播放器), RockItNet, Share, Shareaza, soulseek, TTPlayer(千千静听), Xunlei(Thunder, 迅雷), Winny, WinMX, μTorrent およびこれらの互換ソフト

①本学のネットワークで、ファイル交換ソフトがインストールされたパソコン等の情報処理機器を使用してはいけません。また、本学のネットワークに接続する情報処理機器にファイル交換ソフトをインストールしてはいけません。

②個人所有のパソコンであっても本学のネットワークに接続することがあるパソコンにはファイル交換ソフトをインストールしては絶対にいけません。接続前に必ず削除してください。

2. 使用禁止の理由 ファイル交換ソフトで最も問題とされるのは、利用者が行う著作権侵害行為ですが、ソフト使用上の知識・技術不足により、意図しない著作権侵害を行い、結果的に無意識のうちに加害者となってしまう危険性があります。そのため、ユーザー保護の観点から本学での使用を禁止しています。

3. ファイル交換ソフトの動作または著作権侵害のおそれを確認した場合本学では、ファイル交換ソフト等の使用検知システムを導入しています。ファイル交換ソフトの動作または著作権侵害のおそれを確認した場合、当該情報処理機器を特定するため、部局長等に調査を依頼します。更に、著作権侵害防止のため、緊急の措置が必要であると認めるときは、当該情報処理機器をネットワークから遮断する場合もあります。

Use of file sharing software is prohibited in Kumamoto University

1. Use of file sharing software is prohibited.
To prevent copyright violations through the university network, file sharing software systems are prohibited to use in Kumamoto University.

*Representative file-sharing software:

100bao, Ares, Azureus, Bittorrent, Blubster, Cabos, eDonkey2000, eMule, G2, Gnutella, Grokster, iMesh, Kazaa, KuGoo(KuGou), Kuwo, Lime Wire, Morpheus, Overnet, PerfectDark, Piolet, POCO, PPLive, PPSStream, PP365, QQ music, RockItNet, Share, Shareaza, soulseek, TTPlayer, Xunlei(Thunder), Winny, WinMX, μTorrent, and related compatible software systems

① In the university network, information-processing units such as a laptop, a desktop on which file sharing software are installed must not be used. Likewise, do not install file sharing software on information-processing units connected to the university network.

② Even on your own laptops, desktops, do not install file sharing software, if you could connect those of your private units to the university network. Be sure to delete file sharing software before connecting.

2. Reason of the prohibition

The most serious harm is typically copyright violation by the user in use of file sharing software, though, there are also risks caused through lack of knowledge and techniques in the software use. A user might be unintentionally violating copyright, which would be serious enough to make the user a wrongdoer while the user is unconscious of violation. Our prohibition policy here in Kumamoto University is aimed at protecting users.

3. In finding, recognizing, any acts operated by file sharing software, or risks of possible copyright violation

In Kumamoto University, we have the detecting system to search use of file sharing software, etc. When any acts operated by file sharing software, or risks of possible copyright violation are detected, division or section chiefs will be requested to make investigation to identify the relevant information-processing unit. And to prevent a copyright violation, as a necessary urgent measure, the relevant information-processing unit could be cut off from the network.

关于熊本大学禁止使用文件共享程序等事宜

1. 禁止使用文件共享程序 为了禁止利用本大学的网络侵犯著作权，本大学禁止使用下述文件共享程序。

※具有代表性的文件共享程序

100bao(百宝), Ares, Azureus, Bittorrent, Blubster, Cabos, eDonkey2000, eMule, G2, Gnutella, Grokster, iMesh, Kazaa, KuGoo(KuGou, 酷狗), Kuwo(酷我), Lime Wire, MorpheusOvernet, PerfectDark, Piolet, POCO, PPLive, PPSStream, PP 点点通, QQLive(QQ 直播), QQ music(QQ 音乐播放器), RockItNet, Share, Shareaza, soulseek, TTPlayer(千千静听), Xunlei(Thunder, 迅雷), Winny, WinMX, μTorrent 以及这些软件的分享程序

①不可在本大学的网络上，使用安装了文件共享程序的电脑等的信息处理机器。此外，不可在与本大学的网络连接的信息处理机器内安装文件共享程序。

②即使是个人持有的电脑，如果会与本大学的网络连接，也切不可安装文件共享程序。与本大学的网络连接前，必须把文件共享程序删除。

2. 禁止使用的理由 文件共享程序造成的最大的问题是：用户会有侵犯著作权的行为。由于缺乏使用软件的知识和技术，用户会在无意间侵犯著作权，其结果是在无意识中，有成为加害人的危险。因此，本着保护用户角度的考虑，本大学禁止使用这些软件。

3. 确认文件共享程序已启动或有侵犯著作权的危险时 本大学已引进了监测文件共享程序等使用的系统。确认文件共享程序已启动或有侵犯著作权的危险时，为了特定该信息处理机器，本大学将委托部局长等人士进行调查。此外，为了防止侵犯著作权，如果认为有采取紧急措施的必要，本大学可能会断开该信息处理机器与网络的连接。

쿠마모토 대학 파일 교환 소프트웨어의 사용금지 등에 관해서

1. 파일 교환 소프트웨어의 사용금지

본 대학교에서는 본 대학교의 네트워크를 이용한 저작권침해를 방지하기 위해서 파일 교환 소프트웨어의 사용을 금지하고 있습니다.

※대표적인 파일 교환 소프트웨어

100bao, Ares, Azureus, Bittorrent, Blubster, Cabos, eDonkey2000, eMule, G2, Gnutella, Grokster, iMesh, Kazaa, KuGoo(KuGou), Kuwo, Lime Wire, MorpheusOvernet, PerfectDark, Piolet, POCO, PPLive, PPStream, PP 点点通, QQLive, QQ music, RockitNet, Share, Shareaza, soulseek, TTPlayer, Xunlei(Thunder), Winny, WinMX, μTorrent 및 이러한 것들의 호환 소프트웨어

①본 대학교의 네트워크에서 파일 교환 소프트웨어가 인스톨된 PC 등의 정보처리기기를 사용해서는 안됩니다. 또, 본 대학교의 네트워크와 접속하는 정보처리기에 파일 교환 소프트웨어를 인스톨해서도 안됩니다.

②개인소유의 PC라도 본 대학교의 네트워크와 접속할 기회가 있는 PC에는 파일 교환 소프트웨어를 인스톨해서는 절대로 안됩니다. 접속전에 반드시 삭제해 주십시오.

2. 사용금지의 이유

파일 교환 소프트웨어에 있어서 가장 큰 문제가 되는 것은 이용자가 행하는 저작권침해 행위이지만, 소프트웨어 사용상의 지식 및 기술부족으로 인한 의도하지 않는 저작권침해 행위를 해서 결과적으로 무의식 중에 가해자가 되어 버리는 위험성이 있습니다. 그러므로 사용자 보호의 관점에서 본 대학교에서의 사용을 금지하고 있습니다.

3. 파일 교환 소프트웨어의 동작 또는 저작권침해의 위험성을 확인했을 경우

본 대학교에서는 파일 교환 소프트웨어 등의 사용금지 시스템을 도입하고 있습니다.

파일 교환 소프트웨어의 동작 또는 저작권침해의 위험성이 확인되면, 해당정보처리 기기를 찾기 위해 부국장(部局長) 등에게 조사를 의뢰합니다. 조사를 통해 저작권침해 방지를 위한 긴급 조치가 필요하다고 인정될 경우 해당정보처리 기기를 네트워크에서 차단할 수도 있습니다.

平成 25 年 4 月 4 日

理学部学生、大学院自然科学研究科理学系学生 各位

P2P ファイル交換ソフトウェアのパソコンへのインストール厳禁と、違反学生に対する処分について

理学部長 古島幹雄

熊本大学では、情報システム利用規則第 13 条にて、ファイルの自動公衆送信機能を持つ P2P ソフトウェア（「Winny」「Limewire」「WinMX」「Gnutella」等のいわゆるファイル交換ソフトウェア）の利用は、特別に許可された場合を除き禁止している。なぜならこれらのソフトウェアの機能によって、本人が意識しないまま他人の著作物を公開する可能性があり、結果的に著作権侵害となるおそれがあるからである。著作権侵害のような著作権法に違反する行為は、刑事罰の対象となり、捜査の過程で、家宅捜索、証拠品の押収などが行われ、逮捕されることもある。罰則は、10 年以下の懲役または 1,000 万円以下の罰金、またはその両方と非常に重いものである。著作権侵害行為に関する問題が発生すると、個人の問題だけではなく、熊本大学にとっては教育機関として社会的信用にも係る重大な問題ともなりかねる。

上記規則に則り、大学で使用するコンピュータ（個人所有パソコンを含む）への、P2P ファイル交換ソフトウェアのインストールを厳禁する。インストールを行った場合、理学部では公に発覚した時点で、違法行為と判断する。これは、大学学則第 89 条及び大学院学則第 55 条の規定により、学生が本学の規則に背き、または学生としての本分に反する行為に該当するので、退学等を含む懲戒処分を厳格に行うこととする。

[出典：理学部揭示物]

(水準) 期待される水準を下回る。

(判断理由) 理学部長室を中心とした意思決定システムや管理運営のための組織は構築されており、規則や細則にその所掌が明記されていることで、適切に運営されている。しかしながら、学部運営上必要な所掌事項を網羅するような事務組織になってはいるが、対処すべき事務量に比べて適切な数の人員が配置されていない。特に、教務担当事務職員の不足が深刻である。今後適切な配置が望まれる。

観点 構成員(教職員及び学生)、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

理学部では様々な方法で意見やニーズを収集し、管理運営に反映させている。それらを列挙すると以下のとおりである。() は意見を収集する対象である。

- 支援企業(学外関係者) 資料Z-I-1-2-1、2
- 担任・チューター(学生) 資料A-1-1-2-16
- 学生実行委員、学生と学部長の懇談会(学生)
- 特定地域教育支援室(高校など教育機関関係者)
- 学部長ダイレクトメール「ホットライン」(学生) 資料A-I-1-2-28
- 4年生アンケート・M2アンケート(卒業生) 前掲資料A-II-2-1-3
- 理学部運営会議(講座、教員) 資料Z-I-1-2-2

収集された意見は理学部長室で検討され、意思決定に反映している。例えば、輪番制であった理学科長を選挙制に変更することで、構成員の意向を反映し、協力体制を強化した。また、委員会の所掌事項を見直して、委員会負担を軽減した。更に、学生と学部長の懇談会で提案された要望に応じて、小講義室を自修室として開放したり、理学部エントランスにレポート印刷用のパソコンとプリンターを設置したりした。(資料Z-I-1-2-4)

(中期計画番号K67～K93)



[HOME](#)

[熊本大学理学部広報委員会](#)
[サイトマップ](#)

[理学部について](#)
[カリキュラム](#)
[教育プログラム](#)
[入試情報](#)
[教職員組織表](#)
[セミナー・講演](#)
[就職情報](#)
[教職員向け資料](#)

[HOME >> 支援企業](#)

支援企業

Corporate Support

問い合わせ先 熊本大学理学部総務係 FAX:(096)342-3320

熊本大学理学部は、地域・社会のニーズに柔軟に対応し、体系的総合性を有した高度職業人の育成を目的に、平成16年度に従来の6学科制から、新たに1学科制(理学部理学科)に改組しました。これを機に、県内外の企業との双方向的な関係を密にし、寄せられた要望・助言等を教育研究の現場に反映させ、広く地域の活性化に貢献すべく、企業・団体の参加を依頼しております。



● 主な活動内容

- ・ 就職支援・インターンシップの依頼
- ・ 理学部出版物の配布、催し物の通知
- ・ 学部への要望・提言、アンケートの依頼
- ・ 共同研究・開発や専門的知識の提供
- ・ 教職員との交流

● 参加企業一覧(順不同)

<p>1. 金剛株式会社 代表者: 田中 稔彦(代表取締役社長) 住所: 860-8508 熊本市上熊本3-8-1 Tel: 096-355-1111 Fax: 096-352-0227 E-mail: kongo@kongo-corp.co.jp URL: http://www.kongo-corp.co.jp</p>	<p>2. 株式会社野田市電子 代表者: 野田 三郎(代表取締役社長) 住所: 860-0823 熊本市世安町335番地 Tel: 096-322-0167 Fax: 096-352-6003 E-mail: info@nodaichikanryo.co.jp URL: http://www.nodaichin.jp</p>
<p>3. 株式会社 RKKコンピューターサービス 代表者: 堀田 博志(代表取締役社長) 住所: 862-0976 熊本市九品寺1丁目5番11号 Tel: 096-364-5128 Fax: 096-364-5479 E-mail: jini@rkkcs.co.jp URL: http://www.rkkcs.co.jp</p>	<p>4. 五木食品株式会社 代表者: 住尾 浩二(代表取締役社長) 住所: 861-4201 熊本県下益城郡城南町坂野945 Tel: 0964-28-7000 Fax: 0964-28-7007 URL: http://www.itsukifoods.jp/</p>
<p>6. 株式会社 同仁化学研究所 代表者: 野田 栄二(代表取締役社長) 住所: 861-2202 熊本県上益城郡益城町田原2025-5 Tel: 096-286-1515 Fax: 096-286-1525 E-mail: info@dojindo.co.jp URL: http://www.dojindo.co.jp</p>	<p>5. 三菱化学メディエンス株式会社 熊本研究所 代表者: 野口 浩一(研究所長) URL: http://www.medience.co.jp</p>
<p>8. 西日本技術開発株式会社 代表者: 村島 正康(代表取締役社長) 住所: 810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1 Tel: 092-781-1403 Fax: 092-761-7292 E-mail: s-nakashima@wtec.co.jp URL: http://www.wtec.co.jp</p>	<p>7. 株式会社 地域経済センター 代表者: 松岡 泰輔(代表取締役社長) 住所: 860-0025 熊本市総屋町1-2-2 Tel: 096-359-7777 Fax: 096-326-4259 E-mail: m-sato@kumamoto-keizai.co.jp URL: http://www.kumamoto-keizai.co.jp</p>
<p>10. 化学及血清療法研究所 代表者: 宮本 誠二(理事長・所長) 住所: 860-8568 熊本市大塚1-6-1 Tel: 096-344-1211 Fax: 096-345-1345 URL: http://www.kaketsuken.or.jp</p>	<p>9. 高橋酒造株式会社 代表者: 高橋 光宏(代表取締役社長) 住所: 868-8505 人吉市合ノ原町498番地 Tel: 0966-24-5155 Fax: 0966-24-8115 E-mail: office@hakutake.co.jp URL: http://www.hakutake.co.jp</p>
<p>11. 熊本県農業協同組合中央会 代表者: 園田 俊宏(会長) 住所: 860-0842 熊本市南千反畑町 2-3 Tel: 096-328-1000 Fax: 096-311-2023 E-mail: somu@jakumachu.jp URL: http://www.ja-kumamoto.or.jp/</p>	

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/etc/support.html>

[出典: 理学部ホームページ]

130

資料 Z - I - 1 - 2 - 2 理学概論の非常勤講師一覧

理学概論非常勤講師一覧

[平成25年度]

	講師氏名	所属	部局・部署等	職名	備考
1	野田 三郎	(株)野田市電子		代表取締役社長	理学部支援企業
2	佐々本 一美	(株)同仁化学研究所		常務取締役	理学部支援企業
3	尾堂 浩一	財団法人化学及血清療法研究所	品質保証部	品質保証部長	理学部支援企業
4	門岡 良昌	富士通株式会社	ヘルスケア・文教システム事業本部 生体シミュレーション開発室 (兼)次世代テクニカルコンピューティング 開発本部	開発室長 (兼)シニアディレクター (心臓シミュレーター技術 担当)	
5	三浦 洵			熊本大学名誉教授	

[平成24年度]

	講師氏名	所属	部局・部署等	職名	備考
1	野田 三郎	(株)野田市電子		代表取締役社長	理学部支援企業
2	佐々本 一美	(株)同仁化学研究所		常務取締役	理学部支援企業
3	尾堂 浩一	財団法人化学及血清療法研究所	第一製造部第一課	第一製造部次長	理学部支援企業
4	門岡 良昌	富士通株式会社	次世代テクニカルコンピューティング開発 本部	総括部長	
5	三浦 洵			熊本大学名誉教授	

[平成23年度]

	講師氏名	所属	部局・部署等	職名	備考
1	野田 三郎	(株)野田市電子		代表取締役社長	理学部支援企業
2	佐々本 一美	(株)同仁化学研究所		常務取締役	理学部支援企業
3	尾堂 浩一	財団法人化学及血清療法研究所	第一製造部第一課	次長・一課課長兼務	理学部支援企業
4	門岡 良昌	富士通株式会社	次世代テクニカルコンピューティング開発 本部	統括部長	
5	清水 秀泰	肥後銀行	監査部監査企画G	企画役代理	

[出典：教務担当資料]

熊本大学理学部運営会議細則

(設置)

第1条 熊本大学理学部運営基本規則第3条の規定に基づき、本学部に熊本大学理学部運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 運営会議は、理学部の運営に関する重要事項、理学部の将来構想、学部戦略等学部の意思決定に関する事項の企画・立案、入学者の選考に関する事項、学生の進級・卒業及び身分異動に関する事項、予算に関する事項、施設（情報システムに関することを含む）に関する事項及び安全衛生に関すること等を審議するほか、自然科学研究科基礎科学研究領域運営会議、理学部教授会、理学部理学科会議の議題の審議・確認及び講座間の調整を行う。

(組織)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理学部長
- (2) 理学部副学部長 2人
- (3) 理学科長
- (4) 各講座主任
- (5) 教務、学生、入試、FD委員会の各委員長
- (6) 理学事務チームリーダー

(任期)

第4条 任期は、前条各号にかかる委員の当該職の任期とする。

(議長)

第5条 議長は理学部長とし、運営会議を招集する。

2 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

(議事)

第6条 運営会議は、委員の過半数の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 運営会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(開催)

第7条 運営会議は、定例運営会議又は臨時運営会議として開催する。

(意見の聴取)

第8条 議長は、必要がある場合は委員以外の者を運営会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第9条 運営会議の事務は、自然科学系事務ユニットにおいて処理する。

附 則

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年11月5日から施行する。

附 則

この細則は、平成24年4月1日から施行する。

[出典：理学部ホームページ]

資料 Z - I - 1 - 2 - 4 改善事例集

改善事項	意見やニーズを収集する対象	収集方法
輪番制であった理学科長を選挙制に変更することで、構成員の意向を反映し、協力体制を強化した	教員、講座	理学部運営会議
委員会の所掌事項の見直し。委員会は実務的な内容のみを扱うものとし、審議は運営会議や教授会で行うことで、実質的な委員会負担の大幅な軽減を行った	教員	理学科会議、理学部運営会議
小講義室を自修室として開放 レポート印刷用のパソコンとプリンターを設置 学生用に新聞閲覧コーナーの設置	学生	学生と学部長の懇談会
理学概論の講師を支援企業の役員に依頼し、職場の実際を学生に伝えている	企業	支援企業との懇談会
医療情報職など新しい就職先の開拓	企業	就職に関連した企業との面談
防犯上、1階トイレの窓の開く範囲を限定した	学生、職員	日常のコミュニケーション
学生による不適切な表現がネット上にあることへの指摘に対し、学部長室で対応した	ネットの閲覧者	ネットの閲覧者からの指摘

[出典：独自作成]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 意見収集のために多くの窓口を用意し、管理運営に反映している。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

事務職員の研修については、全学で実施されており、独自には行っていない。学部の教務及び学生支援に係る職員と学部長室とが密接に連携することにより対応している。

教職員に対する研修としては、情報セキュリティ研修(資料Z-I-1-3-1)、ハラスメント研修(資料Z-I-1-3-2)、科学研究費補助金取得のための研修(資料Z-I-1-3-3)、研究費不正使用防止のための研修など多岐にわたった研修が実施されている。特定の対象に向けた研修(情報管理者向けのセキュリティー研修など)を除いて、電子メールでの呼びかけだけでは、参加者が集まらないことがあり、適宜会議体において参加を呼びかけている。また、P2Pソフトの禁止事項については、実例も含めて理学科会議で全教員が情報を共有するとともに、非常勤教員に対しても事前に説明書を送付して協力を依頼している。

(中期計画番号K67～K93)

資料 Z-I-1-3-1 情報セキュリティ研修 (管理者向け)

情報セキュリティ研修

日時:平成25年9月19日(木) 10:30~11:30

場所:工学部2号館1階212教室

参加人数:教員4名、事務5名

[出典:教務担当資料]

資料 Z-I-1-3-2 ハラスメント研修

(4) 理学部FD講演会

実施日時:平成21年7月31日(金) 16:00~17:30

講師:広島大学ハラスメント相談室 北仲 千里 先生

講演題目:大学におけるハラスメントの被害と防止

参加者数:約50名

組織がハラスメント問題に取り組む必要性、セクシャルハラスメントの誤解されやすい点、性暴力のこれまでの状況と近年の捉え方の変化、パワー・ハラスメント(アカデミック・ハラスメント)の言葉の定義や具体的なタイプなどに関して、ご講演頂きました。例示も含めて、分かりやすい話でした。

講演の後、具体例なども含んだ質問が多くなされ、有意義なFD講演会となりました。

[出典:理学部FD委員会資料]

資料 Z-I-1-3-3 科学研究費補助金取得のための研修

理学部教員受講セミナー一覧

日時	セミナー名	講師	参加者数
H25.7.10	科研費獲得セミナー	山崎淳一郎	2
H25.9.2	若手研究者のための科研費獲得セミナー	児島将康	2
H25.12.6	サイエンスコミュニケーションセミナー	山本佳世子	1
H26.2.3	外部資金獲得セミナー	合田哲雄	2
H26.7.14	科研費獲得セミナー	檜山隆	13
H26.7.30	科研費獲得セミナー	須田年生	1
H26.10.9	日本学術振興会理事講演会	渡邊淳平	6

H21~26年 公募説明会参加者一覧

説明会	H21科研費公募説明会 (黒髪地区) 開催日 H20.9.29		H22科研費公募説明会 (黒髪地区) 開催日 H21.9.29 9.30(テレビ会議システムより中継)			H23科研費公募説明会 (黒髪地区) 開催日 H22.9.29		H24科研費公募説明会 (黒髪地区) 開催日 H23.10.3 久留米大学 児島教授セミナー		H25科研費公募説明会 (黒髪地区) 開催日 H24.10.3		H26科研費公募説明会 (黒髪地区) 開催日 H25.9.27		H27科研費公募説明会 (黒髪地区) 開催日 H26.9.25		
	参加者 人数	9/29黒髪 97	理学系 21	黒髪9/29 117	黒髪9/30 20	理学系 24	9/29黒髪 107	理学系 15	10/3黒髪 86	理学系 14	10/3黒髪 92	理学系 15	9/27黒髪 76	理学系 6	9/25黒髪 65	理学系 9

[出典:研究支援担当資料]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 職員に関しては、大学で責任をもって行われているので、問題ないと考える。教員に対しても、種々の研修が実施されており、会議体での呼びかけなど、参加者数拡大のために努力している。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

理学部の活動の活性化を目的として、根拠となる資料・データに基づき、活動の自己点検・評価を行う全学的な「組織評価」を定期的(第1回:平成19年度、第2回:平成26年度予定)に実施しており、実施後の自己評価書は、熊本大学のホームページ(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka/hyouka>)に掲載している。(中期計画番号82)

また、第1回組織評価以降も自己点検評価のために、下記のデータ収集を継続的に行っている。

- 4年生アンケート・M2アンケート(前掲資料A-Ⅱ-2-1-3)
- 授業実施報告書(資料A-I-1-1-10)
- 講座・委員会の年次報告(資料Z-Ⅱ-2-1-1)

これらのデータをもとに、独自に自己点検・評価を実施しており、理学部年報としてまとめている。

(中期計画番号K67～K93)

<p>平成 21 年度(2009 年度)活動報告</p> <p>熊本大学理学部 熊本大学大学院自然科学研究科(理学系)</p> <p>2011 年 3 月 31 日</p> <p>- 1 -</p>	<p>目次</p>																																																																			
	<table border="0"> <tr><td>平成 21 年度(2009 年度)年報の作成にあたって</td><td style="text-align: right;">4</td></tr> <tr><td>沿革と組織</td><td style="text-align: right;">5</td></tr> <tr><td>平成 21 年度(2009 年度)組織運営</td><td style="text-align: right;">8</td></tr> <tr><td>平成 21 年度学務関係行事予定表</td><td style="text-align: right;">10</td></tr> <tr><td>開講科目数</td><td style="text-align: right;">11</td></tr> <tr><td>教務委員会報告</td><td style="text-align: right;">13</td></tr> <tr><td>在学生数、卒業者数など</td><td style="text-align: right;">17</td></tr> <tr><td>学位の授与</td><td style="text-align: right;">18</td></tr> <tr><td>学生委員会報告、インターンシップ実施状況など</td><td style="text-align: right;">20</td></tr> <tr><td>学生の国際交流など</td><td style="text-align: right;">21</td></tr> <tr><td>学生の受賞</td><td style="text-align: right;">22</td></tr> <tr><td>取得資格</td><td style="text-align: right;">22</td></tr> <tr><td>入試関係(学部、大学院)</td><td style="text-align: right;">23</td></tr> <tr><td>入試委員会報告</td><td style="text-align: right;">26</td></tr> <tr><td>就職委員会報告</td><td style="text-align: right;">30</td></tr> <tr><td>就職状況</td><td style="text-align: right;">31</td></tr> <tr><td>FD 委員会報告</td><td style="text-align: right;">32</td></tr> <tr><td>国際交流</td><td style="text-align: right;">34</td></tr> <tr><td>理学系教員の研究テーマ</td><td style="text-align: right;">37</td></tr> <tr><td>平成 21 年度科研費採択状況</td><td style="text-align: right;">40</td></tr> <tr><td>受託研究、民間との共同研究、寄付金の受け入れなど</td><td style="text-align: right;">41</td></tr> <tr><td>研究成果の発表状況、受賞など</td><td style="text-align: right;">43</td></tr> <tr><td>研究プロジェクト</td><td style="text-align: right;">45</td></tr> <tr><td>教員の兼業</td><td style="text-align: right;">51</td></tr> <tr><td>公開講座、開放科目、オープンキャンパス、出張授業など</td><td style="text-align: right;">54</td></tr> <tr><td>高大連携事業推進室活動報告</td><td style="text-align: right;">56</td></tr> <tr><td>特定地域教育支援室活動報告</td><td style="text-align: right;">59</td></tr> <tr><td>広報委員会報告</td><td style="text-align: right;">61</td></tr> <tr><td>図書委員会報告</td><td style="text-align: right;">63</td></tr> <tr><td>熊本大学年報(理学部の活動状況)</td><td style="text-align: right;">64</td></tr> <tr><td>全学レベル管理運営活動(理学系)</td><td style="text-align: right;">65</td></tr> <tr><td>施設関係</td><td style="text-align: right;">66</td></tr> <tr><td>評価関係活動報告</td><td style="text-align: right;">67</td></tr> <tr><td>理学科会議の協議題・報告連絡事項</td><td style="text-align: right;">70</td></tr> </table>	平成 21 年度(2009 年度)年報の作成にあたって	4	沿革と組織	5	平成 21 年度(2009 年度)組織運営	8	平成 21 年度学務関係行事予定表	10	開講科目数	11	教務委員会報告	13	在学生数、卒業者数など	17	学位の授与	18	学生委員会報告、インターンシップ実施状況など	20	学生の国際交流など	21	学生の受賞	22	取得資格	22	入試関係(学部、大学院)	23	入試委員会報告	26	就職委員会報告	30	就職状況	31	FD 委員会報告	32	国際交流	34	理学系教員の研究テーマ	37	平成 21 年度科研費採択状況	40	受託研究、民間との共同研究、寄付金の受け入れなど	41	研究成果の発表状況、受賞など	43	研究プロジェクト	45	教員の兼業	51	公開講座、開放科目、オープンキャンパス、出張授業など	54	高大連携事業推進室活動報告	56	特定地域教育支援室活動報告	59	広報委員会報告	61	図書委員会報告	63	熊本大学年報(理学部の活動状況)	64	全学レベル管理運営活動(理学系)	65	施設関係	66	評価関係活動報告	67	理学科会議の協議題・報告連絡事項
平成 21 年度(2009 年度)年報の作成にあたって	4																																																																			
沿革と組織	5																																																																			
平成 21 年度(2009 年度)組織運営	8																																																																			
平成 21 年度学務関係行事予定表	10																																																																			
開講科目数	11																																																																			
教務委員会報告	13																																																																			
在学生数、卒業者数など	17																																																																			
学位の授与	18																																																																			
学生委員会報告、インターンシップ実施状況など	20																																																																			
学生の国際交流など	21																																																																			
学生の受賞	22																																																																			
取得資格	22																																																																			
入試関係(学部、大学院)	23																																																																			
入試委員会報告	26																																																																			
就職委員会報告	30																																																																			
就職状況	31																																																																			
FD 委員会報告	32																																																																			
国際交流	34																																																																			
理学系教員の研究テーマ	37																																																																			
平成 21 年度科研費採択状況	40																																																																			
受託研究、民間との共同研究、寄付金の受け入れなど	41																																																																			
研究成果の発表状況、受賞など	43																																																																			
研究プロジェクト	45																																																																			
教員の兼業	51																																																																			
公開講座、開放科目、オープンキャンパス、出張授業など	54																																																																			
高大連携事業推進室活動報告	56																																																																			
特定地域教育支援室活動報告	59																																																																			
広報委員会報告	61																																																																			
図書委員会報告	63																																																																			
熊本大学年報(理学部の活動状況)	64																																																																			
全学レベル管理運営活動(理学系)	65																																																																			
施設関係	66																																																																			
評価関係活動報告	67																																																																			
理学科会議の協議題・報告連絡事項	70																																																																			
	<p>- 2 -</p>																																																																			

[出典：理学部年報]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 継続して毎年実施している。特に 4 年生、M2 アンケートを毎年実施しており、どちらもほぼ 100%の回収率である。

観点 活動の状況について、外部者(当該大学の教職員以外の者)による評価が行われているか。

(観点到係る状況)

理学部では、全学的に実施される法人評価、認証評価の自己評価を実施し、法人評価は国立大学法人評価委員会(毎年度及び第 1 期：平成 21 年度、第 2 期：平成 28 年度予定)に、認証評価(第 1 回：平成 21 年度、第 2 回平成 27 年度予定)は認証評価機関に定期的に評価を受けている。また、平成 26 年度に実施する組織評価では、経営協議会で検証を行うこととなっている。

(中期計画番号 K 67～K 93)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 法人評価、認証評価を実施した。

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

前回の組織評価や自己点検等を通して明らかになった改善を要する点に関しては、学部長室が改善の方向を示し、適切な審議体において随時検討し改善してきた。例えば、

- 入試の見直し（3年時編入学、推薦入試、外国語科目の導入）（前掲資料A-I-1-1-8）
- カリキュラムの見直し（1年次科目の既習、未履修の内容について、全学共通教育への移行、卒業研究の必修化、進級要件など）（前掲資料A-I-1-2-2~4）
- 委員会組織の見直し（理学部長室の機能強化、委員会の所掌事項の明確化及び規則の整理など）（前掲資料Z-I-1-1-1）

(中期計画番号K67~K93)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) 評価結果を受けて、観点到記載したように5年間で非常に多くの改善を実施してきた。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

観点 目的(学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。)が適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点到に係る状況)

教育研究上の目的は熊本大学及び理学部のホームページで公表するとともに、理学部案内にも記載されており、広く一般に周知されている。(資料Z-Ⅲ-3-1-1)また、学生便覧、履修の手引きにも記載し構成員に周知している。

(中期計画番号K67~K93)

資料Z-Ⅲ-3-1-1 理学部の教育研究上の目的

理学部	
理学部は、自然科学に対する幅広い知識と理解、および、豊かな創造性と国際性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材を養成することを目的とします。	
学科(課程)名	目的
理学科	一学科制の特色を活かして、自然科学に対する幅広い知識と理解、および、豊かな創造性と国際性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材を養成することを目的とします。

熊本大学ホームページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki/index#rigakubu>

[出典: 熊本大学ホームページ]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 考えられる全ての方法で周知につとめており、かつ、ホームページではアクセス制限を設けていないのでいつでもどこからでも確認することができ、想定している関係者の期待に応えている。

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

入学者受入方針は熊本大学ホームページや理学部ホームページ(資料Z-Ⅲ-3-2-1)、及び、入学者選抜要項や理学部案内にも掲載し、受験生や高校生を含め広く一般に広報・周知している。

教育課程の編成・実施方針は熊本大学ホームページ(資料Z-Ⅲ-3-2-2)で広報・周知している。更に、カリキュラムの全体的な構成を理学部ホームページや学生便覧・履修の手引きにも掲載し、周知を図っている。

学位授与方針は熊本大学ホームページ(資料Z-Ⅲ-3-2-3)に、更に、学位授与方針を補完するものとして卒業までのロードマップ(資料Z-Ⅲ-3-2-5)や卒業要件単位(前掲資料A-I-1-2-2)を学生便覧に掲載して、分かりやすく周知している。

(中期計画番号K67～K93)

アドミッションポリシー

[▶ 入試情報に戻る](#)

理学部は基礎科学の府です。入学後の2年間で自然科学全般を勉強します。従来の縦割りの学科(数理科学科・物理科学科・物質化学科・地球科学科・生物科学科・環境理学科)は、自然科学の一部分を人為的に分けられた学問分野でしたが、本来、自然科学は、そのような分けの出来ない、相互に関連した領域です。自然科学を細分化できない一つの分野として認識し、基礎的な知識や考え方をしっかりと身に付けることが大切です。その後の2年間で、自己の適性に合った分野で十分な力を発揮して、才能を伸ばせるよう、一学科体制のもとできめ細かに指導します。

本学部では、数学と理科の各分野に対し幅広い興味と理解を有し、自然科学の諸課題に対し意欲的にチャレンジでき、多角的な視点から忍耐強く真理探究のできる次のような人を求めています。

1. 物事の本質を見極めたいという強い意志を持った人
2. 論理的思考ができる人
3. 豊かな感性と洞察力を有する人
4. 野外調査や長時間に及ぶ実験等に対し、忍耐強く取り組める人
5. 広い視野をもち、応用力、実践力のある人
6. わが国の理学研究の発展に貢献したいという意志をもった人
7. 複数の分野にまたがる学問領域にも失敗を恐れず果敢に挑戦できる人
8. 国際的に活躍する意欲のある人

本学部は、数学と理科に関して、以下の内容を入学時点で習得しておくことを希望します。

数学

数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B(「数列」及び「ベクトル」)及び数学C(「行列とその応用」及び「式と曲線」)について、個々の項目の内容をよく理解し、知識と技能を十分身につけておくこと。項目間のつながりを意識し、数学的思考方法を習得しておくこと。また、数学のみならず理科においても、数学的に考察し処理する能力を身につけておくこと。

理科

物理Ⅰ及びⅡ、化学Ⅰ及びⅡ、地学Ⅰ及びⅡ、生物Ⅰ及びⅡから2教科以上を習得しておくこと。
 事物や自然現象についての観察、実験などを行い、自然や科学に対する関心や探究心を高め、探究する能力と態度を身につけておくこと。基本的な概念や原理・法則を理解して、科学的な自然観を養っておくこと。

理学部 ホームページ <http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/admission/policy.html>

熊本大学 ホームページ <http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi>

[出典：ホームページ]

資料Ⅱ－Ⅲ－3－2－2 教育課程の編成・実施方針

カリキュラム編成方針

- **体系的性：**
各分野の学問体系、および、1・2年次（学士前期）に実施する共通カリキュラムを基盤に編成する。
- **段階性：**
基礎的な科目から学年進行に沿って発展的な科目を学修するよう編成している。
- **個別化（進路への対応）：**
学年に従い学修を深化させるように、授業科目を配置し、個々の履修コースの目的である将来の進路に即した科目履修を保证するよう編成している。

熊本大学ホームページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/rigakubu/rigaku>

[出典：熊本大学ホームページ]

資料Ⅱ－Ⅲ－3－2－3 学位授与方針

学位授与の方針

理学科は、学士課程教育において、一学科制の特色を活かして、理学部の学位授与の方針に挙げた人材の養成を目標とするとともに、5分野の履修コースの特性を活かして、「自然科学の特定分野への深い専門性を持ち、得られた真理を簡潔かつ多彩に表現できる人材の育成」を目指している。このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

熊本大学ホームページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/rigakubu/rigaku>

[出典：熊本大学ホームページ]

Ⅳ 理学部理学科ロードマップ

～コース修了に向けて～

理学部理学科を卒業するためには、教養教育47単位、専門教育の理学共通科目20単位、理学専門科目42単位、これらに加えて理学部の専門教育の授業科目から4単位、本学の全授業科目から11単位（一部の科目をのぞく）以上の合計124単位以上を修得する必要がある。

学位を取得するまでのロードマップ

1年次修了時まで

- ・教養教育を次の科目を含み55単位以上を修得していること。
 - 基礎セミナー 1単位
 - 情報科目 2単位
 - 必修外国語 6単位
 - 理系基礎科目 28単位（数学8単位；理科16単位；基盤実験4単位）
 - その他の科目 10単位
- ・理系基礎科目の履修にあたっては、希望するコースが別に定める卒業研究に着手するための要件となっている科目を必ず履修すること。

2年次修了時まで

- ・教養教育（基礎セミナー 1単位；情報基礎 3単位；必修外国語 8単位；理系基礎科目（数学12単位；理科16単位；基盤実験4単位）；その他の科目 11単位）の55単位以上を修得していること。
- ・専門教育の理学共通科目20単位以上を修得していること。
- ・理系基礎科目及び理学共通科目の履修にあたっては、希望するコースが別に定める卒業研究に着手するための要件となっている科目を必ず履修すること。
- ・専門教育の理学共通科目「理学概論」を極力履修すること。

3年次修了時まで

- ・専門教育の理学専門科目36単位以上を修得していること。
- ・理学専門科目の履修にあたっては、所属するコースが「履修の手引き」の中で推奨する科目を必ず履修すること。
- ・卒業に必要な単位数のうち100単位以上を修得していること。
- ・各コースが別に定める卒業研究に着手するための要件を必ず満たすこと。

4年次

- ・所属するコースの卒業研究を履修すること。

[出典：学生便覧]

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）多くの方法で周知につとめており、かつ、ホームページではアクセス制限を設けていないのでいつでもどこからでも確認することができ、想定している関係者の期待に応えている。

観点 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

（観点に係る状況）

学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項については、全学委員会である教育会議から教育情報公表のスケジュールが示され、それに従って、必要な情報の収集および作成を行い、熊本大学のホームページで公表されている。（資料 Z-III-3-3-1）

その他に、学部及び個々の教員の教育研究活動についての情報は、理学部ホームページ（<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/index-j.html>）からリンクが張られている。また、理学部通信を発行し、在学生の保護者等に送付している。

（中期計画番号 K67～K93）

教育情報の公表

◆教育組織ごと（学士課程、大学院課程、専攻科・別科）に閲覧したい場合は[こちらから](#)

1. 大学の教育研究上の目的に関すること

[【学士課程】](#) [【大学院課程】](#) [【専攻科・別科】](#)

2. 教育研究上の基本組織に関すること

学科・課程等の名称、収容定員数 [【学士課程】](#) [【大学院課程】](#) [【専攻科・別科】](#)

3. 教育組織等に関する情報

1. 教員組織について

- [全学の教育研究組織](#) [全学の管理運営体制](#)
- [教養教育の実施体制（学部共通）](#)
教育組織内の教育等に関する実施体制 [【学士課程】](#) [【大学院課程】](#) [【専攻科・別科】](#)
効果的な教育を行うため組織的な連携について [【学士課程】](#) [【大学院課程】](#)

2. 教員（専任教員）の数

- [職種、男女別](#) [【学士課程】](#) [【大学院課程】](#) [【専攻科・別科】](#)
- [年齢構成](#) [【学士課程】](#) [【大学院課程】](#) [【専攻科・別科】](#)

3. 教員の業績

- [熊本大学研究者情報（教員情報）](#) 

4. 学生に関する情報

1. [入学者に関する受け入れ方針](#) [【学士課程】](#) [【大学院課程】](#)
2. [入学者の数](#) [【学士課程】](#) [【大学院課程】](#) [【専攻科・別科】](#)
3. [収容定員数](#) [【学士課程】](#) [【大学院課程】](#) [【専攻科・別科】](#)
4. [在学する学生数](#) [【学士課程】](#) [【大学院課程・専攻科・別科】](#)
5. [卒業後の進路](#)
[（資格取得準備等を行う者数等）](#) [編入学の状況](#)

熊本大学ホームページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kyoikujoyoho>

[出典：熊本大学ホームページ]

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）全学で公表される学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項に加え、種々の方法で教育研究活動についての情報が公表されている。

分析項目VI 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

1 学年全員を収容できる教室が無いいため教育活動において大きな支障が生じている。(複数の授業科目において、2クラス開講する、離れたキャンパスで開講するなど)

理学研究の性質上、個人研究が多く教員の交代に伴う設備の整備や有効活用のための資金の調達に苦慮している。

平成16年から始まったPFI事業による改修工事は終了し、理学部1、2、3号館においては耐震構造に改修された。また、スロープや多目的トイレなど建物内のバリアフリー化は進んだが、ライフライン再生工事の大幅な遅れにより、建物間の車椅子での移動に支障をきたす状態が続いている。

時間外施設利用申請システムを導入し火災や災害に備えている。(資料Z-IV-4-1-1) 教育上必要な自修室を確保するとともに、利用時間を設定し、安全・防犯面の配慮を行っている。(前掲資料A-I-1-2-21) 平成25年秋より理学部安全週間(年2回)を設けて、理学部構成員の安全に対する意識向上を図った。(資料Z-IV-4-1-2) また更に、安全委員会の設置に向けてその所掌等を検討した

(中期計画番号K67～K93)

資料Z-IV-4-1-1 時間外施設利用申請システム

時間外施設利用申請システム

居残りをする際は、必ず2人以上で行ってください。

申請者氏名	<input type="text"/>
共同申請者氏名	<input type="text"/> (複数人の場合は“/”で区切ってください。例:熊本太郎熊大花子) 社会人学生など指導教員が認めた者は「許可者」と記載してください。
申請人数	2 (自分含め)
申請者身分	<input checked="" type="radio"/> 学部生 <input type="radio"/> 院生
指導教員	学科 <input type="text"/> 学科を選択してください。▼ 教員名 <input type="text"/>
作業場所	理学部1・2号館 ▼ 部屋名: <input type="text"/> (例:総合研究棟302)
申請者メールアドレス	<input type="text"/>
教員メールアドレス	<input type="text"/> (複数入力する場合は“/”で区切ってください)
開始日時	2014/9/25 <input type="text"/> 22 : 00 ▼
終了日時	2014/9/25 <input type="text"/> 22 : 00 ▼ 開始日・終了日はカレンダーから選択してください。
備考	<div style="border: 1px solid gray; height: 40px; width: 100%;"></div> (作業内容や、場所が複数になる場合その旨を記述してください。)

[内容確認画面へ](#)

[出典：理学部ホームページ]



[出典：理学部安全週間ポスター]

(水準) 期待される水準を下回る。

(判断理由) 大規模教室の確保とライフライン再生工事の早期終了が待たれる。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

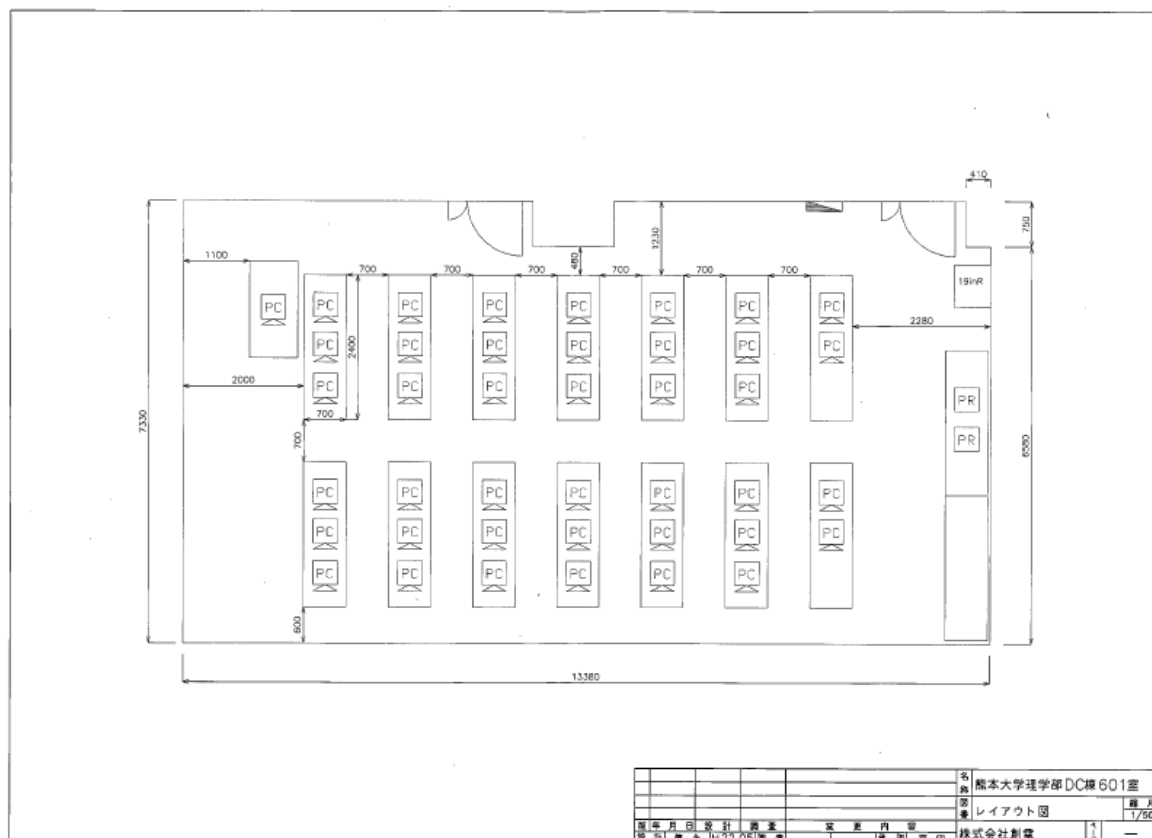
(観点に係る状況)

全学的に整備された ICT 環境を利用するためのパソコン室を一部屋だけ理学部で管理し、資料 Z-IV-4-2-1 に示すように PC を 40 台設置している。今後の課題として、最近の急激な ICT の発展にともない、従来のようなモニターを並べたパソコン室の必要性など、今後の在り方を検討する必要がある。

全学無線 LAN が講義室や廊下を除いて（アンテナから遠い化学学生実験室など）つながりにくい場所が多々あり、教育研究活動において支障がある。

(中期計画番号 K67～K93)

資料 Z-IV-4-2-1 パソコン室の配置図



[出典：教務担当資料]

(水準) 期待される水準を下回る。

(判断理由) パソコン室の有効活用及び利用形態の検討が必要である。また、全学無線 LAN の接続状態が悪く、学生や教職員の期待に十分応えられていない。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

該当せず。

(水準)

(判断理由)

観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

小講義室を自修室として提供している。データはとっていないが、頻繁に利用されている。また、自修室として利用時間の設定や教室の可視化を行い、安全・防犯面の配慮も行っている。また、3年生以上は各コースでの研究室や学生控室などが使われている。

(中期計画番号 K 67～K 93)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 学生が利用できる環境が整っており、効果的に利用されていると判断する。
安全・防犯面への配慮も行っている。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

重要な質の変化あり。

質を維持している。

意思決定を迅速に行い、教職員への教育研究以外の負担を減らすために、理学部長室を機能強化し、各種委員会の見直しを行った。また、規則を整理した。

事務組織の改革にともない、職員数と所掌事項が対応しておらず、特に教務担当に過大な負担がかかっている。

以上のような状況の中で、各教職員の努力により、第1期中期目標期間終了時点の水準を維持している。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

重要な質の変化あり。

改善、向上している。

組織評価後も毎年年報を作成し自己点検・評価を実施した。また、学部長のリーダーシップのもと、理学部長室（設置は前回の組織評価期間の最終年度）で改善すべき点を抽出し、各種委員会で改善方法を検討し適切に対応してきた。

根拠資料は各観点の中で掲載した。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。（教育情報の公表）

質を維持している。

大学に協力し法律に従って情報を公表している。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。（施設・設備）

質を維持している。

問題点は解決されていない。（1学年全員を収容する教室が無いこと）